

世々の
神の
大計画



世々の神の大計画

◆序文◆

何百万冊ものキリスト教の古典的作品『世々に渉る神の経綸』が印刷され、30か国語以上の言語で世界中に広まっている。それは何百万人もの人々に喜びと平安をもたらしてきた。私達の偉大なる創造主は、本当に愛の神であり、最終的にはこれまでに生きた男性、女性、子供達全てを祝福なさろうとご計画だ！と理解するようになったからである。

この小冊子『世々の神の大計画』は、より包括的な本『世々に渉る神の経綸』のハイライトを捉えようと尽力する。本質的には簡単だが、この小冊子は、次のような古くからの疑問の満足のいく説明へと導いている。愛の神は、何故この世に私達が見るような悪を許すのか？ 何故何千人もの人を殺す津波や地震—そして何百万人もの人を殺す戦争—が起こるのか？ 私達は何故痛みや苦悩、そして最後には死を経験しなければならないのか？ いつ「御国が来て、みこころが天に行われるとおりに地にも行われる(口語訳聖書)」のか？

「神の大計画」『ダニエル書』にある「終わりの時」(ダニエル書2:1-4)の兆候をも含む。「知識」は、人間の歴史において前例のない速度で増加しており、コンピュータ、携帯電話、宇宙探査などの脳の時代を迎えている。しかし、技術はいろいろな意味で祝福されてきたが、私達はこの原子的な時代の人間の利己主義と欲望を経験し、「建国以来決してなかったような、増え続ける苦境の時」を導いている。しかし、この苦境が、人類が歴史の幕開けから待ち焦がれていた黄金時代を迎え入れると知ることは、なんと励みになることか。神の国は、哲学者や詩人、賢者の全ての夢よりも素晴らしく、壮齢で、より包括的である。

- ◆ 平和な世界が来る(詩篇 46:9)
- ◆ 人類の欠点全ての治癒(イザヤ 35: 5, 6)
- ◆ 道徳的誠実性が全ての心に植え付けられる(エレミヤ 31:33)
- ◆ 過去の死者全てが再び蘇る(コリント第一 15:22)
- ◆ 悲しみや痛み、涙と死自体が終わる(啓示 21:4)

「人が、これまで見聞きしたことも、想像したこともないほど素晴らしいことを、神は、ご自分を愛する人々のために用意して下さった」(コリント第一 2:9)。

この小冊子をお読みになることでご利益があれば幸いである。また、この小冊子の後に無料DVDの『世々に渉る神の経綸』もお読みになることを強くお勧めする。これは調和のある局所的な研究として、聖書のあらゆる主要な教義を網羅する6つのシリーズの最初の本で、キリスト教の文学では前例のないことである。この6巻セットもDVDを無料で—又は堅表紙版を原価で手に入れることが可能である。

目次

◆ 研究1	
罪の悪夢喜ばしい朝で終えるために	4
◆ 研究2	
賢明で愛情深い神	10
◆ 研究3	
神の啓示—聖書	13
◆ 研究4	
神の計画における画期的な出来事	19
◆ 研究5	
長い間隠されていた「奥義」が、今明らかに！	24
◆ 研究6	
私達の主の再来の目的は修復すること	28
◆ 研究7	
神は何故彼の計画に悪をお許しになるのか	38
◆ 研究8	
神の裁きの日	46
◆ 研究9	
代償、贖い、そして復活	51
◆ 研究10	
天国の性質と人間の性質の区別	59
◆ 研究11	
現在広い道と狭い道—天国のハイウェイ	71
◆ 研究12	
世々の神の計画のチャート	76
◆ 研究13	
この世の王国	85
◆ 研究14	
神の王国—天と地	95
◆ 研究15	
主の日	109
◆ 研究16	
レビュー—そして責任	121

◆ 研究 1 ◆

罪の悪夢…喜ばしい朝で終えるために

神は、人類全てのための公正で愛情のある計画をお持ちで、それは人間の歴史を通して展開されている。時代を通してのこの出来事の進展を理解することは、聖書の美しい調和を認識するのに役立つ。人間を包み込む罪の暗い夜は、決して忘れられないであろう！しかし、まもなく夜明けの時代に、「義の太陽」のような救い主が癒しと祝福をもって現れるだろう。痛み、病気、死の恐怖の夜は終わる。朝の喜びは、私たちの苦しみをめく創造の涙を相殺するだけではない。「たとえ、夜通し泣き明かすことがあっても朝には喜びが訪れる詩篇 30:5)。」

もっと良い何かを待っている

神がお造りになった全てのものが、嘆き悲しんで、より良いものを待っているが、彼らは神の恵み深い目的の大きさに気づかず盲目的に暗中手探りしている(ローマ 8:19, 22)。まもなく私達の偉大な創造主の計画が、人間の最高の希望をはるかに上回るようになる(コリント第一 2: 9)。神の愛は、すべての人の偉大な実績をはるかに超えている。「わたしの思いはあなたがたの思いと同じではない。天が地より高いように、わたしの道はあなたがたの道より高く、わたしの思いはあなたがたの思いより高いからである(イザヤ 55: 8, 9)。」

『世々の神の大計画』は、人間の過去と現在、そして神が人間のために計画なさってきたことに、秩序ある説明があることを示唆している。その妥当性は、聖書に基づき探し求める読者にアピールするはずである。夜明けの「義の太陽」の光が今、そのような理解を「現実の真理」として可能にするのである(ペテロ第二 1: 12)。

現在多くの人が真の宗教の基礎としての聖書に疑問を持っている。ここでは、聖書を一貫して調和したものにするため、神の計画を聖書から説明する。それは、人の理性と正義感にアピールする計画である。神の計画は、神の正義と愛情深い性格に首尾一貫している。熱心に真実を求めるものは、このような理解を期待するかもしれない。「真実である聖霊」が私達を全ての真実に導くと約束されたからである(ヨハネ 16:13)。

真実を探す2つの方法

◆ 一つのアプローチは、キリスト教のあらゆる宗派で真実を探すことである。しかし、それは解りにくいことが多い。教えが矛盾しており、その多くが不合理に見えるからである。全てが聖書の言葉に基づいているというわけではない。多くは過去の信条にのみ基づいているだけである。

◆ もう一つの方法は、すべての偏見を無くし、従順な心で、私達に神の計画を理解するためのさまざまな助けを約束した著者の助けを借りて、神の言葉に求め行くことである(エフェソス 4: 11-16 参照)。

誰かを信頼しているからといって、その人を信じないことが重要である。私達の信仰は、現代の神学者や初期キリスト教会の教父の言葉ではなく、神の言葉に基づくものでなければいけない。タルススのサウロは、良心に省みて過ちを教えた多くの良い人々の例だった(使徒 26: 9)。真理を求める者は、伝統の濁水を空にし、神の言葉の泉で満たされなければならない。

適切な聖書研究の基礎

聖書の証拠とともに、私達は神の計画を秩序ある論理的方法で提示しようと努力した。しかし、聖書は象徴的な言葉や文脈で書かれていることが多いことを理解する必要がある。これを理解し損ねると、預言と主の来臨について今日よく話される人気のある話題が解りづらく恐ろしいものになる。預言は歴史的、そして将来の達成において理解される必要がある。私達は、預言者ではなく、預言の生徒である！

残念なことに、キリスト教徒の中には神の言葉の研究を怠り、幸福だけで誰でも救うことができる！ という者がいる。しかし、「天使達」でさえ、「福音とキリストの働きを詳しく調べたい」と切望しているのだ(ペテロ第一 1: 11, 12)。神の計画を研究することは、キリスト教徒が神の目的を理解し、神の立

場から見て一従者としてではなく、子供と相続人として将来を見据えるのに役立つ(ヘブライ 3:5, 6)。神の言葉を慎重に研究することは、私達の信仰を強め、聖霊に刺激を与える。

現代の目的

キリスト教会の多くは人類に対する神の計画に無知で、現代が世界を変える唯一の時だと思っている。しかし、20世紀近くが過ぎても彼らの目標は達成されていない。以下の表は、1900年と2008年を比較した世界の人口総数に基づく宗教の影響を示している。クリスチャンの割合が、実質的に減少していることに注意していただきたい。

悲観的だろうか？ キリスト教は失敗しているのか？ 神は世界を変えようとなさって不成功なのか？ 答えはノーに違いない！ 神の力と知恵が、神は失敗しないと私達に約束している。イエスはご自分の従者を「目撃者を全ての国へ」、献身的な克服者たちの「小さな群れ」を探しにお送りになった(マタイ 24:14、ルカ 12:32)。それが現代の福音時代の目的である。この仕事が終了すると、それから神は本当に世界を変えられるであろう。それが次の時代の目的、すなわちキリストの王国である。「御国を来たらせ、みこころの天になるごとく、地にもなさせ(マタイ 6:10)」ことである。この表は確かに悲しいイメージを示している！

宗教	1900年 世界人口 1,619,625,000	2008年 世界人口 6,706,993,152
キリスト教	34.46%	33.32%
ムスリム教	12.34%	21.01%
ヒンドゥー教	12.53%	13.26%
仏教	7.84%	5.84%
ユダヤ教	75%	23%
非宗教	8.42%	14.09%
その他	23.66%	12.25%

出典:グローバル クリスチャン リソース、ワールドファクトブック

「クリスチャン」と数えられている 33 パーセントでさえ、確かに実際のイエスの後を歩いた、聖油を塗られた者ばかりではなかった(コリント第一 1: 2)、ローマ 8: 1)。幼児や子供は、自動的に救われたキリスト教徒として数えられるのだろうか？ 何世紀にもわたる、キリスト以前の時代はどうだろうか？

『使徒行伝』:12 は次のように言っている。「この方以外には、だれによっても救われません。天下に、人がその名を呼んで救われる名は、ほかにはいません。」キリストの前に生きた何百万人も人間も永遠に滅びたのであろうか？

今日のほとんどの教会の信条は、救われていない者は、永遠に地獄に落ちた者であると教えている。まだ文字通り「焦熱地獄」を信じている人もいれば、未救済者は永遠

の拷問を受けるだろうと信じている人もいるのだ！ 救いの日は今日しかないと言っている多くの人が、世界中の宣教活動に追い込まれている。しかし、何十億もの人類が永遠に滅びているのだろうか？

神の救いの大計画は失敗ではない！

確かに今日の世界は非常に暗い！ そして、嵐の雲が垂れ込めてきている。しかし、時代の神の計画では朝が始まっている。

「見よ、夜のような暗闇が地上に住む者全部を覆うが、主の栄光があなたから輝き出る。国々の民は、あなたの光を慕って来る。力ある王たちは、その上に輝く主の栄光を見るために来る(イザヤ 60: 2, 3)。」

残念なことに、多くの人は、神のみこころの「天になるごとく、地にもなさせたまう」

ときに、神の国を探すのをやめた(マタイ 6:10)。多くの人が、更に多くの混乱を招く、教会の相反する信条によって落胆するのである。中には、自分は天国に行くには十分ではないが、自分は地獄に落ちるには良すぎる！と結論を出している人もいる。それゆえ、多くが神の計画を、役に立たないとして、諦め、または理解不可能な謎として却下してしまうのである！

過去の有徳者はあまり光がなかった

過去の有徳者の中にでさえ、私達が今日時代の終わりに持っているほどの「光」を持つものはいなかった。アブラハムは、次に挙げる約束が何を意味するか完全に理解していなかった。「あなたとあなたの子孫によって、世界中の国々が祝福される(創世記 28:14)。」天使達も預言者達も、神の計画にある将来を理解していなかった。ユダヤ人の法律とイスラエルの儀式は、イスラエルを救い、地球のすべての家族の祝福のために彼らを彼の代理人にする、偉大な救世主、キリストを指し示していた。しかし、イエス時代に神に選ばれた人々は、彼らをローマ人から救う王を期待していた。彼らは、最初に救世主が苦しみ、死ぬ必要があることを明かした聖書を見落とした。イエスは、使徒に言われた。「話しておきたいことはまだまだたくさんあります。しかし、今のあなたがたには理解できないことばかりです(ヨハネ 16:23,24)。」しかし、ペンテコステ以後、イエスがお教えになった福音のメッセージは、よりよく理解され始めた。

使徒パウロが、教多くの奥義を教会に説明した(コリント第一 15:51、エフェソス 3: 3, 4、テサロニケ第二 2: 7)。「神はこれまで何世代にもわたって、この救いの計画を秘密にしてこられました、今ついに、神を愛し、神のために生きる人々にそれを明かされました。この計画があなたがた外国人にとって、どんなに栄光に満ちたものであるかを知らせたいと思われたのです。その計画とは『あなたがたの心の中に住むキリストこそ、栄光にあずかる唯一の希望である』ということです(コロサイ 1:26)。」これはまだ殆どの人にとっては「謎」である。イエスの教会は「キリスト」の一部であり、福音時代の後に世界を祝福する、聖別されたものである！

使徒たちが眠りに落ちた後(マタイ 13:25)、敵のサタンは偽のクリスチャンを産み出す種―「雑草」―を蒔いた。教会の男達が権力を握った。神の言葉は脇に置かれ、聖書の教えが人間の教えに置き換えられた。

プロテスタントの宗教改革は、聖書の権威に戻ろうとする大胆な試みだった。神は、ウィクリフやルター、その他の男性を、神の言葉の勇敢なチャンピオンとしてお使いになった。しかしプロテスタントは、概して光の中を歩くことに関して殆ど進歩しなかった。それぞれのプロテスタント教会は、光が輝くとき、真実と一緒に進歩するのではなく、真実への道で止まり、自分たちの好みの指導者まで行くだけだった。今日、多くの人が逆戻りしているのだ！

明るくなる真実の道

「暗闇が地上に住む者全部を覆う(イザヤ 60:2)」というのは本当である。しかし、いつもそうだというわけではない！ 多くの人が罪と死の「獄屋」で「闇に座っている(イザヤ書 42: 7)」。しかし、私達は、時代の終わりが近づくにつれ、それが次の時代の始まりを意味するにすぎないと確信している。一千年の日に、「義の太陽」が「暗闇の隠されたものを明るくする(コリント第一 4:5)」。それは致命的な悪の闇を払拭し、人生、健康、平和と喜びをもたらす。「暗闇の中に座る」だけでなく、広がっていく神の光の中を歩くことを望む人々は、その道が益々明るくなっていくのがわかるだろう。

そのようにして神は私達を招待なさる。「主は言われる、さあ、われわれは互に論じよう(イザヤ書 1:18)。」「光は神を敬う者のために種のように蒔かれる(詩編 97: 11)」真理。聖書は、義の道の灯りのようなものである。「あなたのおことばは、つまづかないように道を照らしてくれる明かりです(詩篇 119:15)」聖書が、これまで全く開けられなかったかのように開かれ、教会を真理に導いている。過去を説明するだけでなく、将来への明かりが広まっている。

朝が始まろうとしている！

多くの人々が今混乱し、信仰心がないとしても、私達は「暗闇の中に座る」必要はない。私達は、聖書の光で理解の道を進むことができる。従って、「真理」として説明される全てのものは、聖書に基づいていなければ

ならない。聖書の預言は今日かつてないように満たされている。それは、聖書そのものが真実であると証明している！「こうして私は、預言のことばが現実となるのを目のあたりにしました。そのことばは、暗い部屋をすみずみまで照らし出す明かりのようで、難解なまま、暗闇の中に置かれている多くのことがらに光をあて、理解させてくれるものです。そして、あなたがたのたましいに夜明けの光が差し込み、明けの明星であるキリストが心を照らしてくださるので(ペテロ第二 1:19)。」

使徒パウロは、実際に将来を見る幻想に巻き込まれた。しかし、彼はそれに関して話すことを許可(コリント第二 12:4)されなかった。初期の教会にとってさえも、話す時ではないか、「適切な時間」(マタイ 24:45)ではなかった。それから、使徒ヨハネは、「すぐにも起るべきこと(啓示 1: 1)」、イエス・キリストの啓示の全てを見聞きた。象徴的な言語で、使徒はキリスト教時代全体を、初めから劇的な最期まで見た。七つ頭の獣から、キリストの花嫁まで—バビロンから新しいエルサレムへ—啓示は他の聖書の助けによって解釈されるのである。

朝の喜びは、最初にキリスト・イエスの忠実な信者に来る。より多くの光が今、教会の歴史の中のいつの時代よりもあふれている。神の王国では真理の光がすべての人類に広がる。「イエスと教会は残りの人類に命を与え、罪の夜の時間を終わらせる。」「聖霊と花嫁は『来てください』言っています。これを聞く人々は、同じように『来てください』

と言いなさい。渇いている人(求めている人) だで受けなさい(啓示 22:17)。』
は、だれでも来なさい。そして、命の水をた

◆ 研究 2 ◆

賢明で愛情深い神

神の存在はどのようにして知ることができるのだろうか？ 宇宙と地上の人々はたまたま生じたのだろうか？ 私達に賢明な創造主がいるという良い証拠は何であろうか？ どのような根拠が示唆されているか見てみよう。望遠鏡で宇宙を、—または顕微鏡の下で植物の葉を見るだけでよい。晴れた夜の星空を見て、空の美しさ、秩序、多様性、そして巨大さに畏敬の念を催さないでいられる人がいるだろうか？ 顕微鏡下の葉は、特殊構造の全体の生産場である細胞を見せる。さらには、順繰りにプロトン、中性子、電子から構成され、より小さな原子核粒子でさえも含まれる原子からなる分子の全宇宙がある。すべての植物、花、星が知的な創造主の知恵と力に共鳴する。自然の調和の素晴らしい法則は単なる偶然から来ることはできない。自然の全てが、賢明な立法者を主に明白に証言している。

創世記「種類」の定着

全ての動植物の品種は知性なしで形成されている—「自然淘汰」、「適者生存」—進化の法則によって発達したと主張されている。しかし、結果は有能な原因によって引き起こさなければならないことは自明である。現場で発見された時計がちょうど知性なしに存在したと言うのは科学的だろうか？ それが次第に進化したと？ 確かに、

歌を歌えるカエルや、人間に似ているサルがいる。しかしカエルは鳥にならないし、サルは人間にはならない。

気候と食糧は適応に影響するかもしれない。蛾やカエルの異なる変化を生み出すことが可能だが、それでもやはり蛾やカエルである！ しかし、創世記に記述されているように、派生は常に「種類にしたがって(創世記 1:25)」である。神はおそらく、プードルやボクサーを一匹一匹お創りになったのではなく単に犬という種類を創ったのだ。北アメリカだけでも、10,500 種の蛾が認識されている。ある種類内での変異が出現する可能性はあるが、それぞれの創造された「種類」はそれぞれ固定されている。

真の科学は観察可能な事実に基づく

ダーウィンの「進化論」の 1 世紀半後、科学は依然として観察の独自ルールによる理論を主張していない！ 実際、1980 年代依頼、科学者の中でインテリジェント デザインの概念が発展している。人類と自然には、実に驚くべきデザインがあり、その背後には知的なデザイナーが存在しなければならない。

例えば、半世紀前に、人間の生物学的コーディングが発見された。それは DNA と呼ばれる。この複雑でかつ化学的な「ブル

「ブループリント」は、個体を一意的に定義する人体内の約 100 兆個の細胞の各々に複製されている。各細胞には「ブループリント」、または化学の「アルファベット」言語があり、身体の動作においてその特定の機能を定義する。『詩篇』39:14 が断言するように、「こんなにも複雑かつ緻密に仕上げてくださった」のである。

進化：化石が否定している！

最も初期の化石の証拠はカンブリア紀前の岩石層に見られる。化石の証拠は、単細胞の藻類からなる。それから上記の次の階層では、突然、455 種類の複雑な無脊椎動物の種類が、全く中間形態なしで現れる。同様に、化石の証拠が、恐竜は世界中の大災害によって絶滅したことを示している。しかし、次の岩石層は、今日私達が見るような完全に新しい形の哺乳類動物の生活を示している。中間生物は、漸進的な進化を示す可能性のある化石一つも発見されていない。進化の過程における数十億という連鎖が欠けている。

ジャワ・マンやピルトダウン・マンのような、歴史的に考えられていた男性の骸骨は、実際にはほんの少数の骨片から再構成された。その後、より詳細な調査の結果、それぞれの断片の一部が異なる時代から採取されたことが判明した。一つの有名な例「ネブラスカ マン」は、たった一本の歯を基に再構成された。多くの研究と調査の後、それは野生の豚の歯であることが認められたのだ！ 科学者は、発見された岩石

層で化石の年代を定めることが多い—それからその中に見つかった化石によって岩層の年代を定める。

化石の年代測定法(炭素-14 やカリウム—アルゴンのような)は、確実に信頼されることはできない。両方とも週種類の仮定に基づいており、これらが世界中の洪水のような破壊的な出来事に大きく変更されていないという証拠はない。

私達の地球にはユニークな特権がある

科学者達は、太陽からの距離が命にとって決定的に重要だという。空気中の酸素、窒素、二酸化炭素のバランスは、私達の地球にとってユニークである。豊富な水も、地球上の私たちの複雑な生活のためには、明らかにユニークで不可欠である。月は地球の軸の角度を安定させ、私たちに温暖な季節を与える。この全ては、意図、設計、計画、および考えを表している。ソーラーシステムから複雑な人間の目に至るまで、創造主の知恵と力は明確である！ 「世界が創造されてからこのかた、人々は、天地や、神がお造りになったすべてのものを見て、神の存在とその偉大な永遠の力をはっきり知っていました。ですから、彼らには弁解の余地がありません(ローマ 1:20)。」

創造主は知りたいという願望を植え付けた

命は「原始スープ」から自発的に出現したのではない。何千もの重要な連結が正確

に同じ時刻に起こって、最も簡単なセルを形成しなければならなかったであろうという事実は、素晴らしい命の種類は無から出たのではなかったであろうという反駁できない証拠である。私達は、知的な設計者である創造主が存在すると結論せざるを得ないのだ！ 神の知恵は人間のものよりも遥かに優れている。「わたしは世界を造り、その上に住む人間を造った。自分の手で天を引き伸ばし、無数の星に命令した(イザヤ 45:12、)。」天の美しさからバラの美しさ、または子供に対する母親の切実な愛に、私達は創造主の愛を見る。確かに彼の愛は、私達のものよりも遥かに優れているに違いない - 彼の知恵、正義と力と同

様に。

神はまた、私達に宇宙を理解しようとする願望を植え付けた。私達がどこから来たのか、どこに行くのか、私達の運命は何かを理解したい。知りたいという願望を私達に植え込んで、愛情のある創造者は、これらの願望に対する答えを私達に明らかにしなかったのだろうか？

それなら、神の公正で愛情ある性格と一致する計画を聖書の中に探そう。自然の中で観察されるように、自分自身の内外に、私たちは自信をもって理性を満たす神の計画を見つけることを期待すべきである。

◆ 研究 3 ◆

神の啓示—聖書

聖書は文明と自由の光明だった。ユダヤ—キリスト教の聖書は、宗教思想だけでなく、政治、法律、教育、文学、文化を形作ってきた。私達は、矛盾する信条の眼鏡を通して聖書を見てきたが、聖書は人類に歴史上の他の本にないような影響を及ぼしてきた。聖書は、西洋文明の基本となるアイデアと規則の基盤である。聖書の道徳的影響は一貫して良好だった。神についての他の書物は何かの利益をもたらしたかもしれないが、しかし聖書はかつて他の本にはないような希望と平和をもたらした。

聖書のメッセージは、その支持者達にでさえ、かなり不正確に伝えられた。時には人は象徴的な言葉を間違って文字通りに取ることがある。聖書がそれ自身の通訳であるため、聖書を全体として理解する必要がある。多くの知恵と真実の宝石が表面にあるが、その最も豊かな財宝はその表面下にある。聖書に徹底して取り組んだ人は、壮齡な美しさで明らかになる神の性格と計画を発見する。

聖書の目的は素晴らしく、調和のとれた公正なものであり—かつて生きた全ての人の永遠の命の機会を提示している。創造主の神からの啓示という聖書の主張は、思慮深く正直な調査を行う価値がある。

現存する中で最も保存状態の良い本

聖書は存在する中で、まさに最も古い本の一つである。それは 30 世紀以上もの嵐を乗り越えてきた。人類は可能な限りのあらゆる手段を用いてそれを追放しようと努めてきた。時には、聖書を所有することを死刑に相当する犯罪とした。聖書が宗教改革の間に聖職者の手から奪い取られると、腕を差し伸ばした一般人の手中に収まった。この動きは世界に根本的な衝撃を与えた。今日多くの敵が死に眠る間、聖書は全ての国へと入りこんだ。聖書は 438 語—その一部は 2000 語以上に翻訳された。聖書の著者は、その保護者でもあった。考古学的なものは未だ発見されていない。それどころか、今日考古学は聖書の歴史を検証し続ける。死海文書には、2000 年前のヘブライ語聖書の一部が含まれ、テキストの完全性さえも裏付けている。ダン北部で発掘された石碑には、「ダビデの家」と記述がある。聖書の古代の力としてのヒッタイトへの言及は、長い間嘲笑されていたが、今日そのような人々の存在に関する証拠が豊富にある。今日ギリシャ新約聖書の 3,300 の番号が付けられた手稿が知られており、ヘブライ語の旧約聖書にはそれに匹敵する数(さらに 227 種類の死海文書)

があり、10,000以上の数のラテン語やその他の古代版がある。

著者の動悸

聖書の66巻は、少なくとも3つの大陸で書かれ、4000年以上の歴史を含んでいる。聖書は、王、農民、哲学者、漁師、詩人、政治家、そして学者といった、あらゆる職業の著者によって書かれた。モーセはエジプトの大学で訓練された政治指導者だった。アモスは牧夫、ヨシュアは軍の将軍、ルカは医者、ダニエルは首相、ソロモンは王、マタイは取税人、パウロはユダヤ人のパリサイ派で弁護士だった。

靈感を受けたこれらの著者の動悸は何だったのか？ 彼らは純粋で、彼らの目的は高尚だったに違いない。彼らの正直さが、彼ら自身の欠点さえも明らかにしている。ダビデ王は、惨めな謙虚さをもって自分の罪を告白した(詩篇 51)。エリヤは、落胆し弱気になって、「わたしは先祖にまさる者ではありません(列王第一 19:4)」と叫んだ。エレミヤは、もはや神の言葉を語りたくないと思えたが、燃えるような熱意を消すことはできなかった(エレミヤ書 20:9)。パウロは、自分がかつて教会の迫害者であったことを公然と嘆いた(コリント第一 15:9)。

どのような動機が使徒達にイエスの目的を促進する気にさせるのか？ 彼の民族は彼を非難した。冒涇と反逆の罪に問われ死亡した。新約聖書の著者達は、侮辱と苦しい迫害に立ち向かい、命を危険にさら

した—その殆どが殉教者として死んだ。完全性と正直な信念だけがそのような献身を説明している。

聖書のテーマ—ナザレのイエス

旧約聖書の文書は—エデンの園から、歴史、律法、預言者を通して—全て新約聖書の救世主を指している。系図は、「地のもろもろの国民(創世記 28:14)」を祝福すると約束されたアブラハムの約束された子孫に遡(創世記 22:17,18)る。この「子孫」は聖書のイサク、ヤコブ、ユダ、ダビデの王の一行を通し、マリアに至るまで辿ることができる(ルカ 3:23-38)。これらの歴史の記録は、主イエスの証言で、確かに神、聖書の著者に導かれたものである。

聖書は、荒野での彼の誘惑から、犯罪者としての十字架に至るまで、墓からの復活を成し遂げた、イエスの役割と働きを詳述している。それは救い主がまず苦しまねばならず、それから栄光に入ることを説明した(イザヤ 53:12、ルカ 24:26)。聖書は、キリストが「御国がきますように。みこころが天に行われるとおりに、地にも行われますように(マタイ 6:10)」と述べている。それは、キリストが再来なさるとき、「聖なる預言者たちの口をとおして、昔から預言しておられた」「万物更新の時」をもたらすことを語っている(使徒 3:21)。聖書は、イエスが再臨なさり、その王国をお建てになるという兆しさえも記録している(マタイ 24:1-3)。

最初に法の規約—それから 新しい規約

神がイスラエルと結んだ法的規約は、人の取り扱いにおける平等の法則に対する時代の遺跡だった。その法則を要約した十戒は、依然として顕著な崇拜と倫理の規範である。イエスは、法律を要約なさった。『心をつくし、精神をつくし、思いをつくし、力をつくして、主なるあなたの神を愛せよ』第二はこれである、『自分を愛するようにあなたの隣人を愛せよ』これより大事なましめは、ほかにない(マルコ 12:30-31)。」この法律の道徳的卓越性は、その起源、全ての創造物の父に対する証である。

カナン国の民を滅ぼさせるという、しばしば誤解されるイスラエル人への命令(申命記 7:1、2)さえ、うまく説明できる。『エンファサイズド バイブル』の 259 ページで、ロザハムはカナン諸国の破壊を再検討する際、犯罪のひどい性質を念頭に置くことが最も重要である。…彼らの礼拝でさえ、極めてふしだらで、大変不快で残酷だった。…彼らの聖地は売春宿だった。…貪欲な神々は残酷で人間の血で崇拜されることを要求した。…(彼らは)自分達の息子や娘を犠牲にした」と言っている。

神自身、以前ソドムとゴモラを滅ぼした。「わたしがよしと見たように(創世記 19:20-28、エゼキエル 16:49,50)」。そうすることで、神は洪水の時に世のために行ったように、下降する悪の渦を妨害した(創世記 6:11-13)。カナン人も同じである(ヨシュア 9,10; 10:40-43、創世記 15:16 参照)。彼らが

罪に落ちることを止めることで、それらの人々は復活する際、劣化しにくく、泥沼から上向きに進むことができ、正しい道に戻ることができるだろう。

彼ら全て—ソドム、カナン、さらには背教者のサマリアと不道德なユダも甦り、悔い改められ、赦されるだろう(エゼキエル 16:53)。

「しかしわたしはあなたの若き日に、あなたと結んだ契約を覚え、永遠の(新)契約をあなたと立てる。わたしがあなたの姉および妹(ソドムとサマリヤ)を受け、またあなたとの(旧)契約によらずに、娘として彼らをあなたに与える時、あなたは自分のおこないを思い出して恥じる。わたしはあなたと契約を立て、あなたはわたしが主であることを知るようになる(エゼキエル 16:53、60-62)。」

旧約聖書の律法契約は、神が「更にすぐれたいけにえ」、そしてより良い仲介者として設立し、全ての人々に贖罪をもたらす先の「新しい契約」を指しているのである(ヘブライ 9:23、12:24; エレミヤ 31:31 - 34)!!

モーセの律法の政府

モーセの律法は、その時代に独特で進歩した政府と社会に対する、顕著な法律を与えた。しかし、人間の不完全さのために、その法は守られなかった。それにもかかわらず、それが表明した基準には高尚な影響力があった。

モーセによって制定された政府は、それが創造主自身からであると主張している点で、

古代の政府でも現代の政府でも他の全ての政府と異なっていた。人々は神に対して責任を負っていた。イスラエルは幕屋と寺院の司祭職を持っていたが、司祭たちには社会的権力が与えられていなかった。法律がたくらみ深い司祭の単なる発明なら、きっと事実はそうではなかつただろう。

ある意味で、イスラエルの政府は、民主主義と共和国として一神の法律のもとに創設された。神はモーセに、部族を代表する長老たちを連れてきて、国の事務を務めるのを手伝うように命じた(民数記 11:16、申命記 1:15-17)。この政府形態は、自由の精神を奨励するために計画されたのである。

この共和国政府の形態は 400 年以上続いた。それから長老たちは周囲の国のようになりたがった。彼らは預言者サムエルを王にしようと押した。サムエルは国民に彼らの権利と自由がどう無視されるか話したが、国民はそれを主張し続けた。それで神はサムエルに言われた。「民が、すべてあなたに言う所の声聞き従いなさい。…彼らが捨てるのはあなたではなく、わたしを捨てて、彼らの上にわたしが王であることを認めないのである(サムエル第一 8:5-10)。」警告されたように、殆どのイスラエルとユダの王達は不道徳だった—そして人々は苦しんだ。だが神は彼らを見捨てなかつた。

保護のための公正な法律

律法契約の下では、貧しい人々を保護する法律があった。共通レベルでの民法前

の貧富に対するこの説明責任は、私達の 21 世紀においてさえもユニークである。法律は没収された土地の還付のために 50 年毎彼らの祝祭年に与えられた(レビ記 25: 9,13-23,27- 30)。これは、借金のために家族が不動産を永久喪失することを防いだ。

律法契約に基づいたその他の顕著な規定は次の通りであった。

- ◆ 融資に対する過度の利益に対する保護(出エジプト記 22:25; レビ記 25:36、37)。
- ◆ 寡婦と孤児は虐げられなかつた(出エジプト記 22:22)。
- ◆ 手助けの為に雇用された者は、迫害されなかつた(レビ記 19:13、申命記 24:14)。
- ◆ 外国人の権利が保証されていた(出エジプト記 12:49; レビ記 19:33、34)。
- ◆ 動物には食べ物と安静が保証されている(申命記 25:4; 出エジプト記 23:12)。

これら全ての法律は、神によって考案され—利己的な目的の野心的な司祭によるものではなかつた。実に、レビの司祭部族は、他の部族のように土地の分け前を受けていなかった。彼らには、様々な部族に散らばる特定の都市や村が住居用にあるだけだった(民数記 35 :1-8)。司祭が人々から受け取るようになっていた 10 分の 1 税でさえ、自由意志によるものだった(民数記 18:22-28)。

未来の聖書の予言

「予言」という言葉は公開説明を意味する。

預言者の神からのメッセージは、しばしば罪に対する叱責と来るべき罰だった。また、彼らのメッセージに織り込まれたものは、悔い改めて改心すれば、祝福の約束だった。通常、神の預言者たちは民間に普及しておらず、エリヤ、イザヤ、エレミヤのように、彼らの生活は危険にさらされていた。それにもかかわらず、彼らは忠実に神の不評なメッセージを伝え、それは靈感によって聖書に記録された。

聖書の多くの預言者は大衆の教師であるだけでなく、未来を予測した。聖書は、神聖だと名乗る他の本に例がないほど、その預言が独特である。イスラム教徒にはコーランがあり、仏教徒にはトリピタカ、ヒンドゥー教徒にはヴェーダとウパニシャッドがある—それもみな預言の成就という意義深い証拠に欠けている。

イエスの預言と時代の終わりの予言

新約聖書と新約聖書を結びつけると、来たる救世主に関して、文字通り何百という予言が、イエスの最初の降臨中に成就した。イエスはベツレヘムでお生まれになる(ミカ 5:2、マタイ 2:1-2)。「子羊」のように彼は傷も汚れもなく、骨は折れていない(出エジプト記 12:5,46; ヨハネ 19:31-36; ペテロ第一 1:19)。彼は親しい友人に裏切られる(詩編 41:9; 『ヨハネの福音書』 13:18)。彼は「犯罪者に教えこまれた(イザヤ 53:12、マタイ 27:38)。これとは対照的に、イスラム教は、モハメド誕生前の何世紀にもわたる彼に関する預言を指し示

すことはできない。

イエスの復帰と時代の終わりに関する聖書の他の預言は、私達の目前で明白に成就している。古い秩序の終結とキリストの王国の始まりは、前代未聞の悩みの時に来ることになっていた(ダニエル 12:1、マタイ 24:21,22)。これは私たちが2つの世界大戦や地球上の命を全滅させることが可能な原子兵器の開発に見てきた。預言的には、最終的な大災害であるアルマゲドンが差し迫っている。しかし、時代の終わりは、ダニエルの「国民」、イスラエル人が王国の準備に再集結する時でもある(ダニエル 12:1)。イスラエルは「葉を出す」「イチジクの木のようになるであろう(エレミヤ 24:5,6; マタイ 24:32)。例えば、18世紀後に私達は1878年に始まったユダヤ人の彼らの土地への帰還、1897年以降のシオニスト運動、1917年のバルフォア宣言、1948年のイスラエル国の再建を見ている。しかし、再集会と共に、預言はそれが「苦しみ」を伴うことを示している(エレミヤ 30:3-7)。

聖書の一つの共通テーマ

一つ共通の思考が、法律、詩篇、預言者、新約聖書(ルカ 24:44)に織り込まれている。一つの計画、目標、目的が聖書全体に浸透している。対照的な聖書の最初の3章と最後の3章の調和は特に印象的である。

創世記	啓示
天地創造 (2:7)	創造物の復元 (21:3, 4, 24)
サタンと悪の出場 (3:1-4)	サタンの破壊 (20:10)
アダムとイブに呪い (6,17)	呪いの終わり (22:3)
死罰 (2:17)	全ての人々に命 (22:17)

聖書のみが、現在の悪の世界の原因、その唯一の救済手段、そして人類の最終的な素晴らしい運命の合理的で調和のとれた発言をしている。しかし、罪のために、神との和解は命の犠牲だけがもたらすことができた。人類のための救世主の死の必要性は、神がアベルによって与えられた子羊、イサクの供え物、そして幕屋と寺院の全ての犠牲を受け入れたことから実証された。アダムが完全な状態で試みられたように、神の正義は罪のために完全な犠牲を必要とした。それで神は、「すべての人のあがないとしてご自身をささげられたが、それは、定められた時になされたあかしにほかならない(ヨハネ3:16; テモテ第一2:5,6)。その犠牲に基づいて、神は全世界を祝福なさる。聖書は、神の計画を、女性の「子孫」が蛇を押しつぶすという初期の陳述から展開する(創世記3:15)。パウロは、「子孫」がキリスト・イエスとその教会であると認識している(ガラテヤ3:16,29)。

後に神は、アブラハムに祝福が彼を通し

でもたらせると約束なさった。「また地のもろもろの国民はあなたの子孫によって祝福を得るであろう。あなたがわたしの言葉に従ったからである(創世記22:18)」。彼は、彼の子孫が「天国の星」のようになる同時に「海岸にある砂」のようになる(創世記22:17)と言われた。「天の星」は、天国でキリストと共に統治する天族階級を適切に表している。彼らは「海岸にある砂」として表現された世界全体を祝福する「王と司祭」になるであろう(啓示1:6; 5:10; 20:6)。

この本の後続の研究は、神の計画が、いつ、どのように地球のすべての家族を祝福するのかについての驚くべき詳細を明らかにする。「御国がきますように。みこころが天に行われるとおりに、地にも行われますように(マタイ6:10)」としばしば祈った祈りが成就する時が来るであろう。

神、聖書の著者

最高の知的な創造主がいること知って、理性は、彼の知的創造の計画と目的を明らかにすることを要求する。聖書がその啓示であると主張している。聖書の証言を考えると、その証言を考えると、私たちは、その規模、深みと調和が、全能の神-人間ではなく-が、聖書の著者であると納得することができる。神の計画の長さ、幅、高さ、そして論理が展開するにつれ、私達は神が、今まで生きた全ての男性、女性、子供達に人生、健康、幸福の機会を与える、真に愛情に満ちた創造主であることがわかるのである。

◆ 研究 4 ◆

神の計画における、時代の画期的出来事

大都市の通りを歩いていて、騒がしい発破、塵の飛散、破片の積み重なった、隔離された場所を見ていると想像してみてください。もし私達がフェンスの穴を覗いたら「なんて散らかりようだ！ このプロジェクトを計画した人は何しているかわかっていないのだ！」と叫ぶかもしれない。しかし待ってください！ 建築家を彼の未完成の仕事で判断するのは公正だろうか？ 決してそうではない！

多くの人が、最も優れた建築家の仕事を誤解している。今日の世界の混乱を見ると、私達が見ているのは、うまく設計された未完成の計画の塵や残骸である。現在の悪の許可は、決して忘れられない学習経験として設計されている。神の完成した計画は、これまでに生きた全ての男性、女性、子供を祝福するのである。「わたしは終りの事を初めから告げ、まだなされない事を昔から告げて言う、『わたしの計りごとはず成り、わが目的をことごとくなし遂げる』(イザヤ 46:10)」。どれほど人類との神のやり取りが神秘的、または無計画に見えても、神の不変の計画は着実に前進しているの

である。

3つの偉大な時代

世界の大部分が暗闇の中で手探りし、未来に絶望する一方、神の民は、進路を明るくする聖書の「ランプ」を持っている(詩編 119:105)。聖書の光によって、偉大な建築家の目的が、過去から現在まで、そして人類の素晴らしい未来へと移行しているのがわかる。使徒ペテロ及び使徒パウロは、それぞれ「世界」と呼ばれる3つの画期的な時代を特定している。

聖書では、天地創造から洪水への最初の時代は、「その時の世界(ペテロ第二 3:6; ヘブライ 2:5)」と呼ばれている。

第二の時代は、洪水から神の王国の確立に至るまで、「この世の王子」サタンの制限された支配下にある。これは「この現世の悪の世界(ペテロ第二 3:7; ガラテヤ 1:4)」と呼ばれる。

第三の時代は、神の管理下にある「終わりなき世界(イザヤ 45:17)」、神の王国である。それば来るべき世界と呼ばれ、そこには「正義が宿る」(ヘブライ 2:5; ペテロ第二 3:13)。

天地創造

洪水

神の王国設立

「その時の世界」

「この現代の悪の世界」

来るべき世界

第二世界と第三世界はお互いに強く対照的である。二番目の時代は「現在の悪の世界」と呼ばれる。そこに良いものが存在しないからではなく、悪が支配するからである。サタンはこの世の神(コリント第二 4:4)である。「今われわれは高ぶる者を、祝福された者と思う。悪を行う者は栄えるばかりでなく、神を試みても罰せられない(マラキ 3:15)」。「正義が宿る世界」では、イエスが支配者で、その背面は真実である。それから「義人は繁栄(詩編 72:7)」して、「悪人は断ち切られる(詩編 37:9)」。しかし、悪の破壊は漸進的で、最初の千年間全てを必要とする。

サタン、現在の悪の世界の支配者

サタンは「この世の神」であるため、殆どの人間の心を盲目にする(コリント第二 4:4)。イエスは、はっきりと「わたしの国はこの世のものではない(ヨハネ 18:36)」と言われた。実際、彼は弟子たちに将来の時のために祈るようにお教えになった。「御国がきますように。みこころが天に行われるとおりに、地にも行われますように(マタイ 6:10)」。

なぜ神の王国は延期されたように見えるのか？ 一つの理由は、神の王国でキリストと共同相続人となる(啓示 5:10) イエスの信者を啓発し、試す時間を許すためである(エフェソス 2:2, 6:12, 13)。この選ばれた民のクラスが完成すると、サタンは束縛される(啓示 20:1-3)。この世の王国から私たちの主の王国への移行は、平和の前の一般的な問題の時になる(啓示 11:15-18、マ

ルコ 3:23-27)。

3つの世界—同じ地球

聖書は3つの「世界」、すなわち世代について話しているが、これらは全て文字通り私達の地上で起こる。「地球は永遠に変わらない(伝道の書 1:4)」それではなぜ、ペテロは「火と熱」の中で「天と地」の両方が破壊されていると言うのだろうか(ペテロ第二 3:7,10)。

ペテロは、文字通りの火が物理的な空と地球を燃やすと話しているのではない。霊的支配権、人間政府、社会的取り決めの破壊を指しているのである。最初の「世界」が洪水で崩壊したが、地球はまだ残っていた(ペテロ第二 3:6)。破壊されたのは邪悪な社会だったのだ。サタンの支配の現在の「天」は、キリストの聖霊的なルールである「新しい天」に道を譲るだろう。「主の日(マラキ 4:1,5)」にサタンの王国が滅ぼされた後、社会の古い秩序は地球上の神の公正で愛情のある、平和な王国に置き換えられるのである。

使徒パウロは、ビジョンを与えられた—大変現実的だった—ので、視覚的なのか、肉体的なのか、彼には分らなかった。彼はキリストのすばらしい王国支配を見た「第三の天に拘束された(コリント第二 12:2-4)」。パウロは「第三の天まであげられ(コリント第二 12:2-4)」、そこでキリストの素晴らしい王国が支配するのを見た。同様に、使徒ヨハネは象徴的なビジョン、「新しい天と新しい地(啓示 21:1,2)」としてのキリスト

の王国を見た。新しい支配権威は、「新しいエルサレム」として表される。社会の修復は素晴らしいだろう！「もはや、死もなく、悲しみも、叫びも、痛みもない。先のが、すでに過ぎ去ったからである(啓示 21:4)。」

世界の内側の時代

最初の世界は分割されていなかったが、第二と第三の世界は細分された。アダムの墮落から洪水まで、神は人類が罪と不従順の結果を十分に経験することができるよう、自分の墮落の悪の道に従うことを許した。人間の思考がいつも悪いことばかり(創世記 6:5)」だけだった。しかし、神は慈悲深く、洪水で介入して、さらなる劣化を防止した。神は、最終的には「失われたものを救い」、人の心を正しいものに変える、修復計画をお持ちである(ルカ 19:10)。

現在の悪の世界—三つの時代

現在の悪の世界(「今ある世界」)には3つの時代があり、それぞれが悪の打倒に進んでいる。

族長時代は、これらの3つの時代の最初の時代である。その間、神はノア、アブラハム、イサク、ヤコブのような信仰の父のみと対応していた(ヘブライ 11)。

ユダヤ時代は「今ある世界」の第二期である。その時代はヤコブが死亡した時に始まり、神が特定の目的のために他の国々から切り離れた「イスラエルの十二部族」として子孫を残された(創世記 49:28)。エジプト

脱出後、神はイスラエルと契約を結び、彼らに神の律法と特別な祝福をお与えになった。神は彼らに幕屋をお与えになり、その後、キリストの犠牲を予示する犠牲が与えられた寺院をお与えになった。このユダヤ時代の終わりに、神は息子イエスをイスラエルにお送りになった。「わたしは、イスラエルの家の失われた羊以外の者には、つかわされていない(マタイ 15:24)。」しかし、小さな残党だけがイエスを受け入れた。国家として、イスラエルは彼を拒絶した。イスラエル国民の好意は、イエスが磔刑の5日前に、「見よ、おまえたちの家は見捨てられてしまう(マタイ 23:38)」と言われた時に終わったのである。

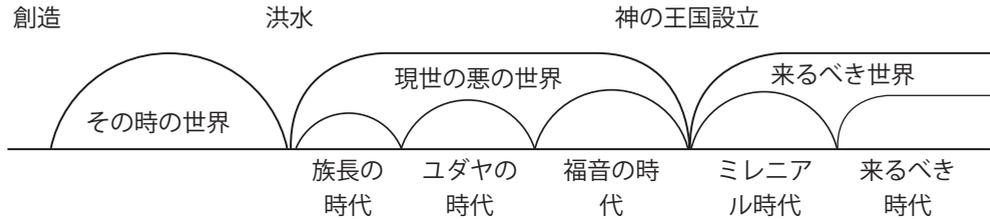
福音時代、つまりキリスト時代は第三の時代である。それはキリストの「贖い」の犠牲(テモテ第一 2:6,2、テモテ第二 1:10)によって全ての国のために救いの道を開いたイエスの死で始まった。福音のメッセージは、今ではほぼ20世紀近くに渡わたって伝えられ、地球上の殆ど全ての言語で出版されている。しかし、この時代の目的は世界を転向させることではなく、それからキリスト王国でキリストと共同相続人となる「小さな群れ」を集めることである(ルカ 12:32)。彼らは、キリストと共に、次の時代に天から地上の「王と祭司」として支配し、世の残りの全てを祝福するだろう(啓示 5:10; 20:6)。

来るべき世界の支配者イエス

「来るべき世界」では、最初の千年(ミレニ

アル時代)のみが聖書に定義されている。聖書はこの時代を、「贖いの時代(すなわち、喪失した時の回復の時)」と呼んでいる。それは、キリストの二番目の降臨から始まる

移行の時に始まる(使徒 3:21)。この千年紀の始まりに、サタンが束縛されることになっている(啓示 20:1-3)。悪は後退し、正義が支配するであろう。



この間に全ての人類は次第と死の眠りから目覚めるだろう。あらゆる助けが天の「小さな群れ」によって与えられ、人類の性格を愛情のある従順な神の息子に変えるだろう。彼らは、更生の必要に応じて、愛情ある手で指導され、導かれ、訓練されるだろう。彼らの性格を変え、最終テストに合格する人は、地球上で永遠の命を受けるであろう(啓示 20:7-9)。それは幸福と限りない祝福の人生になる(イザヤ 25:68)。何と素晴らしい可能性だろう! 「来る時代」には、すべての涙が拭き取られる。そして、それ以降、「死はなく、悲しみも涙もない(啓示 21:1-4)。」 ついに神の王国が地上に完全に確立されるのである! そして「みこころが天に行われるとおり、地にも行われますように(マタイ 6:10)」という父の願いに対する主イエスの祈りが、完全に答えられるのである!

「真理を正しく分類」

これらの偉大な期間はどれも長すぎたり短

すぎたりすることはないのである! 彼らは鎖の輪のようなもので、それぞれに成し遂げるべき役割があり、神の計画の発展の完了に必要である。私達が偉大な建築家の計画の一部分だけに焦点を当てると、不明瞭で失敗のように見えるかもしれない。しかし、神の計画は徐々に進んでおり、代々繰り広げられている。神の知恵と力は、無限に神の意志を達成することができる。神の計画を正しく理解するには、聖書を研究する際、「真理の言葉を正しく分類(テモテ第二 2:15)」しなければならない。一つの時代に当てはまることは、他の時代には当てはまらないかもしれない。例えば、現在、地球は「水が海をおおっているように、主を知る知識が地に満ちる(イザヤ 11:9)」とは言えない。また、誰もが神を知っているとは言えない(エレミヤ 31:34)。これらの約束は、ミレニアル時代—そしてそれ以降—のものである。何世紀にもわたる共通の間違ひは、現在が地上の神の王国の時代であるという信念である。その考えは真

実からほど遠い！ この世界の政府は、抑
圧、不正、偽りに支持されている。サタン
は依然として「この世界の王子」である。ま

だ 神の民は、神の王国が「神のみこころが
天に行われるとおりに、地にも行われる」時を、
祈りながら待ち望んでいるのである。

「次のことを考えてみよう。完璧な思い出の瞬間、決して過ちのない判断、失敗の可能性のない永遠の計画を立てる知恵、時代の正確で誤りの無い計画が来る時、生き物であれ無生物であれ、対向する全ての要素でさえも利用できて、そして彼の壮大なデザインを達成するためにそれらを全て一緒に働かせる力と技術、それは決して終わらず、決して眠らない目と常に開いた耳を持つ普遍的支配の、差し迫った配慮からの救済を求めない、その幅広い領域の全ての必要性を常に認識し、すべての利益の中で活発にしている絶え間ない注意力」

◆ 研究 5 ◆

長い間隠されていた「奥義」が、今明らかに！

「その言の奥義は、代々にわたってこの世から隠されていたが、ついに神の聖徒たちに明らかにされたのである(コロサイ 1:26)。」

悪が罪の結果として人類を支配したが、神は人類の命と幸福を取り戻すため救世主を約束なさった。しかし、神がご自分の計画への手がかりを多くお与えになったにも関わらず、その手掛かりは何千年の間不明瞭で理解しにくく、謎のままであった。アダムとイブがエデンの園から追放された時、神は(致命的に)女の子孫(イエスキリスト)が蛇の頭を「を踏み砕き」、蛇(悪魔、サタン)は彼のかかとかみつくだであろうと約束された(創世記 3:15)。成就した証拠がないまま2000年近くの歳月が過ぎた。それから神はアブラハムをお呼びになり、「あなたの子孫によって、地のすべての国々は祝福を受けるようになる。あなたがわたしの声に聞き従ったからである」と約束された(創世記 22:17、18)。しかし、アブラハムの後継人アイザックは死に、それからアイザックの息子ヤコブが死んだ。しかし、ヤコブの死後、彼の子孫「イスラエルの12部族」が呼ばれ、「神聖」で「地のおもてのすべての民のうちから」「選ばれた」人々となった(創世記 49:28、申命記 14:2、歴代第

一 16:16、17)。

奥義の手がかり

エジプトで奴隷として仕えた後、イスラエルはやっと偉大な指導者で立法者であるモーセを送られた。また、奥義に関するもう一つの手がかり——神がイスラエルからモーセのような特別な「預言者」ひとりの預言者をあなたのために起されるであろうということ——をお与えになった(申命記 18:15、使徒 3:22)。しかし、主の僕モーセは死んだ。そしてヨシュア——彼の名前は「救世主」を意味する——が、規約によって約束された土地を征服した(申命記 34:4、5)。しかしヨシュアが死んで、ダビデ王とソロモン王の時代になるまで、国家は目立たなくなった。悲しいことに、国家は二つに分裂し、その後貢物を要求する様々な外国勢力から侵略を受けた。とうとうバビロンはエルサレムと神殿を破壊した。これらは後に再建されたが、土地はペルシャ、ギリシャ——そして最後にはローマの支配下にあった。イエスの時代のころ、民衆は彼らを祝福す

る救世主を「待ち望んでいた(ルカ 3:15)。」イスラエルはついには「諸々の国びとの光」となり、彼らの城壁は「救い」と呼ばれるだろう(イザヤ 42:6, 60:18)。不幸なことに、彼らは法の他の預言と特徴を見落とし、「キリストの苦しみとそれに続く栄光をあらかじめ証した(ペテロ第一 1:11)」のである。

救いと祝福は、「神の子羊」が殺され、償いの日が遂行された後にのみ来るであろう(ヨハネ 1:29)。イエスが亡くなったとき、彼の信奉者達さえも困惑した。「わたしたちは、イスラエルを救うのはこの人であろうと、望みをかけていました(ルカ 24:21)。」彼らの望みは正しかったが、「時[と]場合」はまだ知られてはならないことになっていた(使徒 1:6, 7)。

ペンテコステ後の理解

イエスは彼の使徒に 譬をもって教え、「世の初めから隠されていることを語り出そう(マタイ 13:35)」と話されていた。彼の使徒はまだ完全な真実を担うことができなかったので、真実は部分的にこれらの譬に隠されていた。しかしイエスは、彼らに聖霊が「あなたがたにすべてのことを教え、わたしが話しておいたことを、みな思い出させてくださる(ヨハネ 14:26, 14:12, 13)」と約束された。この悟りはペンテコステに起こった。ペンテコステの後の何年かして、奥義——ユダヤ人だけでなく、異邦人もまたキリストの花嫁の一部なるために呼ばれること——がより明確になった。使徒ジェームズは、この異邦人の中からの呼び出しについて

語った。

「シメオン[ペテロ]は、神が最初どのようにして異邦人を訪ねて、彼の名[花嫁]のために異邦人から民衆を連れて行ったかを言明した。そしてこれは、預言者の言葉どおりになるためだった。次のように書かれているからである。「この後[異邦人の中から民衆が連れ出された後]、わたしは帰ってきて、倒れたダビデの幕屋を建てかえ、くずれた箇所を修理し、それを立て直そう(使徒 15:14 - 16)。」

残存者がイスラエルから選ばれた後、神はまず異邦人の中から特別な「民」をお選びになり、天の花嫁を完成なさる。その後神はイスラエルを修復なさり、神が約束された地上の王国を確立なさるのである。

隠された奥義が解釈される

しかし、「奥義」を明確に見極めたのは使徒パウロだった。「その言の奥義は、代々にわたってこの世から隠されていたが、今や神の聖徒たちに明らかにされた。神は彼らに、異邦人の受けるべきこの奥義が、いかに栄光に富んだものであるかを、知らせようとされた。この奥義は、あなたがたのうちにおられるキリストであり、栄光の望みである(コロサイ 1:26-27)。」

「あなたがたのうちにおられるキリストであり、栄光の望み」それが、キリストが王国を確立する前に、はじめに選ばれたクラスを集め、彼と支配するという奥義である。

キリストという言葉は、「聖油を塗られた(聖別を受けた、選ばれた)者」という意味である。

イエスは彼の洗礼の際、聖霊によって聖別され、献身的なクリスチャンは同じ聖別を受ける。「いつもあなたがたの内には、御子から注がれた油がある(ヨハネ第一 2:27、コリント第二 1:21)。」

旧約聖書の中では聖別は王や司祭の任命に用いられた(レビ記 6:20、サムエル第二 5:3)。真の教会は「王と司祭」であることもある。彼らはキリストと共に統治し、世界を神に戻すであろう(啓示 1:6、5:10)。したがって、教会は「王なる司祭」である(ペテロ第一 2:9)。彼らがこの奉仕の準備をするために受ける油注油は、旧約聖書にあるような文字通りの油ではなく、主イエスのように神の霊である。

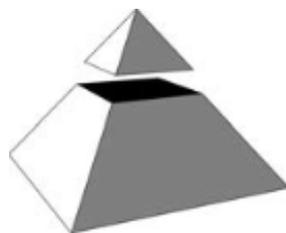
聖油を塗られた者には多くのメンバーがいる

使徒パウロはさらに、聖油を塗られた者—キリスト—には多くのメンバーが含まれるという「奥義」を説明している。「あなたがたはキリストのからだであり、一人一人がその肢体である(コリント第一 12:27)。「私たちは彼のからだであり、肉体であり、骨であり…これは偉大な奥義である。実は、わたしはキリストと召会について言っているのである(エフェソス 5:30-32)。」

イエスが「第一の地位を占めておられる(コロサイ 1:18)。」彼が体の頭である。彼が約束された「子」で、地上の全ての家族を祝福される(ガラテヤ 3:16)。しかし、私たちはキリストに加わるならそれに含まれる。「キリストのものとなった今、私たちはほんと

うの意味でアブラハムの子孫であり、アブラハムに与えられた神の約束を相続した(ガラテヤ 3:29)。」

教会の頭としてのイエスのもう一つ概念はピラミッドである。「最も重要な礎石(エフェソス 2:20)」がひとつあるからである。イエスは「生ける石」と呼ばれ、「生ける石」として私達は彼のもとに「聖なる祭司」を「建て上げる(ペテロ第一 1:17 2:4-6)」。私達の偉大なる大工の棟梁は、多くの打撃と大変磨きがかけれ、イエスに従って私達の人格を形成なさるのである。



神が世界のためだけでなく、多くのメンバーからなる救い主を起こしになるという奥義は、前兆や寓話、謎合せに隠されていた。多くのクリスチャンでさえこの奥義を理解していない。私達の「高潔な天職」の目的は、単に私達自身が祝福されているというだけでなく、アブラハムの子孫の一部としての地上の全ての家族を祝福することである。

使徒パウロは、アブラハムがエホバの一種であり、サラは約束の契約の一種、イサクはキリストの一種(頭と身体)だと説明した。そして彼はこう付け加えた。「兄弟たちよ。あなたがたも私も、イサクのように、約束の子である(ガラテヤ 4:22-28)。」しかし「新

しく造られたもの」——そして「世の君」——だがこの奥義が理解できるのである！

「むしろ、わたしたちが語るのは、隠された奥義としての神の知恵である。それは神が、わたしたちの受ける栄光のために、世の始まらぬ先から、あらかじめ定めておかれたものである。この世の支配者たちのうちで、この知恵を知っていた者は、ひとりもいなかった。もし知っていたなら、栄光の主を十字架につけはしなかったであろう（コリント第一 2:7,8）。」

実際、奥義は隠されている必要があった。そうでなければイエス——私達の贖い金——は決して十字架に架けられることはなかっただろう。また、また、イエスの信者の試練と苦しみは、彼らが本当は誰かを彼らが知っていたら、あり得なかったであろう（ヨハネ第一 3:1）。イエスが何故、王位を受け入れる代わりに自分自身を殺させたかは、世界にとって謎だった。使徒達とその仲間が何故、福音を宣べ伝えるために、自分たちのビジネスと世俗的な快適さを離れたかは謎だった。実際、それが理由で師匠の足跡をたどった者は「キリストのゆえに愚かな者（コリント第一 4:10）」と呼ばれた。

神の計画は必ずしも謎ではない！

ミレニアル時代の夜明けは、より満ちた光

をもたらす。「翼に癒す力」を備えて昇る「正義の太陽」が、暗闇を払拭する（マラキ 4:2）。被造物全体が何かを期待し、待っている——しかし、何を待っているのか知らない。実際彼らは奥義が完成するのを待っているのである。

「被造物は、実に、切なる思いで神の子たちの出現を待ち望んでいる（ローマ 8:19, コロサイ 3:4）。」

神が聖霊を神の愛する「僕たち」に注ぎ終えたら、「彼はそれから『すべての肉なる者』に注ぐ（ヨエル 2:28）。その後「人はみな神の救を見るであろう（ルカ 3:5-6）。キリスト教時代の終わりに、（象徴的な）トランプの響きの中で、神の計画の秘密の特徴が知らされ、「神の奥義」——キリスト教会——その計画の本質——は成就される（啓示 10:7）。そして、神の輝かしい目的の全てが全ての人々にはっきり見えるだろう。ついには、世界はもはやキリスト教徒の「小さな群れ」を狂っているとか、愚かな者として見ることはなくなるだろう。「御霊と花嫁がきたりませ」と彼らは「花嫁」の栄光と世界に流れる生命の祝福に喜ぶだろう（啓示 22:17）。

◆ 研究 6 ◆

主の再来の目的は私達の修復

「それは、主のみ前から慰めの時がきて、あなたがたのためにあらかじめ定めてあったキリストなるイエスを、神がつかわして下さるためである。このイエスは、神が聖なる預言者たちの口をとおして、昔から預言しておられた万物更新の時まで、天にとどめておかれねばならなかった(使徒 3: 20-21)」。聖書は明確にイエスの再来だけでなく、彼の復帰の仕方や時間の目的をお教える。イエスは、「見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである」(マタイ 28:20)と仰った。しかし、彼はまた、「そして、行って、…またきて、あなたがたをわたしのところに迎えよう(ヨハネ 14:3)」とも言われた。確かに、イエスは時代を通して教会と共におられ、聖霊と言葉によって聖徒の指導、慰め、励まされた。しかし、彼はまた私的な再来を約束なさった。イエスの再来がペンテコステでの聖霊の降下を指していたと考える人もいる。彼がエルサレムの破壊について話したと思う人もいる。しかし、ペンテコステの 60 年後とエルサレムの破壊から 26 年後、イエスはこの出来事を未来のものと約束なさった。「見よ、わたしはすぐに来る。」これに対し、使徒ヨハネが答えた。「アーメン、主イエスよ、きたりませ(啓示 22:12,20)。」

ミレニアムにおける世界の転換

一部の人は、主の実際の帰還を期待しているが、—まだ先のことである—教会がまず世界を変えなければならないと考えている。他の人は、罪人が改宗するたびに、それがキリストの再来の一部であると信じている。そして、世界が全て改宗すると、イエスは完全に來るであろう。

しかし、聖書の本の多くは、主の再臨の時代には、世界が神に改宗することからはほ

ど遠いことを示している。『ルカの福音書』21:35 は、イエスの再来と王国についてこのように語っている。「思いがけないとき、その日がわなのようにあなたがたを捕えることがないように、よく注意していなさい。その日は地の全面に住むすべての人に臨むのであるから。』『テモテへの手紙Ⅱ』3:1-4 で、使徒パウロは、「終りの時には、…人々は…神よりも快樂を愛する者」と言っている。『啓示』1:7 では、キリストの再来時代には、「地上の諸族はみな、彼のゆえに胸

を打って嘆くであろう」と言っている。

明らかに、世界はキリストが再来したときに改宗されるのではない。それどころか、聖書は、キリストが世界を変える目的で世界の改宗の前に来ることを教えているのである！ 現在教会は、将来の約束の王国で世界を祝福することを、イエスと分かち合うために試されている。「彼らは生きかえって、キリストと共に千年の間支配した(啓示 20:4、3:21)。」

目撃者として諸国に送られた福音

世界が最初に改宗することを期待する人々は、『マタイによる福音書』24:14「そしてこの御国の福音は、すべての民に対してあかしをするために、全世界に宣べ伝えられるであろう。そしてそれから最後が来るのである。」を挙げる。しかし、世界への「目撃者」は世界の転換を保証するものではない。聖書は1800年代に地上の「全ての国」に達したが、世界は改宗されていない。使徒ヤコブは、私達に現在の時代の仕事は教会のクラス、「御名を負う民」の天命だと言っている(使徒 15:14)。その後、次の時代に世界の改宗変容が起こるであろう。別の異議は『詩篇』110:1、「わたしがあなたのもろもろの敵をあなたの足台とするまで、わたしの右に座せよ」と、まるでイエスが全ての敵が彼のために鎮圧されるのを待ちながら、天のある物質的な玉座に座っているかのように引用している。しかし、2～7節は、主イエスが積極的に敵を征服するのをはっきりと示している。神の片腕

という位置は、神が「万物をご自身に従わせる」ために与えられた権威を象徴している(ピリピ 3:21)。

大統領や首相が、自分のために行動する「右腕となる人」を持てるように、イエスは神の「右手」にいる。彼は来る時に「力ある者の右に座し」、そしてミレニアル時代時代の間—そして永遠に、そこにとどまっていたマタイ 26:64)。

最初と二度目の来臨の目的

イエスの第一の出現と第二の出現は一つの計画の一部である。最初の来臨の目的は、世界を贖うための「贖い」を提供することであった(テモテ第一 2:6)。第二の出現の目的は、その贖いによって贖われた民族を起こし、修復させることである。二つの来臨間の長い暫定は、サタンが支配し続けることを許され、選出された「花嫁」クラスをテストし、証明するために使われてきた。この仕事が終わると、サタンの影響力は取り除かれ、イエスはその花嫁とともに、地の全ての家族に命を与える。

一旦身代わりの価格が支払われると、使徒達が最初に期待したように、すぐに世界の復活が始まっただろう(使徒 1:6)。しかし、キリストの統治は、ここ20世紀によって彼の苦しみから離れ、彼の教会が彼と共に彼の王国で統治するために準備された。

もし神が聖徒たちのためにこの特別な使命を計画していなければ、イエスの最初の来臨は起こらず、イエスは2度目の来臨を運命づけられていた時に来られただろう。

神は悪の許可に 6000 年、そして清めと救済のために 7000 年を計画された。全人類と世界の祝福との間の期間は、世界を祝福するため、キリストと統治するために「共同相続人」を選ぶだけの長さすぎない。全民のための贖いと全民の祝福の間の期間は、世界を祝福するためキリストと統治する「共同相続人」を選ぶのに十分長い。

従ってイエスが昇天されると、「万物更新の時まで」地をお去りになった(使徒 3:21)。イエスが再臨した時には、改心からはほど遠く、諸国民は「怒り狂っていた(啓示 11:18)」。これは神が世界を改心させることに失敗されたことを意味するのではない。神がまだ世界を改心させようとしていないことを意味するのである。彼がそうなる時、ミレニウム時代の間は、世界は確実に改心することになるだろう。「このように、わが口から出る言葉も、むなしくわたしに帰らない。わたしの喜ぶところの事をなし、わたしが命じ送った事を果す(イザヤ 55:11)。」いくつかの教会は、神が彼の教会を選ぶ以上のことは何もしないと主張しているが、教会の召集は、世界を取り戻す第一歩にすぎない。聖書は教会がキリストと共に君臨し、全ての国を祝福すると伝えている(啓示 3:21、ダニエル 7:27、創世記 22:18、ガラテヤ 3:8,29)。

選挙と無償の恩寵

何世紀もの間、キリスト教徒は、神の選びと無償の恩寵の題目に分かれていた。実際、どちらも聖書の中で教えられているため、

どちらも真実のはずであるが、「真理の言葉を正しく教えよ(テモテ第二 2:15)」と以外、和解は不可能である。神の時代計画と時代を通じてのその操作を正しく理解することで、これら二つの文書を調和させることができる。神の選びは、過去と現在の時代に適用される。無償の恩寵はミレニウムに適用される。

選挙は恣意的ではなく、宿命的でもない。神の選びまたは選択は、彼の目的に対する適性と適応能力に基づいている。アブラハムは選出された。なぜなら、彼は信仰の人だったからである。神は彼の系列「地上の全ての家族(創世記 12:2,3)」が祝福されるとお決めになった。この恵みは、イサクとヤコブに渡され、イスラエルの国にも渡された。「地のもろもろのやからのうちで、わたしはただ、あなたがただけを知った(アモス 3:2)。」

この神の選びには多くの特権があったが、責任もあった。イスラエルはエジプトから救われ、敵から守られ、彼らのために奇跡が行われ、天から律法が与えられた。彼らが不従順だった時は、干ばつや飢饉、敵の捕虜にされたりして罰せられた。イエスが来られた時、福音の祝福は、最初は彼らだけのものだった(マタイ 15:24)。

彼らは祝福を拒否したため、神の恵みから捨てられ、福音は異邦人に伝達された。それでも、メッセージは地球の全ての国々に同様に伝わってはいない。福音は聞く人全てに無償だが、世界のいくつかの部分では他の場所よりも好まれているようで

ある。現在この時代終わりに、福音はどこでも真実に飢えた人々に伝わっている。

次の時代ではそれは異なるであろう。神の恵みは誰にでも自由に与えられるだろう。地上の全ての男性、女性、子供に永遠の命の機会が与えられるだろう。過去の年時代の死者さえも、その声を聞くために蘇られるだろう。「墓の中にいる者たちがみな神の子の声を聞き、それぞれ出てくる(ヨハネ 5:28,29、イザヤ 35:10)。」女性の子孫が蛇の頭を打ち砕く(挫折させる)という、エデンでの神の約束は、キリストとその教会によって成就されるであろう。「平和の神は、サタンをすみやかにあなたがたの足の下に踏み砕くであろう(ローマ 16:20、創世記 3:15)。」今、人々はより良い日を待ちながら嘆いているが、彼らは何を求めているのか知らない。パウロは、「被造物は、実に、切なる思いで神の子たちの出現を待ち望んでいる(ローマ 8:22,19)」と説明している。

処女の花嫁クラスの教会が完全に発展し完成した時、彼女はキリストと共に高められる(コリント第二 11:2、啓示 19:7、21:9)。それから、二番目のアダムとイブ、すなわちイエスとその花嫁が、聖霊によって世界中に命を与える。「かわいている者はここに来るがよい。いのちの水がほしい者は、価なしにそれを受けるがよい(啓示 22:17)。」

イエスの信仰による義認

人口参考局は、この地上で 1000 億人を超える人間が生きてきたと推定している。

今日の人口のたった 3 分の 1 ほどが、キリスト教徒だと自称している—そして過去数世紀にはさらに減少しているのだ。これは、大多数がイエスを信じることなく死んだことを意味する。彼らは永遠に失われているのだろうか？ 全てのキリスト教の識者は、神の公正で愛情のある性格と一貫したこの質問に対する合理的な答えがあることを願っている。次のような様々な意見がある。

聖定論: 殆どの人は救われるように選ばれていない。彼らは永久の拷問の地獄に行く。

無知: イエスを信じることなく、良い人は永遠に天国へ行くかもしれない。

無神論: 死後の世界はない。また、誰も再び生きることもない。多くの親切なクリスチャンは、無知で死ぬ人々さえ、何とか救われると信じているようである。神がそれほど愛情深いなら、どうしてそれほど多くの人々が失われるのだろうか？ しかし、聖書は明らかに救いを信仰と結びつけている。

◆「あなたがたの救われたのは、実に、恵みにより信仰によるのであるエフェソス 2:8)」

◆「主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます(使徒 6:3)。」

◆「主の御名を呼び求める者は、すべて救われる(ローマ 10:13)。」

◆「聞いたことのない者を、どうして信じることがあるのか(ローマ 10:14)。」

だから、キリストの知識と受け入れは、永遠の救いを達成するために必要であり、これは神の計画が提供するものである。イエス

がアダムと彼の全ての人種のために死んだので、世界はミレニウム時代に生まれ変わり、キリストを知るようになる(テモテ第一2:4)。その後、改革と神への従順によって、彼らは永遠の命を獲得することができるのである。

良心は救いには不十分

良心の光がキリストを知らない人々を救うかもしれないと論争する人がいるかもしれない。この考え方は、異邦人が「自分自身の法律である(ローマ 2:14)」というパールのコメントに基づいている。しかし、パールのポイントは、良心によって正当化されるのではなく、異邦人は良心によって非難されるということである。人々はしばしば自分自身の良心の光さえも犯す(ローマ 3:19; 7:18,19)。

制定法を持っていたイスラエルさえ、それによって正当化されたというより、むしろそれによって非難された。「律法を行うことによっては、すべての人間は神の前に義とせられない(ローマ 3:20)。」イスラエル人が「律法をことごとく守ったとしても、その一つの点にでも落ち度があれば、全体を犯したことになる(ヤコブ 2:10)。」パウロは、罪と死から唯一可能な釈放は、私たちに代わってキリストの犠牲によるものだと私達に示している。経験が「ユダヤ人と異邦人の両方を…全て罪の下にあると証明した。次のように書かれている。義人はいない、ひとりもない…すべての人は迷い出た(ローマ 3:9-12)」。従って聖書は希望の一

つを除く全ての扉を閉じ、立派な仕事によって永遠の命を確保する者は一人もないこと、また無知も同様に無益であることを示している。

もし無知が救いの根拠だったら、なぜ布教活動の仕事に費用とお金と労働を費やすのだろうか？ そうではない。無知は救いをもたらさない。今救いを求める者はキリストに来なければならない。生きている者と死んでいる者の世界の大半に関しては、彼らの時代はミレニウムになるであろう。その時には、全ての人が、神とイエスが彼らのために捧げた犠牲を聞知するであろう。彼らの救い主を受け入れ、そして「聖なる道(イザヤ』35:8)」を歩むことによって、永遠の命をできるのである。

人間の運命は定められていない

カルビン主義は、人はそれぞれ救われるか失われるか、予め運命づけられていると教えている。ことによると、これは本当だろうか？ 聖書によると、福音は「すべての人に大きな喜びをもたらす良い知らせ(ルカ 2:10)」である。確かに、これは悪い知らせのメッセージではなく、回避不能の有罪判決でもない。使徒たちは、自分達の努力は何一つ変えないと気付かずに、福音を無駄に伝えたのだろうか？ 乳幼児として死亡した者、そして永遠の命に運命づけられていない人は永遠に失われるのか？ そうではない。神はもっと良い方法をお持ちである。

聖書は、いくつかの救いの方法—イエスの

信仰によるもの、無知によるもの、運命に定められたものなどがあるとは教えていない。救いの道はただ一つである。私たちの罪のためにイエスが死んだことを信じることである。「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない(ヨハネ 14:6)。」

福音は本当に良い知らせである。それは本当に「全ての人」のためにある(『ルカ 2:10』)。キリストは全ての人のために死んだ(テモテ第一 2:5,6; ヘブライ 2:9; ローマ 5:18)。彼の死の恩恵は、救いの2つの時代にもたらされる。つまり教会、「キリストの花嫁」の呼びかけのための現在の福音時代、そして残りのすべての人類の修復のためのミレニアル時代である。その時代の間、全世界が、神とそのために死んだ息子イエスを知るだろう。従順になる者は永遠に生きるのである。

万人のための贖い

彼の心の中に僅かの愛や情がある人は、何十億人もの仲間の運命を心配するだろう。神は愛の本質である(ヨハネ 4:8)。彼はもっと深刻に心配されないだろうか？ 彼らの幸福をご計画ではないだろうか？ そうするだろう——そしてそのように行われたのである。

神は彼らのために自分の御子を捧げるほどの世界を愛しておられた(ヨハネ 3:16)。これは、神が確実に誰もがこれを最も納得いく方法で知るようになさったことを強く説

明している。彼らは神が彼らのためにしたことを信じて受け入れることができるだろう。これはキリストの王国で達成される。サタンは束縛され、死者が甦り、真理は世界的になるであろう(ハバクク 2:14)。

『ヨハネの福音書』1:9 では、イエスを「すべての人を照すまことの光」だと言っている。これは誇張だったのだろうか？ パウロは、イエスが自分に「すべての人のあがないとしてご自身をささげられたテモテ第一 2:5,6」と言った。彼は誇張して話したのだろうか？ 天使は羊飼いに、「すべての民に与えられる大きな喜びを、あなたがたに伝える」(『ルカによる福音書』2:10)と言った。これは誇張だったのだろうか？

誇張ではない。これらの栄光ある約束は、全てキリスト・イエスにおいて「しかり…アーメン(コリント第二 1:20)」である。彼は「すべての人のために」、そしてすべての女性、そしてすべての子供のために死んだのである(ヘブライ 2:9)。この時代が終わると、世界は神の喜びの朝がどれほど素晴らしいかを見るであろう(詩編 30:5)。

「贖い」(「対応価格」、ヤングの用語索引)はイエスが払った価格——彼自身の命——である。イエスはアダムに課された死の罰を受け入れた(ローマ 5:18,19)。その結果、アダムとすべてのアダムの子供たちは罰から解放することができるのである。その解放を世界に適用する神の計画は、ミレニウム時代である。そしてイエス・キリストを通して、神は正義の政治を確立し、サタンの欺瞞的影響を取り除き(啓示 20:3)、正義

の中で世界を訓練するであろう。
それから、「全ての人」には「全ての人のための贖い」に感謝する機会—及び責任—がある。神が初めにアダムとイブに永遠の命を申し出たように、すべての人が永遠の命を受けることができるかもしれない。従順であることが、再びミレニアムの終わりに命を獲得する全ての人が合格しなくてはならない試練になる(啓示 20:79)。

最初の真の機会

人が死ぬと、「陰府には、わざも、計略も、知識も、知恵もない(伝道の書 9:10)。」『伝道の書』11:3 はまた、「その木は倒れた所に横たわる」と言っている。復活の時、人は死んだときと同じように戻ってくるであろう。それからイエスを通して、神が義の知識と理解に導かれる。神は「(ご意志は、)あらゆる人が救われて、真理の正確な知識に至ることすべての人を救い、真理を知ることになること(テモテ第一 2:4)」であろう。

聖油で清められた教会は、贖いの「最初の果実」である。教会員全員が栄光に満ちて復活するとき、キリストの国が確立される。それから世界の残りの部分が復活する。全てがアダムあって死んでいるように、彼らはキリストにあって生かされるのである。しかし、それぞれが自分の順序で、つまり、キリスト[頭と身体]が最初の果物、その後、キリストの[自分の尊い血で買う権利によって]来る[主の来臨に際してキリストに属する]人々である(コリント第一』15:22,23)。

父アダムは不従順によって、自分自身と、未だ生まれてもいない全ての子供たちの命、祝福そして神との交わりを失った。

エデンの園以来、誰も悪の経験とその結果を逃れることはできなかった。アダムの子供たちが墓から蘇るとき、彼らは初めて神の良さを経験するであろう。王国ではサタンが束縛され、義の成長を妨げるようなことはなくなるだろう。進歩の一步一步が報われるであろう。この人生で蒔かれた人物は、他の人にとってはより難しくなるだろうが、皆、完全に従い、永遠に生きる最初の完全な機会を持つであろう！

二つの救い以外の全てが救われる

「全ての」人に対する神の救いは、自由意志と選択の自由と矛盾しない。全ての人、現在または次の時代にアダムの罪の宣告から救われるであろう。「神はすべての人の救い主、特に信じる者の救い主です(テモテ第一 4:10)。」

信仰義認によってアダムの罪の宣告から今救われた人々は、天の救済者に呼ばれるだろう。彼らは世界、肉体、そしてサタンを克服する必要がある。「恐れおののいて自分の救の達成に努めなさい(フィリピ 2:12)」「もし(キリストと)耐え忍ぶなら、彼と共に支配者となるであろう(テモテ第二 2:12)。」

救いはキリストの王国の時代に世界中の人々に提供されるであろう。彼らの成功は、キリストの王国の法を厳守することにかかっている。彼らの進歩のスピードは、(1)前世の人物のハンディキャップ、(2)王

に対する愛の程度、彼の法律と正義、の2つに依存する。以前高貴な不信者だった人の多くは急速に進歩するであろう。

キリスト教時代とミレニアル時代の両方において、「後退する」悟りを持つ者は、「破壊」する危険がある(ヘブライ 10:38,39)。王国の全ての恵みを含み、改革を拒否する者は、「火と硫黄の燃えている池が、彼らの受くべき報いである。これが第二の死である(啓示 21:8)。」「火」は破壊のシンボルである。

したがって、「すべての人の贖い」は全ての人間に適用される。全てが最初のアダムで非難された(コリント第一 15:45,47)。しかし、第二のアダムであるイエスを受け入れた全ての人は、命を受けるのである。「ひとりの罪過によってすべての人が罪に定められたように、ひとりの義なる行為によって、いのちを得させる義がすべての人に及ぶのである(ローマ 5:18)。」

預言者エレミヤは次のように言った。「その時、彼らはもはや、『父がすっぱいぶどうを食べたので、子どもの歯がうく』とは言わない。人はめいめい自分の罪によって死ぬ。すっぱいぶどうを食べる人はみな、その歯がうく(エレミヤ 31:29, 30)。」

イスラエルの「復活」

「更新の時」は、「神が聖なる預言者たちの口をとおして(使徒 3:19-21)」行われた。イスラエルの復活はその証の一部である(使徒 1:6)。『エゼキエル書』第37章はイスラエルの希望を表す「枯れた骨の谷」

の有名なビジョンを含む。まず、骨が「墓」から集められ、次に腱と肉が加えられ、最後に生命の息吹が吹き入れられた。このビジョンは、私たちの時代に実現している国イスラエルの復興を意味しており、決して再び「再び抜きとられることはない(アモス 9:15)。」使徒パウロは、選出された花嫁が完成するまで、イスラエルが捨てられると言った。「一部のイスラエル人がかたくなになったのは、異邦人が全部救われるに至る時までのことであって、こうして、イスラエル人は、すべて救われるであろう(ローマ 11:25,26)。」花嫁のクラスが完成すると、神は「彼らに自分が主であることを知る心を与えるであろう。彼らは神の民となり、神は彼らの神となる。彼らは一心に神のもとに帰ってくる(エレミヤ 24:5-7; 31:28; 32:40-42; 33:6-16)。」

将来の祝福の予言と約束の多くはイスラエルだけに当てはまるが、イスラエルはまた典型象徴的である。イスラエルの司祭職は、「よりよい犠牲と本当の贖罪キリストの御体、王国の司祭職の典型である(ペテロ第一 2:9; ヘブライ 9:23; レビ記 16:6,24; コリント第二、10:11; ローマ 5:11)。イスラエルは時には世界を象徴していた。

ソドム人の修復

確かに、聖書の中で明らかに教えられている、ソドム人の反逆を見つけたら(エゼキエル 16:48-63)、「返還」がすべての人に当てはまると満足するかもしれない(『使徒伝』3:19-21)。彼らは正しい人ではな

く、イスラエルでも、信仰によって義とされる前の私達も正しくなかった(ローマ 3:10、5:1)。ソドムの罪は非常に大きく、神は彼らの大いなる邪悪のために天から火を降らせ、それらを滅ぼした(創世記 19:24; ルカ 17:29)。

それでもイエスは、ソドムにはカペナウムのユダヤ人ほど責任がないと言った(マタイ 11:23)。「あなたがたに言う。さばきの日には、ソドムの地の方がおまえよりは耐えやすいであろう(マタイ 11:24)」。どちらも十分な知識はなかったが、カペナウムはソドムよりも多くの光に対して罪を犯した。それにもかかわらず、どちらも千年のミレニアル王国の[判断の日]に復活するであろう(ペテロ第二 3:7,8)。

ソドム—イスラエルの娘

預言者エゼキエルは、王国についてイスラエルとソドムの両方にとっての機会として語った。エゼキエルはサマリヤ(イスラエル北部の首都)の憎悪を嘆き悲しみ、彼女の忌み嫌うことを「あなたの妹ソドム」のものと比較した(エゼキエル 16:48-63)。罪を犯す姉妹達！しかし、預言は両者にとっての希望と共に終わっている。彼らは墓の中の囚人だったが、神は彼らを解放する。彼は「彼らの捕虜を修復し、元の状態に戻す(エゼキエル 16:53,55)」驚いたことに、エゼキエルは「私はあなたとユダとの永遠の契約を結び、彼らをソドムとサマリヤを娘のようにあなたに與えます(エゼキエル 16:60,61)」と結論づけている。

その「永遠の契約」は、モーセよりも優れた仲介者を持つ神の「新しい契約」である！「わたしがイスラエルの家とユダの家とに新しい契約を立てる日が来る(エレミヤ 31:31)。「わたしはあなたとの契約を成立させ、あなたはわたしが主であることを知る(エゼキエル 16:62)。」

「救う者がシオンからきて、ヤコブから不信心を追い払うであろう」そして「イスラエル人は全て救われるだろう(ローマ 11:26-29)。」イスラエルを通して、祝福が世に流れ出すだろう(ゼカリヤ 8:23)。そして、「すべての人のための贖い(テモテ第一 2:6)」は全ての人に及ぶであろう。それは「すべての捕虜に自由を(イザヤ 61:1)」をもたらすだろう。全てのソドム、サマリヤ、ユダ、そして全ての異邦人が、永遠に生きる機会を得るであろう。

正義を学ぶための地上の住人

従って、キリスト教徒としての私達の特権は、キリストが墓を開け、「捕虜を自由にする」ということを発表することである。地上の人々が「元の状態」に修復されるのである—返還である！「さばきが地に行われるとき、世に住む者は正義を学ぶ(イザヤ 26:9)。」私達が、キリスト教徒として私たちの罪を赦す神の慈悲を経験したように—私達は、イエス・キリストの血によって封印された新契約によって恩恵を受けながら、世界全体の見通しを喜ぶのである。

確かに、「父祖たちのゆえに、神に愛せられる者である。神の賜物と召しとは、変え

られることがない(ローマ 11:28,29)。」確かに、ユダヤ人、ソドム人、全ての人類は神がどれほどこの世を愛してくださったか(ヨハネ 3:16)」を知って驚くであろう！

多くの人が、神の計画がとても幅広いことに驚くだろう。歴史を通して、ユダヤ人は神の約束が彼らのものであると考えていた。今日、クリスチャンのなかには、神の約束は彼らだけのものだと考える人がいる。実際、神の祝福は、教会とイスラエルを通し、全世界のものである。全ての人が祝福されるべき時期に近づくにつれ、その展望を喜ぼう。

少数の選挙—多くを恩恵で祝福するために

神の計画は何と壮麗であることか！ 少数の—教会の—選挙は、多くの人に神の無限の恵みをもたらすであろう。カルバン主義は、予定説を「世の初めからすべてのことが神に知られている(使徒 15:18)」ことを基礎として教えている。そのため、彼らは間違っ、神が大半を滅ぼして永久の拷問の運命に追い込んだと結論づけている。神は博識であるが、神の偉大さの2つの本質的な性質が見落とされている—神の愛と正義である。「義と公平はあなたのみくらの基、いつくしみと、まことはあなたの前に行きます(詩篇 89:14)。」

無償の恩寵(アルミニウス主義)は、神を、以外自分の生き物への愛と慈悲深いデザインに満ちているが、よき能力に欠けるものとして提示している。サタンが蛇を使

って、イブがアダムと罪を犯すように、イブを誘惑したことに、神は驚いたでしょうか？ 神は、福音を聞いたことがある人が殆どなく、忠実に神の息子に従う人は更に少ないということに失望しているでしょうか？ サタンは勝利者だろうか？ そうではない。神は驚かなかった。神は失望していない。神が計画したことは必ず成功するであろう。神はそれが起こる前に人間の陥落に対する解決策を設けていた。イエスは、「世界の始まりから殺された子羊(啓示 13:8)」だったのである。

アダムの罪のために死んだ人は、全て再び生きるのである！ 「アダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように、キリストにあってすべての人が生かされる(コリント第一 15:22)。」

神の選びと無償の恩寵の教義は、神の時代の計画のタイミングを理解することによってのみ、美しく調和することができる。イエスは、彼の最初の来臨時に「贖い」をお与えになった。現在教会は完成しつつある。次のステップは、彼の再臨の目的—万物更新—の達成である(使徒 3:19-21)。

世界はイエスの教会の完成を待っている。「被造物は、実に、切なる思いで神の子たちの出現を待ち望んでいる(ローマ 8:19)。」クリスチャンとして、私達はイエスの帰還のすべての証を歓迎する。なぜならそれが「すべての民に与えられる大きな喜び」をもたらすからである(『ルカによる福音書』2:10)。

◆ 研究 7 ◆

神は何故ご自分の計画の中で悪をお許しになるのか

悪は、何でも不幸、傷害、苦しみ、痛み、破滅、または死を引き起こす、悪いまたは道徳的に間違ったものである。恐らく私達の世界での悪の支配以上に、愛と公正な神への人間の信仰にとって挑戦的で、もっと挑戦的で紛らわしいものはないだろう。すべての人類の悲しみは、一つの原因—罪—に遡る。何故神は人類が罪に落ちるのを妨げなかったのだろうか？ アダムとイブは完璧に創られた。神は何故なぜサタンが蛇の形で彼らを誘惑し、木の実を食べるようしむけることをお許しになったのだろうか？

永続する悪魔の実践レッスン

神にはできないことがいくつかある！ 神は「偽ることのあり得ない」(ヘブライ 6:18)。また、「彼は自分を偽ることが、できない(テモテ第二 2:13)。」従って、神は自分の創造物の永遠の命を準備するため、最も賢明で最良の計画を選択することしかできないのである。確かに、神はサタンの誘惑を防ぐことができたかもしれないが、神はそれを人と天使にとっての永続的な実践的なレッスンとしてお許しになったのである。神は人間に、賢明な目的のために罪の自然な結果を体験し、見てほしかったのだ。エホバは「悪しき事を喜ばれる神ではない(詩篇 5:4)。」神は当面は悪をお許したが、人類のために計画なさっていることは、

この実例が引き起こした全ての痛みと苦しみの埋め合わせ以上のものである。

すべての正しい原則には、真実と虚偽、愛と憎しみなどの正反対の間違った原則がある。正しい原則は、最終的に調和、幸福、そして良いものをもたらす。間違った原則は、害や不幸、そして悪を作り出す。人間は、良心—善悪を選ぶ能力—をもって創られた。しかし、人間の道徳感覚は、多かれ少なかれ墮落に影響を受けてきた。

犬は知性があり、主人からのある報酬や罰によって得られた訓練に基づいて選択を行うことができる。犬はしかし、その行動の道徳的質には無知である。犬が誰かを救助したり、害を与えたりする際、その行動が善良なことか罪なことかなどとは考えられない。それは本能の結果にすぎず、倫理の結果ではない。反対に、人々は多かれ少なかれ、道徳的感覚を持っている。彼らが良いことをすると、それは有徳であり、悪を行うと、それは罪深いのである。

神は人をロボットにはしなかった

神は、人間をいつも正しいことをするロボットにできたかもしれないが、神の「かたち(創世記 1:26,27)」ではなかっただろう。神は人間をサタンの誘惑からお守りできたかもしれないが、それでも人間は内部からの野

心に影響されただろう。その結果、人の未来はいつも不確実だっただろう。

神は、ご自身の知恵において、良いことがその正反対のものによって最もよく評価されることを前もって知っておられた。神がエデンの園でのアダムとイブの親しい関係から彼らを追い払われた時、彼らは罪の罪深さについて学び始めた。彼らは「善悪を知り(創世記 3:22)」始めた—そして、その違いを認識するようになったのである。その後全世紀にわたって、後代の人々は悪の教訓を学んできた。後に、神の王国の時代に、人類は対照的な善の利益を十分経験するだろう。

アダムの道徳的感覚は、神に似ているという重要な特性があったが、6,000年の墮落後、人類の本質的な道徳感は大いに減少した。今や人々は善よりも罪に好感を持つことが多いのである。罪を犯す機会が許されなければ、人はそれに対して抵抗することができないだろうし、それは美德でも正しい行いの功德でもないだろう。しかし神がお望みなのは、自発的な服従であり、機械的な奉仕ではない。神はすでに多くの生物と無生物の創造物に栄光にもたらされた。人類を創造するとき、神が計画なさったのは、自分に似た知的な生き物—間違ったもの、悪いものの良さの価値を行為の基とする地上の主人—を作ることだった。

善悪の原則は常に存在していたが、正義の原則のみが永久に活動し続けるのである。間違った意志の活動は、神の目的を達成するために十分な時間続くだけで

ある。その後、悪は永遠に止むであろう(コリント第一 15: 25,26)。

経験により学ぶ

罪の知識が別の方法で生じたということはあるか？ 人類が経験した恐ろしい悪は避けることができたか？ それほど効果的で継続的な方法ではなかったか？ 学ぶには4つの方法がある。

- ◆ 直感
- ◆ 観測
- ◆ 経験
- ◆ 情報

神のみが直感的な知識をお持ちである。神は「初めから終わり(イザヤ 46: 10)」をご存知である。従って、人間の善悪の知識は直感的なものではありえなかった。アダムは情報によって悪の知識を持っていたが、それは試し続けるのを防ぐには不十分であると証明した。人間は観察によって学んだかもしれないが、罪の結果を観察するためには、宇宙のどこかでそれを実証する必要がある。何故人類を実例にすべきではないのか？ 聖書は、人間の罪と悪との経験が、実際には天使たちによって観察されていることを伝えている(コリント第一 4:9)。しかし、最も深い学習は実践的な経験によって得られ、それ—悪との個人的経験—が人類が学習する第一の方法である。

アダムはエデンの園で良い経験をしたが、悪の知識は情報によるもの、つまり「あなたがそれを食べる日には必ず死ななければ

ばならない(創世記 2:17)」というものにすぎなかった。アダムには、痛みや苦しみを予測する罪の経験がなかったのである。結果として、彼は誘惑が生じたとき、それに負けたのである。

アダムの犯罪は、罰に比べれば小さく思われるかもしれないが、問題は基本的な服従の原則である。神の創造物の永遠の恵みには服従が不可欠である。天の神は、創造物の福祉と永遠の幸福のために何が最善であるかをご存知である。

アダムは妻を通して罪に誘発された。アダムの妻は、神とのコミュニケーションがアダムのものよりも限られていた。イブは自分で正しいと知っていたものに背いた。しかし、彼女は結果として蛇に欺かれた(コリント第二 11:3)。しかし、アダムは欺かれていなかった(テモテ第二 2:14)。アダムは故意にイブの不服従を共にし、明らかに彼女なしで生きないことを選んだのである。

従って、アダムとイブはどちらも「罪を犯して」、二人とも呪われたのである。イブは、自分がアダムにもたらした判決を共有した。「このようなわけで、ひとりの人によって、罪がこの世にはいり、また罪によって死がはいってきたように、こうして、すべての人が罪を犯したので、死が全人類にはいり込んだのである(ローマ 5:12)。」

選択の自由を備えて創られた

神は、人類の道徳的な性質が逸脱すると予見されたにもかかわらず、選択の自由を備えて人をお創りになった。神は人に罪

の深さを教えるために現在の邪悪な経験をお許しになっているのである。その結果は、人類の中に創造主の愛と真価をより深く発達させ、対照的に美德の壮齢さを実証するであろう。

しかし、神は罪をお許しになったが、罪を引き起こしはしなかった。神は私たちの最初の親に罪を強制しはしなかった。子供たちが両親に従うことを選ぶことができるのと同じように、アダムとイブには選択の力があり、服従を選ぶことができたはずである。人類は地上の主であるように設計され、確かにこの力を持ち、神は人が選択を行い、経験から学ぶことをお許しになったのである。一方、人類に対する偉大な愛のために、神は彼の創造物をアダムの選択の結果からお救いになろうと計画なさったのである。神の王国では、より良い状況下で、より良い選択のための別の機会が人々に提供されるだろう。

「悪は参事を意味することがある」

神は道徳的な意味で邪悪に対して責任がない。神に責任があると暗示しているように見えるかもしれない二つの聖書の文書があるが、説明は「悪」の意味にある。罪は常に悪だが、悪は必ずしも罪ではない。災害は悪と呼ばれることが多い。この二番目の意味において、神は罰として災害をもたらすかもしれない。

『イザヤ書』と『アモス書』の中で、神は忠実であればイスラエルを災害から守ると言われたが、もし彼らが神を捨てれば、彼らに

災害(「悪」、欽定訳聖書 - ジェームズ王訳)をもたらすと言われた。下の二書では、これが当てはまる。NAS(ニュー・アメリカン・スタンダード)の翻訳が各テキストの意味を明らかにしていることにご注意いただきたい。

『イザヤ書』45:7

欽定訳聖書 - I make peace, and create evil: I the Lord do all these things. (私は平和を創り、悪を創る。主である私はこれらのごと全てを行う。)

NAS - ... and creating calamity; I am the Lord who does all these. (...そしてわざわいを創る。私はこれら全てを行う主である。)

『アモス書』3: 6

欽定訳聖書 - "Shall there be evil in a city, and the LORD hath not done it?" (「都市の中で災いが起きるなら、それはエホバが行動したのではないか。(新世界訳)」)

NAS - "If a calamity occurs in a city, has not the LORD done it?" (「主がなされるのでなければ、町に災が起るだろうか。(口語訳)」)

「わざわい」と翻訳された同じヘブライ語は、時には「苦悩」、「トラブル」、「逆境」と翻訳される。

神は罪や不道德の執行者ではないが、イスラエル人の選択がまずかったために、彼らは神がお送りになった「わざわい」やトラブルで懲らしめられた。

罪に対する公正な罰

神は、人類に神を崇拝するよう強いる力をお持ちだが、これは神の願いではない。神は、人が自由意志で、積極的に、「霊と真実の中で」崇拝することを求めておられるのである(ヨハネ 4:24)。これが神の創造物にとって最善の利益である。ミレニアム時代、世界は自分の選択した神を礼拝し、神の恵みに感謝するであろう。

一方では、神は人類が実践的な経験によって学ぶことをお許しになる。神は人類が罪を犯し、その結果を味わうことを許可なさる。神はまた、巨大な代価で救い主を与えることによる人類の修復を計画なさっている。やがて、「すべての人のための贖い」は、神からの驚くべき贈り物として世界から認識されるであろう(テモテ第一 2:3-6)。従って、人類が自由意志を誤って使うことは予知され、彼らの報いのために、却下されたのである。

なかには、アダムに処罰を加えるのは正しかったが、彼の子孫の全てが結果に苦しむのは不公平だと思ふ人もいる。問題は「各人を試したら、もっとうまくいったらどうか? 最終的には、少なくとも過半数が服従しないように誘惑されていなかったらどうか?」ということである。

アダムが自分の有罪の判決を受けた人生を、私達全員に渡すことにより、神は死と瀕死状態の経験を、私達全員を教育するためにお許しになるのである。

それで、一人の人間で私達全てが非難されたので、私達全ては人ひとりイエスーにより贖われることができるのである。神の正義の標準は「命には命(出エジプト』21:22-24)」である。従って、神の取り決めは、実際には非常に大きな祝福であることを証明しているのである。私達が各人試され、個人別に罪の宣告を受けていたら、罪を犯した人ごとに救済者が必要だっただろう。死は罪に対する妥当な結果である。罪と、その苦しみの十分な経験と知識を得た後、神の賢明な助言に従うことを選ばない人々は、彼等自身や他の人達の不幸の原因となるであろう。永遠の時代に彼らが存在し続ける理由はない。人類が経験している現在の死の過程は、不従順の重大さを痛感させる重苦しいレッスンである。

一方、今の私達のような人生でさえ恩恵であり、大多数に非常に高く評価されている。生まれてから死ぬまで、人生には十分な恵みがあり、殆どの人が生き続けることを望んでいる。それは、人生に対する神の合理的な条件を受け入れる人々に対して

神が計画なさる、永遠の素晴らしく輝かしい人生の小さな前触れである。

死罪—拷問ではない

悲しいことに、神が不信者を永遠の拷問で罰することを計画なさっていると、多くの人が神の性格や意図を不正確の表明してきた。これは大間違いである！ 神の罪に対する罰は、「きっと死ぬであろう(創世記 2:17)」と明確に明言している。「罪の支払う報酬は死である(ローマ 6:23)。」「罪を犯す魂(人、実存)は必ず死ぬ(エゼキエル 18:4)。」『啓示』の象徴的な本の中の2, 3の文書、またはイエスの寓話中の2, 3の文書だけが、火の苦しみを示唆している。これらのそれぞれのケースでは、火災が破壊を象徴することが示されている。罪に対する罰は死であり、拷問の人生ではない。

死に至る罪の宣告は、一人の人間の不従順によって全人類に渡された。1人の男が自分の中の未だ生まれていない人類と罪を犯した。従って、彼と彼のすべての後

†啓示の「火の池」は単に破壊の象徴、「二番目の死」(啓示 20:14)である。金持ちとラザロの話(ルカ 16:19-31)は、慎重な説明により、寓話であると認められている。金持ちは、ユダとベンヤミンを象徴し、「五人の兄弟」はイスラエルのその他の十部族を象徴している。彼等には「モーセと預言者がいる。」激しい苦難は、イスラエルがメシアを拒否し後に経験した激しい試練を象徴している(申命記 32:22-26 と比較)。ラザロは アブラハムの胸の中に受け入れられ、「アブラハムの子孫」であるイエスを受け入れることにより、アブラハムの契約の霊的な特徴を受け入れたイスラエルと異邦人の追放者を象徴している。

イエスは、「墓の中にいるすべての人は、彼の声を聞いて出て来る」と約束なさった(ヨハネ 5:28、29)。パウロは、「キリストにあつてすべての人が生かされる(コリント第一 15:22)と肯定している。「第一の復活にあずかる(啓示 20:6)」機会を持たなかった人々は、「来るべき世界(啓示 22:17)」で再び生きる機会を得るであろう。

世が罪の宣告を受けた。その罪の宣告は、私達が当然受けるべき有罪判決を自ら受ける、完璧な一人の人間の死によってのみ取り除くことができるのである。その、一人の汚れのない人間、彼の中にある完璧な、まだ生まれていない子孫が、アダムと彼の子孫に対する正義の要求を満たすため、全ての人のために代償を払った「人の子キリスト・イエス」であった(テモテ第一 2:5)。

人類を祝福する教会

この償還によって最初に祝福されるのは教会である。それらは、正当化のためにキリストの犠牲の功德によって罪の宣告が取り除かれる。教会が栄光に満ちて完成した後、キリストは人類の残りの部分を復活させ、地上での永遠の命をお与えになる。「しかも彼を砕くことは主のみ旨であり、主は彼を悩まされた。彼が自分を、とがの供え物となすとき、その子孫を見ることができ、その命をながくすることができる。かつ主のみ旨が彼の手によって栄える(イザヤ 53:10)。」イエスは、花嫁としての教会と共に、アダムの子供たちを自分の子供としてお受け入れになるのである。

人類初の現実のチャンス

王国時代のこの改革の機会には、ある人々にとっては人生の「二度目のチャンス」であるかのように思われるだろう。確かにアダムとイブにとってはそうだろうが、その他全ての人にとっては最初の完全なチャンスである。アダムが従順でなかったとき、「す

べての人が罪に定められた(ローマ 5:18)。アダムは、神の律法と性格に、完全な自信をもって発達しただろう経験に欠けていたのである。サタンに束縛される罪の結果を経験した後、彼は欺くことができないよう、より良い仲介者との新しい規約の下で、世界には完全で祝福された永遠の命のチャンスがあるだろう(ヘブライ 12:24)。

サタンは束縛されるが、完全な服従はすぐには期待されない(啓示 20:3)。しかし進歩の必要がある！人は墓に入った時と同じ心で墓から出てくるだろう。身体的、精神的な完成度は徐々に達成される。ミレニアル王国が閉じるまでには、道義の完成が必要である。そして、ミレニウム終わりに、サタンが「小さい季節」の間解放され、従順なのは外見だけかもしれない人々の真の心の状態を試すであろう(啓示 20:7-9)。ミレニウム終結時の将来の人生に対する個人の裁判は、エデンの園のアダムの裁判よりも好意的になるだろう。そのころまでには、人類は、邪悪、苦しみ、心痛、死、そして義とその命、喜び、平和の恵みで豊かな経験を得ているだろう。彼らはその特質を直接体験して知り、アダムよりも良い選択をするだろう。

しかし、王国の全ての利点があっても、少数の人は反抗するだろう。彼らの指導者、サタンのように、神の義と恵みの全てを拒否する者がいるだろう。彼らは「第二の死啓示 21:8)で滅ぼされ、決して他の人や彼等自身に迷惑をかけることはないだろう。

他の計画は上手くいくだろうか？

6000年もの間、世界が経験してきたこの苦難は、避けることができたでしょうか？もし神が、不従順者だけが苦しむようにと、全ての人々のために、各人の審判と共に、エデンの園のような好ましい条件を取り決めていたら、結果はもっと良かったでしょうか？

仮にそのような審判で、4分の1、更には2分の1の人々が命を得たとする。それでも、彼らは禁じられたことに対して永遠に好奇心を抱くかもしれない。「善と悪」の両方を味わうことがないままでは、彼らの奉仕や神の礼拝は、一意専心ではないだろう(創世記 2:17)。罪を犯し死ぬ、半分人々の運命はどうなるだろうか？ 大勢の罪人が、何らかの形で贖われるのだろうか？ 正義はこれを可能にするかもしれないが、罪の宣告を受けた一人一人に対し、その人のために命を犠牲にしようとする、別の贖いが必要となるだろう。そうすると、500億人の罪人を償うために、完璧で従順な500億人の人が死ぬことになるだろう。そのような計画は、現在経験している以上の苦しみを伴わないだろう。第一に、神の計画は、人の栄光ある永遠の運命にとって、最も論理的で効率的である。全ての人々が、経験によって罪の報いを学ぶことを許されている。一人のために全ての人が罪の宣告を受けるため、全ての人々が一人の人によって償還されることができる。従って、イエスは「すべての人のための贖い(テモテ第一 2:6)だった。イエスの奉仕に対する報酬として、

神は「その力をキリストのうちに働かせて、彼を死人の中からよみがえらせ、天上においてご自分の右に座せしめ、彼を、すべての支配、権威、権力、権勢の上におき、また、この世ばかりでなくきたるべき世においても唱えられる、あらゆる名の上におかれたのである(エフェソス 1:20、21)」。

第二に、神はイエスの志を継ぐ「小さな群れ」の選択を計画した。これらのメンバーは、現在命の裁判中であり、現在の悪の統治下で完璧な愛の人格を育てよう求められている。この真の教会は、キリストと共同の相続人であり、王国で王と統治する(ローマ 8:17、啓示 19:7; 3:21、20:6)。

そして、ミレニウム時代には、キリストと教会は全ての死者を墓から甦らせ、真実を普遍的に教え、全人類から自発的で従順な人々を取り戻すだろう。「水が海をおおっているように、主を知る知識が地に満ちるからである(イザヤ 11:9)」。

偉大な修復計画

神が悪を許可されたために、神の偉大な修復計画は輝かしく成功するだろう！悪によって引き起こされる苦悩、苦痛および悲劇は全て、王国の素晴らしい恵みによって打ち消されるだろう。

人類は、悪との経験から永遠に利益を得るだろう。またこの経験は、天使の主人に神の栄光ある人格の不朽の証拠になるだろう。全ての人々が、不従順を強く非難することに神の正義を見るであろう。全ての人々が、私達を償還するために御子を遣

わして正義を確信させた、神の計り知れない愛を見るだろう。全ての人々が、キリストの全ての知的創造物が「天にあるもの地にあるもの(エフェソス 1:10)」と完全に結合している神の力を見るであろう。全ての人々が、不本意の代理人さえをも使って、神の創造物のために企画された栄光ある運命を達成する、先見の明のある神の知恵を見るだろう。

全ての知的な存在に対する神の宇宙の法則は、一言、愛で要約される。「神は愛(ヨハネ第一 4:8)なので、神は私達全てのため、まさに最高の計画をお選びなのである。究極的には、神の一時的な悪の許可の目的が完了するとき、皆、彼がなされたことに感謝するだろう。それまで、世界が始まって以来計画されたように、全ての人類が修復される時を信仰の目で待ち望むのである(使徒 3:19-21)。

その時、盲人の目は開かれ、耳の聞こえない者の耳も開けられる。その時、足のなえた者は雄鹿のように登って行き、口のきけない者の舌はうれしさの余り叫びを上げる。荒野に水が、砂漠平原に奔流が噴き出るからである。主にあがなわれた者は帰ってきて、その頭に、とこしえの喜びをいただき、歌うたいつつ、シオンに来る。彼らは楽しみと喜びとを得、悲しみと嘆きとは逃げ去る。

そして、エホバによって請け戻された者たちが帰って来て、歓呼の声を上げつつ必ずシオンに来るであろう。定めのない時まで続く歓びが彼らの頭の上にあるであろう。彼らは歓喜と歓びを得、悲嘆と溜め息は必ず逃げ去るのである。

イザヤ 35:5,6,10(新世界訳)

◆ 研究 8 ◆

神の裁きの日

「神は、義をもってこの世界をさばくためその日を定め、お選びになったかたによってそれをなし遂げようとされている。」「義なるイエス・キリスト」「父はだれをもさばかない。さばきのことはすべて、子にゆだねられたからである。」(使徒 17:31、ヨハネ第一 2: 1、ヨハネ 5:22)

殆どのクリスチャンは、「判断の日」という恐ろしい概念を持っている(ペテロ第二 2:9)。彼らは、山崩れや、地震、津波などの大きな災害の中で、イエスが再臨し、大きな白い玉座に座ることを期待している。彼らは、罪人達は地獄から呼び出され、自分達の罪が再審査されたことを聞いてから、永遠の運命に戻ると思っている。彼らは、聖人が天から呼び出され、罪を宣告された人々の絶望を全て目撃し、それから栄光に戻るものと考えている。裁きの日一般概念—文字通り一日 24 時間—は、実際には、既に死んだ時に決められたことの繰り返しのはずである！

しかし、これは聖書の見解ではない。それは、イエスの「羊と山羊を分け(マタイ 25:31-46)」と、『啓示』20 章の「偉大な白い玉座」文字通りの見解と解釈から引き出されている。しかし、『啓示』は 象徴の書であり、寓話は挿絵付きの物語で、文字通り解釈されるべきではない。どうして山羊は永遠の

火の中にはいり、羊は天へ行くのだろうか？ 聖書は偉大な最期の審判の日について、実際に何を教えているのか？ シンボルと寓話は、どのような調和のとれた状況を意味するのだろうか？

千年裁きの日

「裁き」(Krisis、ギリシャ語)という言葉には、判決以上の意味がある。その意味には、crisis (危機、英語) のような、どちらの方向にでも進める決断を伴う裁判を含む。「日」は、24 時間を意味することあるが、ノアの日、ワシントンの日、「荒野での誘惑の日(ヘブライ 3:8,9)—この場合 40 年だった—のような幅広い時間を意味することがある。

使徒ペテロは、「裁きの日」を「千年」と割り出している(ペテロ第二 3:7,8)。キリストが支配し、「世が義にかなっている」千年の「キリストの日」である。その裁判の時代の間、世界は命と判決の裁判が許可されている(フィリピ 2:16、使徒 17:31)。あなたのさば

きが地に行われるとき、世に住む者は正義を学ぶからである(イザヤ 26:9)。」地上の何十億もの人のために達成すべき全ての仕事を考えると、この「日」の広い意味は最も理論的である。

神の計画における他の判決

人類全体はまだ裁判と判決に向けての千年の裁きの日があるが、過去に別の裁きの日があった。アダムがエデンの園で罪を犯したとき、人類全体が死刑判決を受けたのである。「あなたは必ず死ぬ(創世記 2:17、新世界訳)。」「アダムにあつてすべての人が死んでゆく(コリント第一 15:22、新世界訳)」。全ての痛み、苦悩または葬儀は、その普遍的な宣告の証拠だが、人類はアダムの罰から回復するため、死は本当に一時的な「眠り」のようなものである(ヨハネ 11:11-14)。

キリストにおいて聖別された信者の教会だけが、信仰によってこのもとの刑罰から「逃げ出した(ペテロ第二 2:20)」。「尊く、大いなる約束」を与えられた後、敬虔さと愛に満ちあふれば、「永遠の王国、救い主イエス・キリストの国に」、豊かな入り口が与えられるのである(ペテロ第二 1: 4-11)。彼らだけが、世界の判断の時代の前に生死の裁判にかけられるのである。教会は、贖いの「最初の初穂」として、不滅、すなわち神性を継承するのである(ヤコブ 1:18、ローマ 2:7、コリント第一 15:53)。残りの人類は、地上の息子として、将来永遠に生きる機会を得るだろう。

神は、最初の宣告が厳しすぎたために、心変わりなさったのか？ 全くそうではない。「主なるわたしは変ることがない(マラキ 3:6)」。神は最初から償還と復興計画を準備なさったのである！ アダムが罪を犯す前に、神は私達の救い主が「すべての人のために死を味わう」ように計画されたのである(ヘブライ 2:9、啓示 13:8)。

任命された裁判官

神は、「罪のさばきをいっさい子に任せて」いた(ヨハネ 5:22)。イエスが裁判官なので、恐れる必要はない。彼が、私達をとっても愛し、私達のために死んでくださった方である(コリント第二 5:14,15)。実際、裁きの日は、心待ちにすべき日である。それは世界の回復の時になるからである。イエス自身は常に完璧だったが、彼は「わたしたちと同じように試練に会われたのである」(ヘブライ 4:15)。彼は、同情的であり、「深くあわれまれた」(マタイ 9:36)。イエスは、人類の欠点と弱点に共感を持たれ、やる気のある人々全てを、エデンの園で失われたもとの完璧な状態に修復なさるだろう。

古代の裁判官は、正義を遂行し、抑圧された人を救済する人だった。例えば、イスラエルが迫害にあつていたとき、彼らは神に呼びかけ、神は裁判官を起して彼らを救われた(士師記 3:9-11)。今日、世界は依然として救助を求めて叫んでいる。神の時が来ると、イエスは裁判官として、すべての人に助けをお与えになる。イエスは世界のために償還を準備なさった。確かに彼は世

界を祝福なさるだろう。「主は義をもって世界をさばき、公平をもつてもろもろの民をさばかれる(詩篇 98:9)。

裁きの日のテスト

この第二のテストは、第一のテストよりも有利である。罪から世界を救うために全てのことがなされる。サタンは束縛され、「もはや諸国民を惑わすことがない(啓示 20:1-3)。」もし人がその時不完全であれば、それは彼が故意にその時開いている祝福に抵抗するからだろう。命のための裁判は、裁きの日中かかり、最後にクライマックスに到達するだろう。

従順を拒む者は死ぬだろう。しかし、それはアダムの罪のためではなく、その人自身の罪のためである。「父がすっぱいぶどうを食べたので、子どもの歯がうく」しかし…「すっぱいぶどうを食べる人はみな、その歯がうく」「人はめいめい自分の罪によって死ぬ」『エレミア 31:29,30; 『エゼキエル書』 18:2-4,20)。

光明と知識に対する故意の罪に対する罰は、「第二の死」である(啓示 20:14,15; 21:8)。そのような判断が下される前に、誰もが有り余る時間と改善の最大機会を与えられている。「人は百歳であっても、ほんの少年として死ぬからである。罪人については、その者が百歳であっても、その身の上に災いを呼び求められるであろう(イザヤ 65:20、新世界訳)。」

羊と山羊の寓話は、世界が2つのクラス—改革と善行をする者と善を行う者と、そう

しない者—分けられると伝えている(マタイ 25:31-46)。個人の審判は、隣人に対する愛とケアの表すこと明示されているように、彼らが神に対する完全な愛を育むかどうかに基づいている。裁きの日の終わりに、サタンは「しばらくの間(啓示 20:3、新世界訳)」解放される。彼らの心に完全な愛がない人達は、王国の政府に対し反逆するという形で現れるだろう(啓示 20: 8,9)。彼らは二度目の死で滅ぼされ、そこから修復はない。

現在の説明責任

従って、未来の裁きの日の世界は、永遠の命を得る素晴らしい機会があるのだ！それで、良いことであれ、悪いことであれ、人々が今何をしているかは重要だろうか？はい、大変重要である。「主の目はどこにでもあつて、悪人と善人を見張っている箴言 15:3、伝道の書 12:14)。」現在の善悪の行為は、遅かれ早かれ報酬を受けるだろう。「ある人の罪は明白であつて、すぐ裁判にかけられるが、ほかの人の罪は、あとになってわかって来る(テモテ第一 5:24)。

人が行く全てが、復活の時に戻ってくる性格に影響するのである(ガラテヤ 6:7)。従って、「聖なる道」(イザヤ 35:1-10)でそれが容易になる人もいる。中にはそれが容易でない人もいるだろう—そして成功しない人は少ないだろう。

地上と天の裁判官

エデンでの最初の審判と王国の裁きの日

との間の6千年間に、神はキリスト・イエスを助けるために裁判官を修養、訓練している。イエスが「新しい生きた道」(ヘブライ10:20)を開く前でさえ、神の忠実な従者—アブラハム、モーセ、ダビデ、エレミヤなどは神によって選ばれた。これらの「古代の名士達」は信仰ゆえに「より良い復活」(ヘブライ11:1-40)を受け、地上の「裁判官」または指導者になるであろう(イザヤ書1:26)。彼らは、ミレニアム時代に世界の指導者として地球上で報いを受けるであろう。

現在の福音時代の中に呼び出された人々には、より高い天職がある。彼らは天のキリストと共に支配するだろう(啓示20:6)。「それとも、聖徒は世をさばくものであることを、あなたがたは知らないのか(コリント第一6:2)」旧約聖書の忠実な人々は神の僕と友人だったが、教会は神の息子だというもっと高い特権を持っている。「モーセは、神の家の全体に対して忠実であったが…、キリストは御子として、神の家を治めるのに忠実であられたのである。もしわたしたちが、望みの確信と誇とを最後までしっかりと持ち続けるなら、わたしたちは神の家なのである(ヘブライ3:5-6)。」両方の「家」は世界の祝福において、神の代理人になるであろう。これらのクラスの試練とテストは、裁きの日の世界よりも遥かに厳しいものだった。彼らは「この世の神」(コリント第二4:4)としての、サタンの罠(ペテロ第一5:8; エフェソス6:11)に抵抗しなければならなかった。彼らは、人類に最終的な試験と判決に必要な指導と訓練を豊富に与えることができ

ることを実証した。サタンは千年の期間(啓示20:1-3)の間「束縛」され、人々が義を学ぶ間、世界を悩ますことはできないのである。

前の時代には、義は苦しみや迫害を経験することが多かった一方、裁きの日の間には、正義が報われるだろう。従って、これらの2つの特別なグループのテストは、世界の将来の裁判よりはるかに厳しいものだったが、彼らの報酬と特権も、更に偉大なものになるだろう。

喜びなさい！ 主が裁くためにおいでになる！

サタンは、人を欺くことで、世界と教会の多くの人々の両方を、来るべき「裁きの日」の正義の保証から奪い取った。その結果、多くの人が恐れ、やがてそれを遠くに押しやってしまったのである。他の人々は、その恐怖を、人々に「イエスを受け入れて救われる」ように促す道具として使用する。主に選ばれた代表者達と通じてエホバによる約束の審判の日の観点が、預言者と使徒ではどれほど異なった考えを持っていたことか！

「天は喜び、地はたのしみ、もろもろの国民の中に言え、「主は王であられる」と。海とその中に満つるものとは鳴りどよめき、田畑とその中のすべての物は喜べ。そのとき林のもろもろの木も主のみ前に喜び歌う。主は地をさばくためにこられるからである。主に感謝せよ、主は恵みふかく、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない(歴代

志 16:31-34)。

一方では、創造物全てが、「うめき」、切なる思いで「神の子達の出現」を待ち望んでいる(ローマ 8:19-22)。彼らはまだそれを

知らないが、偉大な判事が世界を救い、祝福し、教会を讃え、賛美するのを待っているのである！ 全ての人が、永遠の命の報酬のための教育と鍛錬による有利な審判の為に、墓から出てくるだろう。

少しの間まだ罪の為にはびこる苦悩と悲痛、墮落と悲しみの光景に目を閉じて、心理的視界の前に、完璧な地球の栄光を描いてください。罪の染み一つ完璧な社会の調和と平和を損なわない。苦い思想はなく、愚かな表情や言葉もない。愛が、全ての心から湧き上がり、他の全ての心の中で同類の感応に接し、慈悲心が全ての行為を特徴づける。もはや病気はなく、痛みも苦しみもなく、腐敗の形跡もなく—そのようなものに対する恐怖さえない。あなたが今までに見たことのある人間の形態と特徴の相対的な健康と美の全ての概念を考えてください。そして、完璧な人間性は依然として美を上回ることを知ってください。内面の純度と精神的、道徳的な完璧さは、全ての光り輝く顔に印を付け、賛美します。地上の社会はそうなるでしょう。そして、泣いている遺族の涙が拭き取られると、彼らは復活の仕事が完了したことを認識するのです(啓示 21:4)。

◆ 研究 9 ◆

贖い、修復、そして復活

「それは、主のみ前から慰めの時がきて、あなたがたのためにあらかじめ定めてあったキリストなるイエスを、神がつかわして下さるためである。このイエスは、神が聖なる預言者たちの口をとおして、昔から預言しておられた万物更新の時まで、天にとどめておかれねばならなかった（使徒行伝 3:20,21）。」

イエスキリストが二度目に来臨したときの「万物の修復」というテーマは、聖書全体を通して織りこまれている。この修復の機会には、全ての人に保証されている。なぜなら、イエスは最初の来臨に自分自身を「すべての人のための贖い」としたからである（テモテ第一 2:6）。イエスは全ての人のために死んだ。「滅びのなわめ（ローマ 8:21）」の下にあるすべての創造は、アダムの元の死刑から救われるだろう。イエスの最初の来臨で、彼は贖いを確実なものとした。彼が再臨するとき、彼は自発的な者全てに救出をもたらすのである。

命のための個人裁判

使徒パウロは、この主題に関して最も明確で断固としている。彼は次のように言う。「なぜならキリストは死者と生者との王統治者、支配者）となるために、死んで生き返られたからである（ローマ 14:9）。」すなわち、イエスの死の目的は、地上のいくつかの生

きている信者を祝福し、支配するだけではなく、全ての人類生きている者と死んだ者（テモテ第二 4:1）——天使達も含めて（コリント第一 6:3）だった。

今までのところでは、何十億もの人類の中でも、イエスが死んで与えた「すべての人のための贖い」を受け入れることで得たキリストの祝福を受けた人は比較的少ない。何故か？ 神はアダムの罪の宣告から世界を救いたくないのか？ または救えないのか？ とんでもない！ 神の愛と力とその目的は変わらない（マラキ 3:6）。人類を罪の宣告から解放する彼の計画の「期限」は、キリストの2番目の来臨の「贖いの時代」中である。

聖書は世界中の言語に翻訳されている。これは、全ての人に救いのための完全な機会があったことを意味するわけではない。エデンでの不従順によって苦しんだ墮落は、アダムの全ての子孫に同様に害を与えたわけではない。中には、他の人よりも

っと下劣な状態で生まれてくる人もいる。他よりもっと悪い環境にいる人もいる。従って、ある者は他者よりも「この世の神(コリント第二 4:4)」であるサタンにさらされているのである。ミレニウム期には、誰もが修復のために完全でまとまった機会を得るだろう。

イエスの贖いの犠牲は、誰にでも永遠の命を与えることでも、人に祝福を与えたり、罪を許さずに自動的に罪人を天国の聖人にすることでもない！ 贖いは、最初の罪の宣告から解放し、命の2度目の裁判—全ての人のための各人の裁判—の機会を与えるのである。人類の命の最初の審判はエデンであった。命の第2の審判は、イエス・キリストの2度めの来臨のときに建国される王国時代である。それまでには、従順、不従順、正義、または罪を表示することで。永遠の命が認められるか、失われるであろう。これまでに生きた人全ては、その機会を正しく使えば、永遠の命を得るかもしれない。

2度目の審判は、完全に包括的である。千回の試練で誰が「高潔な人」になるのか、または千回の試練の下で「汚れている人」なのかが決まるだろう(啓示 22:11)。6,000年の間、世界は経験を通して、悪の知識とその苦い結果を得てきた。これは、これは、ミレニウム時代に命の機会が訪れるとき、彼らにとって大変有利になるだろう。そして彼らは、正義の偉大なる恵みに喜んで感謝することができるだろう。

キリストが支配する時、個人は従順に進む

一步一步に対して報酬を受けるだろう。そして、それは彼らが完璧に向かって成長していくことを意味するのである。これ以上好ましい試練や条件は想像できないだろう！ その間、義を学び、「聖なる道(イザヤ 35:8,9)」を歩むための、あらゆる援助が与えられるだろう。進んでやる気のある者は全て、潔白で、完璧で、従順な神の子供になるまで、徐々に改善していくだろう。執拗に罪を犯し続ける者、故意に罪と悪を好む者は削除され、「第二の死(啓示 21:8)」を経験するだろう。「罪を犯す魂は必ず死ぬ(エゼキエル 18:20)」—そして、二番目の死からの修復はないだろう。

教会は今裁判にかけられている

この現在の福音時代の少数だけが、自己を否定し、十字架を持ち、イエスと犠牲にすることを選んでいる(マタイ 16:24; ローマ 12:1)。これらはイエスの血を通じた信仰によって正当化されている(ローマ 5:1)。神は、来るべき時代に世界に与えられるであろう修復の全ての恵みを、彼らにお与えになる。彼らの不完全さ避けがたい弱点は、キリストの「義の上衣(イザヤ 61:10; 啓示 3:5)」によってカバーされている。これらはキリストの教会クラスのメンバーであり、彼らは特別な目的のために世界に先駆けて試される。彼らはキリストと同僚になり、千年王国時代に世界を祝福することになっている。教会の「最初の復活(啓示 20:6)」と後の人類の復活には大きな違いがある。教会の復活は瞬間時に「栄光と名誉と不滅」(ロ

一マ2:7)になる。教会クラスの試練は、「この現世の邪悪な世界(ガラテヤ1:4)」の難しい状況の下にあり、その中で彼らは「正義」のために苦しんでいた(マタイ5:10)。彼らは、第二の復活の世界のために、義のために苦しむのではなく、義のために一歩ずつ繁栄するだろう。自発的で従順な人達は、王国の時代に完璧に向かって成長するにつれ、徐々に精神的、肉体的弱点を取り除いていこう。地上の永遠の命が彼らの報酬となるだろう。

希望の光

人類に課された最初の罰は死だった。「しかし、善悪の知識の木については、あなたはそれから食べてはならない。それから食べる日にあなたは必ず死ぬからである(創世記2:17)。」その結果、アダム全ての後世の経験は多かれ少なかれ苦しみ、やがて全て死ぬのである。罪に対する罰は、生き返る特権なしで死ぬことだった。しかし、アダムとイブが共に罪を犯し、罰が宣告された直後、神の自由な恩寵のヒントが与えられた。この希望の光は、イブを誘惑するためにサタンが使用した蛇に、神が言われたことから来た。神は蛇に、彼の働きは母親のイブの後世を傷つけるが、彼女の「子孫」は致命的にサタンを傷つけるだろうと言われた。「そしてわたしは、お前と女との間、またお前の胤と女の胤との間に敵意を置く。彼はお前の頭を砕き、お前は彼のかかとを砕くであろう(創世記3:15)。」

ずっと後に、神がアブラハムに、彼の「子

孫」において、地上の全家族が祝福されると約束なされたとき(創世記12:3)、希望の光が輝き続けた。この約束は復活―修復―を意味した。何百万もの人が死んでいて、祝福を受けるためには彼らを蘇らせる必要があっただろう。

しかし、どうしてそのような祝福が来るのだろうか？ 神は自分の心を変え、呪いに服従するでしょうか？ 神は考えを変えて、呪いに服従なさるのだろうか？ それとも神は人類に代わって債務を支払うようと調停なさるだろうか？ 勿論、後者である。イエスがその借金を肩代わりなされた方である。神は実際にアブラハムに、現実的な教訓として、罪の支払いがどのように一命でもってなされるのかを実証なされた。アブラハムは、約束の相続人である自分の親愛なる息子、「あなた(アブラハム)の愛する」イサクを犠牲にするように求められた。それは、アブラハムの信仰を試す、心を痛めるテストだったが、彼は従順だった。イサクを殺そうとした最後の瞬間に、主の天使が介入し、代わりに犠牲のラムを用意した(創世記22:1-18)。このようにして、信仰ゆえに、アブラハムは息子を死から「生身で」受け取ったのである(ヘブライ11:19)。その結果として、神はアブラハムと私たち全員に、容赦ない正義、また比類のない愛保証なされたのである。神は「ご自身の御子をさえ惜しまないで、わたしたちすべての者のために〔死に〕渡された(ローマ8:32)」のである。

アダムの身代わり

アダムの子孫は全て、彼が罪を犯したときに罪の宣告を受けた。イエスには、自分の完璧な血統を生み出す潜在力があつたが、対応価格としてアダムの身代わりとなって死んだ。イエスは、自分の子孫を生み出す前に、命を「断たれて」死んだ(イザヤ 53:8)のである。こうして、イエスは私達の全人類を完全な権限で買い取り、それを修復なさった。

正義のバランスは明確である。イエスは、死んだ。「義なる方が不義の者たちのためにです。それはあなた方を神に導くためでした。(ペテロ 3:18, 新世界訳)」それにもかかわらず、一人ひとりが今、福音時代又はそれ以降、王国時代の間も、神の恵みを個別に受け入れなければならない。自動的に「義にされる」者はいない。王国では、大多数の人が義にされる機会を得るだろう。

「このようなわけで、ひとりの罪過によってすべての人が罪に定められたように、ひとりの義なる行為によって、いのちを得させる義がすべての人に及ぶのである。5:19 すなわち、ひとりの人の不従順によって、多くの人が罪人とされたと同じように、ひとりの従順によって、多くの人が義人とされるのである(ローマ 5:18, 19)。」

かつて人類に死刑を宣告した確固たる正義が、今は全てを救うことを誓っている。現代は、私たちは罪を告白し、贖いの贈り物を受け入れることができる。「だれが、神

の選ばれた者たちを訴えるのか。神は彼らを義とされるのである。8:34 だれが、わたしたちを罪に定めるのか。キリスト・イエスは、死んで、否、よみがえって、神の右に座し、また、わたしたちのためにとりなして下さるのである(ローマ 8:33, 34)。」この福音時代には、ほんの少数の人が救い主を受け入れた。「新しい契約」の下では、ミレニアル時代に、残りの人々に目を開いてキリストを受け入れる機会が与えられる(エレミヤ 31:31-34)。

イエスが死んでから約 2,000 年が経過しているが、アダムのような罪による死からの修復がまだ未達成であるという事実は、ミレニアル王国の人類の救済に反対する議論ではない。神は、アダムが罪を犯す前に、「世界の基盤から殺される子羊」を計画なさっていた(啓示 13:8)が、その約四千年後までイエスは「世の罪を取り除く神の小羊(ヨハネ 1:29)」として死ぬことはなかった。

使徒ヨハネがイエスについて話したように、「彼は、わたしたちの[教会の]罪のための、あがないの供え物[賠償]である。ただ、わたしたちの罪のためばかりではなく、全世界の罪のためである(ヨハネ第一 1:29)。」もうすぐ全世界が機会を得るだろう。

キリストの信者は、信仰によって正当化され、精神の成果を發育させなければならない。そのとき初めて彼らは「永遠の王国」への豊かな入口へ入ることができるのである(ペテロ第二 1:4-11)。クリスチャンは、「命の冠(啓示 2:10)を受け取るには、「死に至るまで忠実」でなければならない。

未だいくぶん「この世の神(コリント第二 4:4)」に盲目な他の人々—そして過去の時代の全ての死者も同様に—は、王国の間、永遠の生命のために彼らの合理性や価値を証明する完全な機会があるだろう。

死—罪に対する罰

残念なことに、キリスト教徒の中には、永遠の拷問という考えを抱いている人がいるようである。私達の愛情深く公正な神が、苦しみの人生を永遠なものにして何の目的を果たすのか？ 苦しみではなく、死—消滅、命の反対—が罪に対する罰であった。罪の応報は死であるが、神の贈り物は、私達の主イエスキリストを通しての永遠の命である(ローマ 6:23)。「われわれはみな羊のように迷って、おのおの自分の道に向かって行った。主はわれわれすべての者の不義を、彼の上におかれた(イザヤ 53:6)。死んだ者は—一部の人が思うように—死後、苦しんで生きているのではない。死者は何も体験しない。彼らは単に、復活するまで、平穏な死の眠りについて待っているのである。聖書は、「死者は何事をも知らない」と伝えている(伝道の書 9:5)。

イエスは罪に対する罰を、「命には命(申命記 19:21)—死後、何かの猛火の穴で「苦しむ」ことによってではなく、死ぬことによって—贖った。死が処罰だったので、キリストは「私達の罪のために死んだ」のである。贖いとしてのイエスの死は、まさしく神の計画の基盤である。エデンの園の蛇は、「あなたがたは決して死ぬことはない(創世

記 3:4)」と言った時、イブに嘘をついた。残念なことに、サタンは嘘は何世紀にもわたって繁栄し、殆どの世界の宗教に埋め込まれ、キリスト教にさえ浸透している。人が死ぬ時、その人は彼は死んでいる—彼らは感じることも、呼吸をすることも、考えることも、食べることも、話すことも、見ることもできない(詩編 146:4)。永遠の拷問やその他何でも経験するために「生きる」ことは、「あなたは必ず死ななければならない」という神の言葉を無効にすることになるだろう。死者が復活するまでは、人が死後何かを体験するというのではない。

イエスはアダムの死から私達を救ってくださる救い主である。故意の罪に対する究極の刑罰は「第二の死」であり、第二の贖い人は存在しないため、第二の死からの解放はない(ヘブライ 10:26)。しかし、二度目の死はアダムの死から解放された人々—この時代の聖者、贖いを受けた人、またはミレニウム時代に贖われた世界—だけに適用される。

復元は実用的か？

もっともな疑問である。数十億人もの死者が再び生き返ると、地上に彼ら全員のためのスペースがあるだろうか？ 地球は全ての復活者を維持できない広大な墓地だろうか？

そうではない。このことに問題はない。神はアダムとイブに、「生めよ、ふえよ、地に満ちよ(創世記 1:28 口語訳)」と言われた—そして神はそれに応じて計画なさるほど賢

明な方である。人口推計局は、人類の世界人口を約 1070 億人と推定しており、それは 10,000 年遡るといふ。キリストの最初の来臨以降の時代をヘブライ語の旧約聖書に加えた年代記は、実際に約 6,000 年の人類の歴史をカバーしている。聖書は、人口を 8 人にまで減らした世界的な洪水も記録している。しかし、もっと気前よく、提案数の 1070 億人から 2 倍以上の 250 億人ほどとしよう。

アメリカでは、テキサス州だけで 2 億 5,000 万人がそれぞれ約 30 平方フィートの立つ余地がある！ 南アフリカでは、各人が 52.6 平方フィートの面積を持ち、フランスでは、復活した人それぞれが、約 23.7 平方フィートの面積を持つことになる。それなら、残りの世界は、人口拡大のために対応できるだろう。確かに、スペースは問題ではない！

地球はそんな人口を支えることができるのか？ できる。今日の農業技術も、この数を供給することができる。加えて、ミレニアム期には地上の「呪い」(創世記 3:17,19) が解除される。「地球の産出量が増えるだろう(エゼキエル 34:27、啓示 22:2)。」「さばくは喜びで花咲き、荒野に水がわきいで、さばくに川が流れる(イザヤ 35:1,6)だろう。」天が常に神の御座である一方、神はこう言われた。「地はわが足台である(イザヤ 66:1)―「わたしはわが足をおく所を尊くする(イザヤ 60:13)。」

回復 v 進化

人間が進化のプロセスによって、ますます良い状態に進化しているのなら、人を元の状態に戻すことに対し、回復の何が良いというのかと尋ねる人がいるかもしれない。現代のテクノロジーの見事な業績は、人類の知性が向上していることを示しているように見える。回復の時代は人類への恵みの逆ではないだろうか？ とんでもない！ 進化論は広く受け入れられているが、理論に過ぎず、決して実証されていない。科学コミュニティ自体の中で、進化の理論に挑戦し、代案として「知的デザイン」を提案する動きが高まっている。進化は科学的な方法では証明することも、人間の起源、墮落、運命に関する聖書の説明と調和することもできない。聖書は、人類が神のイメージで創造され、罪と死に落ち、贖いを通して元の完全さに回復されると明確に述べている(創世記 1:27; ローマ 5:10-21; 啓示 21:3,4)。

今日の技術は、進化や知能の向上ではなく、知識の蓄積による自然な成果である。印刷の発明は、情報の普及を可能にした。無料の公立教育の台頭は大衆への識字率を伸ばし、そして今では、コンピュータ、インターネット、および他の電子メディアを通じた知識の急速な交換が、急速な技術的成長をもたらしてきた。

知識の増加—問題

知識の蓄積を通して、科学は大きな進歩を遂げた。コミュニケーション、医療、農業、

交通、探検は全て目覚ましく改善された。しかし、これらの進歩には、問題も伴った。汚染、核廃棄物、化学毒素、大量破壊兵器、ふたつの世界大戦、ホロコースト、テロリズム、大量虐殺なども知識が増加した成果である。これらの世界的な問題を解決するためのあらゆる努力は殆ど成功していない。

聖書の預言は、この時代の末期に知識が増えることを俊示しているが、その影響は問題になるだろう。「その時ミカエルが立ちあがります。あなたの民を守っている大いなる君また国が始まってから、その時にいたるまで、かつてなかったほどの悩みの時があるでしょう…あなたは終りの時までこの言葉を秘し、この書を封じておきなさい。多くの者は、あちこちと探り調べ、そして知識が増すでしょう(ダニエル 12:1,4)。」「その時には、世の初めから現在に至るまで、かつてなく今後もないような大きな患難が起るからである(マタイ 24:21)」

戦争—そして平和

国連の庭にある、剣を曲げて耕作にしている男性の像は、戦争の終結と地球上の平和の確立に関する『イザヤ書』2章 2-4節の預言を適切に示している。「終りの日に次のことが起る。主の家の山は、もろもろの山のかしらとして堅く立ち、もろもろの峰よりも高くそびえ、

すべて国はこれに流れてき、多くの民は来て言う、『さあ、われわれは主の山に登り、ヤコブの神の家へ行こう。彼はその道をわれわれに教えられる、われわれはその道

に歩もう』と。律法はシオンから出、主の言葉はエルサレムから出るからである。彼はもろもろの国のあいだにさばきを行い、多くの民のために仲裁に立たれる。こうして彼らはそのつぎを打ちかえて、すきとし、そのやりを打ちかえて、かまとし、国は国にむかって、つぎをあげず、彼らはもはや戦いのことを学ばない。」

神しか永遠の平和をもたらすことができない。彼の息子イエス、すなわち「平和の王子」が彼の王国を確立すると、彼は「地のはてまでも戦いをやめさせ…『静まって、わたしこそ神であることを知れ。わたしはもろもろの国民のうちにあがめられ、全地にあがめられる』(詩篇 46:9,10)。」

人は初めに新しい心を必要とする。

この時代を終える紛争は、利己的行動に基づいている。そしてこれによって、利己的な人間の心は、知識から得られる増大した力に対処できないことを世界に示している。技術は王国では役立つだろうが、最初の課題は人間の心を浄化し、再構成することである。「そしてわたしはあなた方に新しい心を与え、あなた方の内に新しい霊を置く。また、あなた方の肉から石の心を取り去り、あなた方に肉の心を与える(エゼキエル 36:26-27、新世界訳)。」愛が人の心の中の利己主義に取って代わるだろう。

知識の増加は、人間がより良いものに進化していることを示唆するものでもない。神は自分のイメージで完璧な人類を創造したが、人類が自分の道に行ったのである[見

よ、わたしが得た事は、ただこれだけである。すなわち、神は人を正しい者に造られたけれども、人は多くの計略を考え出した事である(伝道の書 7:29、口語訳)。」人類は、現在の悪の許可の中で経験によって学んできたが、最後の実験は増加した知識のようである。悟りの華々しい輝きは、雷の災害を伴うのである。

「主のいなずまは世界を照し、地は見ておののく。もろもろの山は主のみ前に、全地の主のみ前に、ろうのように溶けた。もろもろの天はその義をあらわし、よろずの民はその栄光を見た(詩篇 97:4-6、口語訳)。」最終的な効果は、人間の祝福である。人々

は元の完璧に修復され、平和的に、協力的に暮らし、それぞれが共通の豊かさと全体の喜びに加わる。「彼らはわが聖なる山のどこにおいても、そこなうことなく、やぶることがない。水が海をおおっているように、主を知る知識が地に満ちるからである(イザヤ 11:9)。」

イエスが全ての人のために亡くなったので、神様が望んでおられる素晴らしい恵みは、今までに生きた全ての人に保障されているのである。「回復の時代」の復活は、元の完全さと彼がエデンで持っていた全ての恵みを人類にもたらすだろう。神の慈悲と愛は、感謝する世界を驚かせ、歓喜するだろう。

◆ 研究 10 ◆

天国の性質と人間の性質の区別

人類のための神の素晴らしい計画は、人類を、アダムが不従順によって失った本来の人間の完成に修復することである。これに対する例外は、神が人間の性質から霊的な本質に変わるキリスト教会であろう。中には「救われた」人々はすべて天国に行くと思っている人がいるが、これは真実からほど遠い。ミレニウム時代に救われた人々は一世界の大部分であるがそうであるが一地上の完璧な家を与えられるだろう。教会だけが霊性を持っているのである。

神は、世界と教会の両方を、イエス・キリストを通してアダムの罪から救うだろう(テモテ第一 2:4-6)。この福音時代の「高貴な天命」に応答した教会だけが「神聖な性質の参加者」となるだろう(ペテロ第二 1:4)。

完璧な人間にある神のイメージ

完璧な人間とは何かについて、多くの誤解がある。人は正義、愛、理性を持って、神のイメージで完璧に創られた。神は、墮落した人にでさえ、「さあ、われわれは互に論じよう(イザヤ 1:18)」と言われる。もちろん、人間のこれらの性質の限界は、神に比べて極めて劣っている。それにもかかわらず、アダムは完璧に創られた。イエスも完璧な人だった(テモテ第一 2:5)。アダムとイエス以外には、完璧な人がいたことはないの

である(ローマ 3:10,23)。

エホバが総体的な支配者であるように、人間も地上の全ての生き物に対する統治権を与えられた(創世記 1:26)。人間の支配権は『詩篇』8章 5-8節に記されている。『ただ少しく人を神よりも低く造って、栄えと誉とをこうむらせ、これにみ手のわざを治めさせ、よろずの物をその足の下におかれました。すべての羊と牛、また野の獣、空の鳥と海の魚、海路を通うものまでも(ヘブライ 2:7も参照)。』神は、自分が創り終わった全ての物を見られて、「非常に良い」と言われた(創世記 1:31)。

人間が「天使よりも少し低い」と言うことで、聖書は人類が天使よりも低い次元に創られたことを意味している。(『ヘブライ人への手紙』第2章 7節)の訳には、「天使たちより少し低い」と訳されているものがあるが、これは誤訳である。)

『ヘブライ人への手紙』2章 7-9節では、使徒パウロが詩篇 8を引き合いに出すとき、神は栄光と支配権を持って創造された人を忘れず、世界をその栄光に戻そうとしていることを示している。神の目的は、人類を地上の王にすることだった。人間の支配権は罪によって失われ、まだそれは返還されていないが、その修復のための神の計画が始まった。イエスが死ぬことによ

って、世界に償還の代価を与えたのである。イエスは、人の代償代理人として、「すべての人のために死を味わう」ために、「天使より少し低く」創られたのである(ヘブライ 2:9)。

自然における明確なカテゴリー

ランクや度合いが低いほど完璧でないというわけではない。創造物は低い次元の存在物で完璧でもあることもある。異なるランクの創造物に注目していただきたい。

天の霊的な存在	この世の存在	植物界	鉱物界
神聖 — — 天使的	人間 動物 鳥類 魚	木 低木 草 藻類	金 銀 銅 鉄

最も純粋な銅は依然として純金よりもランクが低く、美しい完璧な草は木よりも複雑さが低い。最高級の鉱物でさえ、植物よりも低い。植物には命があるからである。さらに、最も壮大な樹種は、どの動物よりも低く、動物はある程度の知能を持っているが、最先端の動物は人間よりも低い。完璧な人間の性質は「天使より少し低い」-精神的な性質から区別され、より低いのである。同様に、神聖な特質は、熾天使や智天使のようなその他全ての霊的な特質より最も高く上質である。

失われたものに復元

もともと、人は神のかたちで完全に創造された。彼が罪を犯した後、人間の性格と体力が低下した。洪水前の人間の平均余命は数百年だった。洪水の後、そしてそれに続く世紀を通し、人間の平均余命は劇的に減少した。20世紀初頭の高度の乳幼児死亡率は、平均を約30年にまで

下げた。今日、医療の発達をもっても世界中の平均余命は約66歳に過ぎない。

しかし、墮落した人類は、キリストのミレニアル統治の間に再び心身共に完璧に回復するであろう。イエスは「[人類が]失ったものを救う」(ルカ 19:10)のために死んだので、人類は完全に回復するだろう。彼らは天国の家で霊の存在になることはない。そのようなものを失わなかったからである。彼らがアダムを通して失ったのは、この世の完全性だった。彼らがキリストを通して回復するのは、アダムの完璧な人間生活と地上の完璧な楽園で失ったものである。

私たちの主は神霊であり、代役、罪びとのための贖いになるには、肉体にされなければならなかった(ヨハネ 1:14)。彼は、「むしろ、自分を無にして奴隷の形を取り、人のような様になりました。それだけでなく、人の姿でいた時、彼は自分を低くして、死、それも苦しみの杭の上での死に至るまで従順になりました(フィリピ 2:7,8,新世界訳)。」

イエスが‘地上に來られる目的は、天使達を救うことではなく、人類の世界を救うことだった。こうして、彼は靈的性質を脇に置いて、「アブラハムの子孫」のように人間になったのである(ヘブライ 2:16)。人類のために進んで贖いとなった従順さのために、「神は彼をさらに上の地位に高め、[他の]あらゆる名に勝る名を進んでお与えになったのです(ピリピ 2:9、JLB)。キリストは、神によって「天使よりもはるかにまさった存在」とおなりになったので、復活して「天におられる偉大な神のそばにいらっしゃる」(ヘブライ 1:3-5 JLB)。

人としてのイエスの完璧さ

したがって、神の性質と、天使の性質、そして人間の性質は別々で独特である。イエスは天使の性質を取ったのではなく、人の性質を取ったのである。墮落してのでも不完全でもなく、人間の完璧さの活力にあふれていたのである。彼は、「聖にして、悪も汚れもなく、罪人とは区別され」ていた(ヘブライ 7:26)。完璧な人間としてのみ、完璧な人であるアダム(テモテ第一 2:6)の失われた命のために、イエスは対応価(贖い)になれたのである。神がモーセにお与えになった律法は、完璧な人類の能力の基準だった。法律を完全に守ることにより、イエスは彼が罪を犯していないことを実証し、命の権利を得たのである。

イエスは決して二つの性質—人間と聖靈—の融合ではなかった。イエスは聖靈的人生を去ってマリアの子宮の中で「肉体」とな

った。イエスが人間とみなされていたとき、30歳で自分の人間の人生をバプテスマで献身的にささげた。「天が開け(マタイ 3:16)、イエスは、彼が自分の人生の犠牲を忠実に遂行するなら、神の性質の誓約を一彼の上に降りてくる鳩の形で、与えられた。自分の人間性を犠牲にした後、イエスは十字架の死に至るまで従順となったのである。それから、復活の際、神は彼を高く引き上げ、「すべての名にまさる名を彼に賜わった(ピリピ 2:8,9、口語訳)」。イエスは性質の変化を2度経験したが、性質が混合したことは1度もなかったのである。

永遠に完璧な人間

イエスは、「失われたもの」に相当するもの—完全な人間性—を犠牲にした(ルカ 19:10)。イエス・キリストの贖いの犠牲は、それに反した罪の宣告から人類を買い上げた。従って、人類は再び栄光ある完璧な人間性を受け取るだろう。王国では、人間の完璧な能力と力が、新しい様々な関心事に対し華麗に遂行されるだろう。人間の知識と技能は極度に増加するが、この知識と力の増加が性質の変化をもたらすことはない。それは完璧な人間の能力の可能性を満ち、永遠に恵まれた特権となるが、それでも人間は人間のままだろう。

イエスが人間だったとき、彼は修復された人類の完璧な人間性のモデルだったが、彼の復活以来、イエスは栄光ある神聖の模範であり、克服する教会は、復活の際にそれを彼と分かち合うだろう。

この時代の主な仕事は教会の発展であるため、使徒たちの書簡は、「小さな群れ」の準備に専念している。しかし、神の計画が教会で終わると推論すべきではない。また、克服する教会への「極めて壮大な約束（ペテロ第二 1:4、新世界訳）」がすべての善良な人々を対象としていると推測すべきでもない。「真理の言葉を正しく使い分け（テモテ第二 2:15）」と、神聖が教会へ提供するものと、王国時代の世界に完璧な人間性が提供するものの中に、明確な違いがあることがわかる。

天と地の栄光は別々で異なる

中には、霊的存在がどのようなものか理解していないために、それを迷信的な神話だと思っている人がいる。しかし、パウロは、生まれながらの人は霊的なことを理解できない、何故ならそれが彼にとって愚かなものだからであると言っている（コリント第一 2:14）。この使徒はこのように言っている。「人の肉があり、獣の肉があり…天に属するからだもあれば、地に属するからだもある。天に属するものの栄光は、地に属するものの栄光と違っている（コリント第一 15:39,40）。」

人間の完成は想像可能かもしれないが、天の栄光は信仰の目によってのみ理解されるのである。「肉から生れる者は肉であり、霊から生れる者は霊である。あなたがたは新しく生れなければならないと、わたしが言ったからとて、不思議に思うには及ばない。風は思いのままに吹く。あなたはその

音を聞くが、それがどこからきて、どこへ行くかは知らない。霊から生れる者もみな、それと同じである（ヨハネ 3:6-8）。」 霊的な存在は風のようなもの—見えないもの—なのだ。ヨハネが言ったように、「私達は彼に似るものとなる（ヨハネ第一 3:2）」という以外、「私達は何であるか」を説明することはできないのである。

神の御子の性質は二度変わったが、これは例外で、神の計画において非常に特別な目的を果たすものだった。天使は霊的存在として創造され、疑いもなく常に霊の存在のままになるだろう。この世もそうである。彼らは生まれつきの人間であり、ミレニウム時代に永遠の命を得るときには人間のままであろう。神の性質への教会の呼びかけは、イエスの経験—例外—と同様である。

神の現在の地上の創造物は、限りなく美しく多様性に富んでいる。完璧に修復された時にはそれはもっと壮齢に輝くだろう。しかしながら、天性の栄光は筆舌に尽くしがたく、人間に想像できるものをはるかに上回るであろう。

天使は人目につかないように出現する

天使は出現することができ、出現することが多いが、人の目には見えない。「主の使は主を恐れる者のまわりに陣をしいて彼らを助けられる（詩篇 34:7）。」「御使たちはすべて仕える霊であって、救を受け継ぐべき人々に奉仕するため、つかわされたもの

ではないか(ヘブライ1:14)。」また天使たちは神の老いた人々も保護した。エリシャが大勢のアッシリア人に囲まれたとき、彼の僕は恐れた。エリシャが神に祈ると、若者の目が開いて、若者は火の戦車に乗った騎士で満ちた山々を見たのである(列王記第二6:11-17)!

天使は人間ではなく精神であるが、人体に実体化して男性として現れる能力がある。天使がギデオンに男として出現したが、その後、自分自身を知らせた。また、一人の天使はサムソンの両親に現れた。彼らは炎に包まれ天に上るまで、彼を人間だと思っていた(士師記6:11-22; 13:20)。

出現の機会

特定の機会に、天使たちは壮齢で輝かしい状態で出現した。イエスの墓の扉から石を転がした天使は、「雷のよう」(マタイ28:2,3)だった。ダニエルは「その目は燃えるたいまつのごとく、その腕と足は、みがいた青銅のように輝く(ダニエル10:6)」天使を垣間見た。サウルは、「太陽よりもっと光り輝く」復活したイエスを垣間見た(使徒26:13)。サウルに同行していた者は、実際には復活したイエスを見ることはなく、彼の声を聞いただけだった(使徒9:7)。ダニエルと共にいた人達は、ダニエルが描写した輝かしい人とは言葉を交わさなかったが、大きな恐れをもって逃げ隠れた(ダニエル10:7-19)。イエスが昇天なさる前の40日の間、彼はほんの少数の機会にだけ、肉体化して目撃されたが、初めは使

徒たちには認識不可能だったことが多かった。精神の存在は、その性質上本当に壮齢であるか、特別な場合に出現する時や人間が特別に目を開いて見る場合を除き、目には見えない。

したがって、精神と人間の性質がはっきりと分かれていることがわかる。聖書は、人類が自然に霊的存在に発展するという証拠を提示していない。例外は、イエスと彼の忠実な信者の「小さな群れ」である。彼らは、ミレニウム時代に世界を祝福する名誉を与えられた(ピリピ2:8-11; ローマ2:7)。

死ぬべき運命と不滅の命

「死ぬべき運命」とは、死が可能な状態または条件を意味する。「不滅の命」とは、死が不可能な状態または状態を意味する。これらの意味は、人間と霊的存在に対する希望の違い、俗界の約束、天の約束と一致している。

アダムが創造されたとき、彼は不滅ではなかった。彼が不滅だったら、神は彼に「あなたがそれを食べる日に、あなたは必ず死ぬ」とは言わなかっただろう。アダムは完全に創造されましたが、彼がいる状況は死が可能だった。アダムの命は「園のすべての木」によって持続され(創世記1:29,30)、それは彼の創造主に従順であった。

天使もまた死ぬべき運命にある。彼らの命は、神への忠実性にかかっている。神に反抗し、改めなかった者は、最終的に破壊されるだろう。天使達が死ぬ運命にあるという証拠は、何時かは、主天使の一人であ

る悪魔が滅ぼされるという聖書の宣言にある(ヘブライ 2:14)。人類と天使の両方の安全は、常に全知の愛の神に従順でいることに依存する。聖書のどこにも、天使や修復された人類が不滅であることを教えているところはない。

不滅は、神性だけが持つものである。元来、エホバだけが不滅だった。その後、私たちの主イエスは、神性の地位に高められた時、それを授かった。やがてキリストの教会が彼と共に栄光を受けると、全てに不滅性が与えられるのである(ヨハネ 5:26、ペテロ第一 4、コリント第一 15:53,54)。

矯正できない罪人は一人間であれ、霊であれ—消されてしまうだろう。他の全ては、死ぬ運命にあるものも不滅なものも、永遠に愛と幸福のなかで生き続けるだろう。不滅の者、栄光の聖者は、自分自身のうちに命を持つだろう(ヨハネ 5:26)。悪の知識を経験して完全になる死人は、「生命の木への権利」(啓示 22:14)で永遠の命を与えられるだろう。

死者と不滅の聖書の意味を理解することは、永遠の苦しみの教義の根底を破壊する。神は人間を不滅に創造しなかったので、破壊することはできなかった。「あなたがたは決して死ぬことはないでしょう(創世記 3:4)」というのはサタンの嘘だったのである。故意の罪人が、どこか悲惨なところで永遠に生かされることはない。彼らはただ死んで二度と目を覚ますことはないのである。どのみち彼らは義の社会では幸せではなく、「第二の死」(啓示 21:8)で慈悲深く滅ぼさ

れるのである。

正義と神の恵み

正義は、彼の恵みを神が全ての創造物に平等に捧げることを必要としない。神は、御子—イエスの忠実な信者も同様に—を神性に高められる権利を持っておられたが、天の天使のような他からの招待を控えた。

正義は、全てのレベルの生命を平等に高揚させることを必要としない。そうでなければ、神は、不条理な獣や昆虫に不死を与えることを必要とするだろう。神は君主であり、彼の知恵が示唆する時にいつでもどこでも彼の恵みを広げることができる。「ああ人よ。あなたは、神に言い逆らうとは、いったい、何者なのか。造られたものが造った者に向かって、『なぜ、わたしをこのように造ったのか』と言うことがあろうか。陶器を造る者は、同じ土くれから、一つを尊い器に、他を卑しい器に造りあげる権能がないのであろうか(ローマ 9:20,21)。」

自然の全ては、生物も無生物も、神の力と知恵の栄光と多様性を示している。「もろもろの天は神の栄光をあらわし、大空はみ手のわざをしめす(詩篇 19: 1)。」

恵みは、正当に評価された報酬として考えられるべきではない。無益な恩恵の無限の洪水の中で、神はご自分の創造物に大きな愛を示された。人生の毎日は贈り物である！ 私達が知的に神を崇拝できるように、私達が動物ではなく人間だというのは、神の恵みである。それなら、一度罪のために失われた永遠の命の修復の恵み

は、どれほど偉大であろうか。キリストの花嫁の一員になって、私達の主と王であるイエスと共に神性を分かち合うという招待を考えると、私達の感謝の気持ちが溢れる(啓示 21:9、詩篇 45:10-17)。

人類に天使を目指す権利がないように、天使には神性を願う権利がない。それは決して与えられなかった。ルシファーは実際に神のようになることを切望した。「黎明の子、明けの明星よ、あなたは天から落ちてしまった。…あなたはさきに心のうちに言った、『わたしは天にのぼり、わたしの王座を高く神の星の上におき、北の果なる集会の山に座し、雲のいただきにのぼり、いと高き者のようになろう』。しかしあなたは陰府に落され、穴の奥底に入れられる(イザヤ 14:12-15)。」しかしサタンはやがて神が決めた時に滅ぼされるだろう。神は低下の種類や昇天の程度を決定なさるが、原則が適応する。すなわち「おおよそ、自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるであろう(ルカ 14:11)」。

選挙—無条件それとも条件付き？

聖書で教えられる「選挙」のテーマは、多くの論争や誤解の原因となっている。選挙は無条件であり、恣意的だという人がいれば、条件付きだという人もいる。両方の見解にも真理の尺度がある。神の選挙は、特定の目的—神の創造物が天使であれ、人類であれ、鳥であれ、昆虫であれ—のための選択を表明する。どのレベルにおいても命は純粋に神の恵みである。

神は、人類に選ばれた教会を持つことを選びになり、神性を達成する者によって満たされる条件を定められたのである。ゆえに、それは人間の意志や努力によるのではなく、ただ神のあわれみ—やさしさや親切心—によるのである(ローマ 9:16)」。神は「陶工」であり私達は「粘土」である(ローマ 9:20,21)。彼は一つの器をより高潔—神性のよう—に、他の器をそれほど高潔でないか、より低い性質のものにお創りになることができるのである。

「イスラエルの聖者、イスラエルを造られた主はこう言われる、『あなたがたは、わが子らについてわたしに問い、またわが手のわざについてわたしに命ずるのか。わたしは地を造って、その上に人を創造した。わたしは手をもって天をのべ、その万軍を指揮した。…天を創造された主、すなわち神であってまた地をも造り成し、これを堅くし、いたずらにこれを創造されず、これを人のすみかに造られた主はこう言われる、わたしは主である、わたしのほかに神はない』(イザヤ 45:11,12,18)。」

誰かが、神—人類が住むように地球を形成なさった—に、神が人類の性質を神性に変えないとは、不当だと指示するのは、厚かましくないだろうか？ いやむしろ、私達は謙遜して神の言葉を研究し、神の計画を理解し、身に余る恵みに感謝すべきである。

人類—神の手仕事

人類は神の手仕事である。ダビデは、人は「栄と誉」と戴冠して創造され、「み手の

わざを治めさせ、よろずの物をその足の下におかれました(詩篇 8:4-8)。」使徒パウロはさらに、人は地上の復活―「地上の栄光」を体験すると説明している。それと対照して、教会の会員は「霊的な身体」を受けるだろう(コリント第一 15:38-44)。使徒ペテロは、「回復の時」(使徒 3:19-21)の間に、人類は元々所有していた、栄光ある完全なアダムに修復されるだろう。

社会は、とても平和で美しいだけでなく、地球自体がエデンのような楽園になるであろう。もはや「あなたは顔に汗して」働くことはないが、(創世記 3:19)、地球は自然に「産物を出す(エゼキエル 34:27)。」完璧の域に達成した後、人々は発達し、最大限に成長するだろう。彼らは、他の自然や家を、望み渴望しないだろう。彼らは、驚くほど喜んで満足するであろう。

キリスト教会―運命づけられている

キリスト教の教会―キリストの身体―は、神の全般的な人類計画の例外である。「世界の創設」以前でさえ、神は教会の正当化、神聖化そして賛美を運命づけられた(エフェソス 1:4,5)。神は、教会が「自分の息子のイメージに適合」しており、普遍的な義と平和を確立するため、イエスと共にミレニアル王国の共同相続人になると定められた(ローマ 8:28-31)。

神は教会の選挙は予定なさっていたが、教会の個々のメンバーの選挙は予定されていなかった。神は、教会の準備のための特定の時間として、福音時代を定められ

た。神はまた、約束の祝福を受けるために、このクラスは、「義の成果」(ペリピ 1:11)を達成することにより、特性を発達させる必要があると運命づけられた。世界を克服する者(ヨハネ 5: 4,5)の準備は、信仰の試練と地上の特権の犠牲を―たとえ「死に至っても」―達成されなければならない(啓示 2:10,11,17)。

「あらかじめ定めた者たちを更に召し、召した者たちを更に義とし、義とした者たちには、更に栄光[名誉]を与えて下さった(ローマ 8:30)。」ここでパウロはプロセスを逆の順序で示している。神は、初めに私達に福音のメッセージをお聞かせになり、私達を正当化し、キリストと一緒に高い呼びかけに招待なさることで、私達をお受け入れになるのである。「栄光にされた」という言葉は、『ヘブライ人への手紙』第5章5節のように、ギリシャの doxazo、「栄光」から来ている。』

招かれるものは多いが、選ばれる者は少ない

イエスが聖務を行っている間、教会の信徒を選ぶ際、呼出しはイスラエルにまず行き、次に異邦人行った。イスラエルの拒否と異邦人の呼びかけは、『ルカの福音書』14章 16-24 節の寓話に描写されている。それは、あまりにも他のことに気を取られて、キリストに来る機会を描いた「盛大な晩餐」に来なかった多くの人々のことを語っている。最後に、僕達は「道やかきねのあたり」[異邦人]に出て行って、この家がいつぱ

いになるように、人々を無理やりにひっぱってくるように強制なされた(23節)。結婚式の礼服の寓話(マタイ 22:2-14)では、来た人の中に、イエスの帰依された正義の「衣服」を着た者がいたが、後でそれを脱いだ。教訓は、いったん正当化された人達がキリストの義を拒否すると「暗闇に投げ込まれる」ことである。「招かれるものは多いが、選ばれる者は少ない。」キリストの子羊と諸王の王との勝利者は、「召された、選ばれた、忠実な者たち」と呼ばれる(啓示 17:14)。

教会を選び賛美するため神の予定された目的は確かに変わらないが、この名誉のために選ばれた者は、召しの条件を満たさなければならない。「それだから、神の安息にはいるべき約束が、まだ存続しているにかかわらず、万一にも、はいりそこなう者が、あなたがたの中から出ることがないように、注意しようではないか(ヘブライ 4:1)。」この教会のための神のあらかじめ定められた目的—これはすべての彼の恵みに当てはまる—全般にとって利益になるのである。

ある性質の別の者への変化

聖書からは、人間と霊的な性質が別々—決してブレンドされない—であることは明らかであり、ある性質から別の性質への変化は規則というよりむしろ例外である。キリストとその教会だけが人間から神聖に変わるのである。教会が神性に高められる条件は、イエスの犠牲の足跡に従うことである(ペテロ第一 2:21、マタイ 16:24)。

促進するのは「からだを、神に喜ばれる、

生きた、聖なる供え物としてささげなさい(ローマ 12:1)”—イエスが死ぬまで自分自身を犠牲にしたように—ということである。私達の主は、彼の人間の利益と希望の全てを犠牲にした。彼の信者もそうする。もしわたしたちが苦難をも彼と共にするなら、「わたしたちも栄光を共に受け」(ローマ 8:17,18)、彼と共に「神の性質にあずかる者となる」のである。(ペテロ第二 1:4)

生まれ出てから御霊によって生まれる」

神の「新しい生物」の始まりと発展は、人間の始まりと発展と比較される。神の神聖な命における最初の衝動は、神の言葉により生まれることを通して来る。「父は、わたしたちを、いわば被造物の初穂とするために、真理の言葉によって御旨のままに、生み出して下さったのである(ヤコブ 1:18、ペテロ 1:3)。」そうすれば、私達の心が「変容」するにつれ、新しい霊的生活が成長し始めるのである(ローマ 12:1,2)。しかし私達は、人類の欲望と関心を十字架に架ける間中、実際には霊的な存在ではなく、単に神にそのようにみなされただけである。しかし、人は霊的に「新しい生き物」として考え、行動し始める。

これらの2つのプロセスは、神の意志を行うまで、私たちの完全な聖餐の時から人類の死と霊的な結果の誕生まで、共に進展するのである。人間の欲望や計画などは重要性を失う。神の言葉によって養われ、新しいものは、力強く成長する。神の御子として、御霊は「死ぬべきからだをも、生か

してくださる(ローマ 8:11)。]-私達の死ぬ運命にある体を、「最初の[選ばれた]復活」(啓示 20:6)において

実際の霊の存在になるときの私達の復活まで

「新しい創造物」の僕になさる。「霊から生れる者は霊である(ヨハネ 3:6)。」私たちが墮落して、私たちの胚の新生物が打ち切られない限り(ヘブライ 6:6)-「わたしたちは、土に属している形をとっているのと同様に、また天に属している形をとるであろう(コリント第一 15:49)。」

「兄弟」- 世界ではなく - が栄光に召される

私達の命奉獻することへの招きは、信仰のない世界を対象にはしていない。この提示は、すでにイエスを正当化の方法と信じて、友人として神に近づいている人達を対象とするものである。「兄弟たちよ。そういうわけで、神のあわれみによってあなたがたに勤める。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物としてささげなさい。(ローマ 12:1,2)。」

これらは既に罪から背いている。今、彼らは人間の意志を犠牲にして神の息子になり、新しい命、新しい生き物を開発するように誘われている。神の意志が彼らの意志になり、彼らは神の立場から考え、推論し、判断し始める。神の計画は彼らの計画になり、神のあり方は彼らのあり方となる。彼らは、神の務めに彼らの精力を捧げるために、自分自身で罪を抑制し、現在の快適

なものを犠牲にしている。彼らは心を変え始めるのである。この心の変容は、徐々に行われ、地球が自然に曲がるように[神聖に向けて]徐々に曲がっていく。「あなたがたは、この世と妥協してはならない。むしろ、心を新たにすることによって、造りかえられ、何が神の御旨であるか、何が善であって、神に喜ばれ、かつ全きことであるかを、わきまえ知るべきである(ローマ 12:2)。」私達は、もはや地上での生活は予期しないが、天国の希望をもって「新しい生き物」とみなされるのである。イエスは今や父、「神の本質の真の姿」(ヘブライ 1:1-3)で、奉獻された忠実な克服者は「彼に似るものとなることを知っている。そのまことの御姿を見るからである(ヨハネ 3: 2)。」克服する者は、イエスのような神性を継承するだけでなく、彼と共に彼の王座に座るのだ！「勝利を得る者を、わたしと共に王座につかせましょう。ちょうど、わたしが勝利を得た時、父から、王座に共に座ることを許されたように。(啓示 3:21、JLB)。」

この心の人間から霊への変容は徐々に行われるが、人間から霊的な体への変化は瞬間的—瞬にして、瞬く間である(コリント第一 15:52)。人類の本性は、推論と記憶という点で霊的なものと似ている一方、精神の性質は、人間よりも壮大な力を持っている。

人類の思考は、地球の球に限られている。人類の能力と性質は、人間の利益と地上の幸福に適している。しかし、完璧な人間性の栄光でさえ、今理解するのは難しい。

聖霊によってのみ、私達は人類の運命と聖性の両方の栄光を垣間見ることができるのである。

私達が人間から霊的な性質に変わる前に、私達の精神的な態度は、私達の望む輝かしい霊的な体にふさわしくなるように変える必要がある。これは人類の脳の変化ではなく、意志の高揚と精神的なものに対する心の焦点である。生まれたときに完成した働きの「保障」または約束として聖霊を受ける(エフェソス 1:13,14)のである。「地球上の『外国人また一時的居留者』として、私達は肉の渴望から離れる(ペテロ第一 2:11)。信仰によって、私達は、「キリスト イエスにおいて 一緒に座る(エフェソス 2:5,6)。」

復活後の私達のアイデンティティ

中には、「私達が天の復活の中で “ 変えられた ” とき、どうやって自分自身がわかるのか？ 私達は同じ意識のある存在なのか？」と尋ねた人がいた。確かに、そうである！ 実際、私達の身体は今でも絶え間なく変化しており、古い細胞を捨てて新しいものに置き換えている。科学は7~10年毎に私達の体の原子が更新されると教えているが、私達のアイデンティティは変化しないままである。私達の過去のすべての詳細を常に思い出すことはできないかもしれないが、記憶はまだ記録されており、いつでも呼び出すことが可能である。神聖な性質への変化によって、私達は初期の時代の過去の経験全てを覚えており、それとは対照的に、私達の犠牲の栄光に満ちた

報いを感謝するであろう。

霊性と人間性ははっきりと異なるが、一方はもう一方と似ている。精神的な能力、理性、記憶は、範囲と能力が異なるが、両方に共通している。従って、イエス・キリストは神としての以前の栄光を認識しており、「父よ、世が造られる前に、わたしがみそばで持っていた栄光で、今み前にわたしを輝かせて下さい(ヨハネ 17:5)」とお祈りになった。その祈りは、神の最高の霊様である神に高貴になると豊かに答えられた。その祈りは、イエスが霊性の最も高い位置—神性—に高められた時に十分に答えられたのである。

『ローマ人への手紙』の第12章2節で、パウロは、「そして、この事物の体制に合わせて形作られるのをやめなさい…自分を変革しなさい(JLB)」と言った。私達は自分自身に適合したり変容したりすることはないが、世俗的な影響に身をゆだねるか、神の意志に身を委ねるかのどちらかである。私達はどのような影響に身をゆだねているのか？ もし私達がキリストと共に犠牲になるならば、「死のように一緒に植えられれば」、彼は栄光の復活の姿を分かち合うだろう(ローマ 6:5)。

神の言葉には、地上と天の約束がある。天の約束は、主に仕える犠牲の生活を約束した人々に与えられる。私達の宝は天にある—私達の心もそこあるようにしなさい。私達の希望は素晴らしい。私達の使命は、霊性に対するものだけでなく、霊の最高位のもの—「み使いたちよりも優れた」—に対する(ヘブライ 1:4)。

神の天の使命はこの福音時代に限られている。この提示は以前に行われたことがなく、この時代が終わると終了する。人間性と霊性の両方の性質はどちらも完全に燦然たるものだが、独特で別々のものである。

神様の完成された仕事の壮麗さは、美しく多様性に富むが、生物及び無生物全ての素晴らしい調和は、お互いに調和しあい、神と調和している。

◆ 研究 11 ◆

現在の広い道と狭い道——王国のハイウエー

聖書は3つの道を教えている！一つは破壊へ導く広い道で、現在の人生へ導く狭い道に対比される。将来、ミレニアル時代の間、歩きやすい神聖への道が開かれるだろう。

「狭い門からはいれ。滅びにいたる門は大きく、その道は広い。そして、そこからは行って行く者が多い。命にいたる門は狭く、その道は細い。そして、それを見いだす者が少ない(マタイ7:13,14)。」

「そこに大路があり、その道は聖なる道となえられる。汚れた者はこれを通り過ぎることはできない、愚かなる者はそこに迷い入ることはない。そこには、ししはおらず、飢えた獣も、その道にのぼることはなく、その所でこれに会うことはない。ただ、あがなわれた者のみ、そこを歩む(イザヤ35:8,9)。」

広い道は破壊に至る

破壊につながる広い道は、アダムの罪の結果として成立した。アダムと彼の全人種が、神に逆らった時にこの道を歩み始め、エデンの木を支える人生から取り除かれてしまった(創世記3:23,24)。人類の殆どがこの道にいる。そこで継承された罪をもって赤ちゃんが生まれる(詩編51:5)。何千年もの人類の歴史の後、この下降する広

い道は、罪のためにますます当てにならなくなり、人類は着実に抵抗の力を失った。最近の医学的進歩にもかかわらず、100年まで生き残る人は少ない。

問題は、私たちが死に至る人種に属し、「私達の思いをくらます」、「この世の神」サタンに属している(コリント第二4:4)ということである。多くの人が自分の人生を人類の為に生きようとした。彼らの努力は称賛に値するが、彼らの努力の永続的な成果は一時的で限度があった。時として、科学技術における人類の最善の努力は有害である。殺虫剤 DDT はマラリアや発疹チフスの予防に役に立ったが、環境に対し汚染された毒を加えた。自動車輸送は非常に多くの人にとって恵みであるが、米国では事故死の最も一般的な原因でもあり、年間平均43,000人以上の死者をだしている。原子力は医学と発電の生産において有益だったが、同じ科学が原子爆弾を作り出した。20世紀は目覚ましい進歩をもたらしたが、戦争や大虐殺により2億人近くの死者を出した。

不滅の人生への狭い道には人は殆どいない

福音時代は、破壊につながる広範な道からの逃げ道を明るみにだした。私達の救

い主イエスは、ご自分の死を通して「新しい生きた道(ヘブライ 10:20)」を開き、「福音によっていのちと不死とを明らかに示された(テモテ第二 1:10)。」イエスの贖いの犠牲の結果として、現在の「広い道」にいる人々は全て、神の王国で再び人間の命に蘇らせるのである。「あなたは、死すべき人間を打ち砕かれた物に帰らせ、「帰れ、人の子らよ」と言われます(詩篇 90:3 新世界訳)。」

しかし、永遠の精神的な命への「生き方」は狭い道であり、その道をたどる者はほとんどいない。この「道」の狭さは、多くの人々が広範な道にとどまることを好む原因になっている。

「命にいたる門は狭く難しく]その道は細い。そして、それを見いだす者が少ない(マタイ 7:14)。」

現在の狭い道が導く命は、神性の最高の命の形—神性の精神的な不滅の命—である。不滅とは、無限の生命であり、生存のための外部の栄養に依存しない。それは、死が永遠に不可能であることを示している。

従って、この命を得るためには、罪の悔い改めと、正しく生きること以上のものが必要である。狭い道を歩くには、私達の罪のためにイエスが死に、彼の血によって正当化されたと信じる以上のものが必要である(ローマ 5:9)。私達が、アダムの罪の宣告からの「救い」を受けると、私達は、「神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物としてささげる(ローマ 12:1)」ことを要請される。イエスは私達に自己を「否定」し、十字架を負って

従うように言っている(マタイ 16:24)。

私達は、地上の財産と希望を放棄し、自己を犠牲にして、私達の主に従うことを要請されている。私達の世俗的なものは全て、私達の「誠実さ」を示すための「財産管理」のテストをなさる主のものである(ルカ 16:1-13)。「狭い道を上手く旅しようとする者は全て、「世と世にあるものとを、愛してはいけない(ヨハネ第一 2:15)。」

さらに、命に繋がるこの狭い道は険しい。何故なら、途中に敵、すなわちこの世(ヨハネ第一 2:15、ヤコブ 1:27)、肉(ガラテヤ 2:20、ローマ 7:18)、そして悪魔(ペテロ第一 5:8)がいるからである。しかし、このような困難によって、神は「特殊特権的な人々」を「神の相続人であり、キリストとの共同相続人」(ペテロ第一 2:9; ローマ 8:17)と分けて磨かれるのである。従って、イエスは、私たちの虚弱さを知り、「勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている(ヨハネ 16:33)」と言って、励ましの声を残されたのである。

栄光への道

何という希望であろう！ 私達は大胆にもそのような栄光の高さを切望する勇気があるだろうか？ 確かに、明確ではっきりとした勧誘がなければ、神性は望めないだろう。元来、神だけが不滅だった。それから、イエスの復活の際、父は自分の御子を不死、「神の本質の真の姿」(ヘブライ 1:2-4)に昇らせたのである。「そして子は人の子であるから、子にさばきを行う権威をお与え

になった(ヨハネ 5:26)。」勝利者の小さな群れだけが、他の「神の性質にあずかる者」と約束された(ペテロ第二 1:4)。私達は、神がどのようなものか知らないが、「彼が現れる時、わたしたちは、自分たちが彼[イエス]に似るものとなることを知っている。そのまことの御姿を見るからであるヨハネ第一 3:2」イエスは父への祈りの中で、自分が受ける栄光(ヨハネ 17:22-24)も忠実な信者と分かち合いたいという希望を表明した。この「栄光の望み」は、世界の人々にとって「謎」(コロサイ 1:27)だが、信者は「永遠の栄光」(ペテロ第一 5:10)、すなわち「私達の主イエスキリストの栄光(テサロニケ第二 2:14)」を分かち合うよう要求されている。現在の患難は全て忠実な者が経験する「栄光の永遠の重荷」(コリント第二 4:17)と比べると軽く感じられるだろう。

この「栄光の望み」は、実際にはこの福音時代の間、人生の唯一の供物であるが、人生へのこの狭い道は、その目標物が人間性の犠牲によってしか得られないため、死に様と呼ばれるかもしれない。この現在の命は、アダムの非難の下にあるため、犠牲にすることはできない。犠牲にされるのは、王国で彼らが人類と共に得たであろう、完璧な人間の命である。イエスの犠牲は人類にとっては完全だが、彼らはイエスと共同犠牲者になるよう要請されており、また「キリストとの共同相続人」(ローマ 8:17)となることあり得る。

従って、世界はアダムと共に死ぬが、「小さな群れ」はキリストと共に死に、神性を継承

するのである。「もしわたしたちが、彼と共に死んだなら、また彼と共に生きるであろう。もし耐え忍ぶなら、彼と共に支配者となるであろう(テモテ第二 2:11,12)。」「死に至るまで忠実であれ。そうすれば、いのちの冠を与えよう(啓示 2:10)。」そうすると、イエスとの「小さな群れ」の死と苦しみの目的の全てが達成される。栄光と権力で覆われ、教会はミレニアル時代の世界の残りの部分を修復し、祝福するために援助する準備をするだろう。

王位に就く—または「王座の前」

キリスト教徒全てがこの栄光の王位に就くのだろうか？ 栄光への道は、新しい生き物の胚芽のように、変容した心で始まる。それは苦闘である。「なぜなら、もし、肉に従って生きるなら、あなたがたは死ぬ外はないからである。しかし、霊によってからだの働きを殺すなら、あなたがたは生きるであろう(ローマ 8:13,14)。」新しい精神的な性質を犠牲にして、人間の追求と快楽に耽溺するのは、死んだとみなされる私達の犠牲を取り戻すようなものである。

中には、中道を歩こうとする人もいる。彼らは、「世を友とする(ヤコブ 4:4、ヨハネ第一 2:15)」こと、そして自分の肉体と悪魔の魅力によって、部分的に克服できるようにしながら神の恵みを保とうとするのである。私達の父は、この人達を「その霊が主のさばきの日に救われるように(コリント第一 5:5)」サタンに引き渡すのである。もしも彼らがこれらの激しい試練に適切に反応し、積極

的にキリストに従うことを決めるならば、彼らは天使のような精神生活に「救われる」であろう。しかし、イエスと一緒に王座に座る代わりに、彼らは「御座の前に」勝利のシユロの枝を持つだろう(啓示 3:21; 7:9-17)。そう、狭い道は厳しく、険しいが、私達はこのように約束されている。「わたしの恵みはあなたに対して十分である。わたしの力は弱いところに完全にあらわれる(コリント第二 12:9)。」だから、助けと力を得るため、「はばかりことなく恵みの御座に近づこう(ヘブライ 4:16)。」この道の試練は、正しく使用されると、私達を神聖化し、洗練して、私達が「栄光の王冠」(ペテロ第一 5:4)を伴う神性を受ける準備をするのである。

神聖へのハイウエー

この時代の狭い道は難しく、勝利者に荣誉ある報酬を与える一方、王国で開かれた道は比較的簡単だろう。「そこに大路があり、その道は聖なる道となえられる。汚れた者はこれを通り過ぎることはできない、愚かなる者はそこに迷い入ることはない(イザヤ 35:8)。」狭い道は、合法で適切な人間の希望を犠牲する必要がある、このハイウエーを通る人間は、罪を放棄して従うように要求される。神聖のゴールは人類が完璧な人間—アダムが元来満喫していた神のイメージ—to修復されることである。

罪と不完全さから戻ったこのハイウエーは、意欲的に神聖に前進しようとする人全てのためにある。これはイザヤ書 35 章 8 節のヘブライ語のタナハ(ストーン版)にきちんと

と記述されている。

「そこに細道と道がある。それは「聖なる道」と呼ばれ、汚れた者はそこを横切ることはできない。それはその道を行く者のためのものである。無知な者がそこへ迷い込むことはない。」

道路の終わりまでには、汚れた者は純粹になっているだろう。人々と地の両方が癒されるだろう。「足の不自由な者は鹿のように跳びはね、

口のきけなかった者は大声で叫び、歌います。

荒野には泉がわき、砂漠には川が流れます(イザヤ 35:6 LJB)。「だれもがわたしを心底から知るようになる(エレミヤ 31:34 LJB)。」何故なら、「水が海を満たすように、主を知る知識が地にあふれるから(イザヤ 11:9 LJB)」である。「全民のための贖い」の完全な利益は、このハイウエーにいる人達に開かれている。また、世界を導く育成的で、共鳴的な「王なる祭司(ペテロ第一 2:9)」もある。中には、この王国のハイウエーを福音時代の狭い道と混同しているクリスチャンがいるが、それらは別々で独特のものである。狭い道を歩く忠実な者は、後に王国の間に開かれる義の道を歩く全ての国々を援助するであろう。

象徴的な言語では、ハイウエーについて、イザヤ書は、このように記述している。「そこには、ししはおらず、飢えた獣も、その道にのぼることはなく、その所でこれに会うことはない(イザヤ 35:9)。」今や悪魔は、「ほえたけるしし(ペテロ第一 5:8)」として、忠

実な人を捕らえ、貪り食おうとする。悪魔は、もはや王国で世俗、メディア、エンターテインメント、ビジネスアレンジメントなどに影響を及ぼすことはない。サタンは拘束される啓示 20:1-3)。

ユニセフは、世界中の子供達のために活動している。ハビタット・フォー・ヒューマニティは、貧しい家族のために家を建てる。グリーンピースは、私達の環境のために働いている。世界保健機関(WHO)は、世界の健康危機に対応している。これらは貴重な努力だが、今はある程度の成功しかおさめていない。ミレニアム期に、世界の病気の全てが解決される。価値ある目的を支持することによって仲間を助けようとする気高い人々は、最終的に彼らの希望が満たされ、全ての間違いが正されるのを目撃するだろう。そのような人たちは、自分達自身が王国の神聖のハイウエーをすばやく進歩させ、その結果に喜びを感じるだろう。

「飽くことを知らない野獣もそこに上って来ることはない(イザヤ 35:9 新世界訳)。」凶悪な政府や、利己的で個人的な利益を全般的な利益を犠牲にして進めるために組織された巨大な企業はどちらも容認されないであろう。「主の聖なる山〔王国〕のどこでも、傷つけたり危害を加えたりするものは一つもありません(イザヤ 11:9

JLB)。」邪悪な習慣や悪い性格は逆にする必要があるが、神聖のハイウエーでは、障害物が取り除かれ、進歩の全ての段階ステップに報いが与えられる。「門を通って行け、通って行け。民の道を備えよ。土を盛り、土を盛って大路を設けよ。石を取りのけ。

もろもろの民の上に旗をあげよ(イザヤ 62:10 口語訳)。」

神の栄光へ

狭い道が終わりに近づくにつれ、私達は、聖なる道の開拓のためにもっと熱心に祈り、神の「みこころが天に行われるとおりに、地にも行われますように(マタイ 6:10)。」「主にあがなわれた者は帰ってきて、その頭に、とこしえの喜びをいただき、歌うたいつつ、シオンに来る。

彼らは楽しみと喜びとを得、悲しみと嘆きとは逃げ去る(イザヤ 35:10)。」

イエスの犠牲が「全民のための贖い」をもたらしたことは何と素晴らしいことだろう。現在の狭い道は困難なことがあるが、狭い道は全世界の完全修復のために「小さな群をテストし、準備するのである。この希望—自分自身の希望だけでなく、世界全体の希望も含めて—を持つ私達は、他の全ての希望を犠牲にできるのである(ピリピ 3:8-15)。

◆ 研究 12 ◆

世々の神の計画のチャート

神の救いの計画の手順に従う際、裏表紙を展開して頂きたい。この表は、アダムからミレニアムの終わりまでの様々な時代を示しており、その後「来るべき時代」が続いている。それは、神の計画の展開と、人類の罪の宣告から回復—及び選ばれた教会の昇進につながる人々—までの措置を示している。3つの主な時間区分は分配A、B、Cである。それぞれは聖書において別々の「世界」として識別され、異なる支配者によって管理される。

天使の統治下の第一の世界

A	天地創造から洪水まで: 「その時の世界」(ペテロ第二 3:6)
B	洪水からキリストの2度目の来臨まで: 「今の悪の世」(ガラテヤ 1:4) 「この世」ヨハネ 12:31; 18:36
C	キリストの統治から「来るべき世々」(エフェソス 1:10; 2:7): 「義の住む新しい天と新しい地」(ペテロ第二 3:13)

洪水で失われた「その時の世界」は、天使達の管理下に置かれた。しかし、これらの天使たちは「彼らの最初の財産を保たなかった」(ユダ 6; ヘブライ 2:5)。人の娘たち

が美しいと見て、彼らは人として具現化し、人類と交配したが、結果は悲惨だった(創世記 6:1-5)。その世界はその後邪悪にひどく落ちぶれ、正義の怒りで神は、洪水でそれを滅ぼし、ノアと彼の7人の家族だけを救った(創世記 7:13)。

サタンの下にある現世の3つの時代

この「現世の悪の世界」は、「この世界の王子」であるサタンの力の下にある(ヨハネ 12:31)。この間、人類は自治を試みることを許されていた。広がる悪魔の影響のもと、効果のない自治は、最終的には役に立たないと証明するだろう。この「現在の悪の世界」は、究極的には、世界がこれまでに知った中で最も大きな悩みの時に終わるだろう。

第二の偉大な支配は、3つの異なる時代で構成されており、それぞれが神の計画の中で猛進している。まず、D時代、「家長の時代」は、神が信仰の父親—アブラハム、イサク、およびヤコブ—を扱った時である。

次は、ヤコブの死で始まった「ユダヤ時代」、Eだった。神はそれからヤコブの12人の息子、イスラエルの12の部族の子孫を「私の民」と認識した。彼らは特別な恵みと責任の両方を受け、独特の方法で神の民となった(詩編 14:7)。「地のもろもろのや

からのうちで、わたしはただ、あなたがただけを知った(アモス 3:2 口語訳)。

国家として、イスラエルはキリスト教会の概念もあり、教会に与えられた「より良い約束」に典型的な約束を伴う「聖地」である(ペテロ第一 2:9, コリント第一 10:1-4)。イスラエルの荒野を通過して旅する旅は、罪の荒野を通る天のカナンへのキリスト教の旅を描いている。イスラエルの「雄牛ややぎなどの血」を犠牲にしては、決して罪を取り除くことはできないが(ヘブライ 10:4)、彼らは、福音時代の「王なる司祭」の「更に優れたいけにえ」を指したのである(ヘブライ 9:23)。「私達の職業の大祭司」であるイエスを通して、私達は、自分たちの「からだを、神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物」として捧げるよう要請されている(ヘブライ 3:1; ローマ 12:1)。従ってユダヤ時代の礼拝と条例は、来るべき偉大な現実の「影」だった(ヘブライ 10: 1)。

「福音時代」、F の間、キリストの体は、世界から犠牲の狭い道へと呼び出される。「死に至るまで忠実」であれば、彼らは「神性に従う者」になり、「命の王冠」を受ける(啓示 2:10)ようになる。悪がまだ支配する間、彼らは、特権と恵みを伴う人間性を犠牲にするか、神に試される。イエスに従うことに忠実であれば、「みかたち」で復活したときに「満足」するだろう(詩編 17:15)。

3 つの「現在の悪の世界」の時代の間に、悪が支配し、正しい者は苦しむ(マラキ 3:15)。しかし「来るべき世界」では正義が支配され、悪は破壊されるであろう。

第三の世界の支配—来るべき時代

3 番目の偉大な支配は、メシア(ミレニアル)時代とそれに続く「来るべき時代」で構成されている。「メシア時代」G は、聖書には、「神が聖なる預言者たちの口をとおして、昔から預言しておられた万物更新の時(使徒 3:19-21)の間の「地上の全ての家族の祝福の時」として記述されている。回復の時代に、克服する教会は、人類の世界を祝福するイエス(啓示 3:21)と「御座」に座るだろう。「最後の敵」として滅ぼされるのが、アダムの「死」(コリント第一 15:25,26)である。

聖書は「来るべき時代」H を言及しているが、詳細には触れていない。今のところは、神が「恵みの豊富な富を示す」ときに、時代は祝福の時代になるのだと知っていれば十分である。

ユダヤ時代と福音時代の収穫期

ユダヤ時代と福音時代はそれぞれ別々に始まり、それぞれが働きの発展に長時間を要した。それぞれは、収穫期で終わり、時代の目的の果実が収穫される。収穫時は、2 つの時代の仕事が重なり合う時期でもある。例えば、

ユダヤ時代が A.D.70 年のエルサレムの崩壊で終わる前に、A.D.29 年にヨルダンでの主の聖別とともに福音時代の仕事が始まっていた(使徒 10:37,38)。この重複は、表にも示されている。ユダヤ時代の収穫時の様々な始まりと終わりのラインと、福音時代の収穫期に注目して頂きた

い。

ダニエルは、段階的に終わる(年々のうちの)約 70 “週” のイスラエルに対する神の恵みを預言した(ダニエル 9:24-27)。最後の週の間イエスは福音時代の仕事を紹介するようになった。7年のうちの最後の週の「真っ最中」、イエスの「命が断たれる」直前に、彼は人々に言われた。「見よ、おまえたちの家は見捨てられてしまう(マタイ 23:38)」彼の犠牲が払われると、典型的な動物屠殺場はもはや受け入れられず、一世代の間に、それらの供物が与えられた寺院は破壊された。

それらの 70 週の終了後、福音は異邦人に開かれた。この変化は、異教徒のコルネリウスに聖霊が注がれたことで示された(使徒 10:45)。ユダヤ人の全国的存在は、その後ローマ人がエルサレムとその寺院を破壊した際に終わった。

このようにして、ユダヤ時代の収穫の間、聖別されたキリストーかしらと身体(コロサイ 1:18)の試練と発展のために福音時代が開始した。復習のミレニアル時代は収穫期中に始まるため、ユダヤ時代の終わりと同様に、福音時代は段階的に終わる。現在私達は、自由とテクノロジーの恩恵をいくつか目にするが、問題も存在する!

真のキリスト教徒の「小麦」の収穫作業がすべて終わった後、世の中は「かつてなかったような」悩みの「火」を経験する(マタイ 13: 24-30,37-42 ; 24: 21,22; ダニエル 12:1)だろう。ありがたいことに、この問題に対する準備は、キリストの義と修復の統

治をもたらすだろう。

表のラインとピラミッド

表の縦線は時間の経過をマークしている。水平線は、K、L、M、N、P および R 時代の間の生命および状態の平面を示す。完全なピラミッド形は完全性を示し、不完全なピラミッドは不完全さを示している。

人類は、平面Nに完璧に創られた(完成したピラミッドa)アダムで始まり、完璧な人間性を意味している。彼が罪を犯したとき、彼は罪と死の面に落ち(平面R)、そこで彼の全子孫が生まれ、未完成的なピラミッドbで示されている。

平面Nの完成したピラミッドcは、アブラハムのように、古代の神の友とみなされた古代の忠実な信徒を表す(ヘブライ 11; ヤコブ 2:23)。忠実な信徒をいう用語は、神に対し献身的で イエスの時代まで生きていた、信仰の男女全てを指す。

イスラエルは、平面Pー典型的な義認のレベルの未完全なピラミッドeを指す。彼らの法の下での犠牲は、実際には罪を取り除きはしなかったが、実際に罪を取り除くキリストの犠牲の代理だったのである(ヘブライ 10: 1, 9:14)。しかし、イスラエルは恵まれた人々で世界とは異なり、幾分上に高められていた。

栄光への福音時代の細道

福音時代の栄光への細道は実際にはユダヤ時代の収穫時の中で始まった。ヨルダン川で世界を救う完璧な人物と紹介され

たイエスは、平面 N のピラミッド g として示されている(ヨハネ 1:14, 29)。その後、イエスは王国の福音を宣言しながら公衆にたいし伝道をお始めになった。イエスの伝道は国家を変え、「小麦」-「実際にはイスラエル人」-を、-「穀殻」-昔からのシステムのごみである穀殻から分離した。イエスを受け入れ、彼を拒否したリーダーシップから離れることにより、「小麦」が「穀殻」から分離されたのである。

「穀殻」は、後に神の裁きの火がローマ軍にイスラエルを一掃させ、エルサレムの破壊をもたらした時に(比喩的に)焼かれた(ルカ 3:17:21、テサロニケ 2:15,16)。ユダヤ時代を終わらせたその問題の時期が、表の陰影部分 f である。

イエスが水のバプテスマによって聖別を象徴した後、聖霊が彼に降りてきて、神の受容と聖別を示した。この霊で満たされたことは、平面 M のピラミッド h に示される新しい性質-聖霊-の始まりだった。イエスの伝道活動の間-「聖なる、無害で、汚れなくなり、罪人から分かれていた」が-イエスは人々の悲しみや苦しみを抱え込み(イザヤ 53:4)、自分の活力と健康を彼らに与えた。「徳[生命、力、エネルギー]が彼から出て行き、彼はすべてを癒した(マタイ 8:16,17; ルカ 6:19)。」3 年半、「死にいたるまで、自分の魂をそそぎだし」出した後(イザヤ書 53:12)、イエスの人生は十字架で終わった。

3 日目にイエスが復活したとき、彼は最高位の栄光の精神(平面 L のピラミッド i)、「死

の初子」(コロサイ 1:18)として蘇った。もはや人間ではなかったが、イエスは復活の後、様々な人間の形で現れる能力を持っていた。彼の目的は、彼は本当に復活したが、彼らが以前知っていた人としてではないことを信者に説得することだった。したがって、彼は墓の庭師として、海岸の役に立つ見知らぬ人として、エマオへの旅の同行者として登場したのである。彼は人のように見えたが、「霊から生まれた」ため、「ドアが閉じている」時でさえ、「風のように」行くことができた(ヨハネ 20:19,26)。

彼の復活から 40 日後、イエスは父に - 平面 K のピラミッド k として表される神の栄光の平面に「上っていかれた」(ヨハネ 20:17)。それから、彼は「父と共にその御座についた」(啓示 3:21、ヘブライ 10:12)。イエスは、福音時代の教会の長として(平原 K 上のピラミッド 1)、教会の規律を教え、その発展を導く。私達が彼の苦しみを共にするなら、私達は「キリストとの共同相続人」として、栄光をも分かち合うと確信している(ローマ 8:17)。

教会はイエスの志を継ぐ

したがって、栄光への教会のステップは、下の平面 R から始まる教会を除いて、教会の主と新郎のものと同じである。福音時代には、自分達の罪のために死んだイエスに感謝し-友人として神に近づいている-全ての人々が、平面 N で正当化されていると見なされる。この信者の中には、心を動かされ「主よ、私は何をすべきでし

ようか？」と尋ねる者がいる。(使徒 9:6)
使徒パウロが答えている。「兄弟たちよ。そういうわけで、神のあわれみによってあなたがたに勧めます。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物としてささげなさい。それが、あなたがたのなすべき霊的な礼拝である(ローマ 12: 1)。「生きた供え物」とは、私達が持つあらゆる力と才能を、神の奉仕に奉献し、自分のためではなく、天の御父のために生きることを意味する。「彼〔イエス〕の血によって義とされている」のだから、私たちの犠牲は「神に受け入れられる、聖なるもの」と見なされるのである(ローマ 3:25, 5:9)。

「私達の中に啓示される栄光への道」の次のステップは、平面 M である。この平面は、新しい精神的な生活の中に生まれたことを示す。神は、「ほむべきかな、わたしたちの主イエス・キリストの父なる神。神は、その豊かなあわれみにより、イエス・キリストを死人の中からよみがえらせ、それにより、わたしたちを新たに生れさせて生ける望みをいだかせ」た(ペテロ第一 1:3)。人間として私達の意味は死んでいるが、私達には、新しい、隠された命が育っている。「あなたがたはすでに死んだものであって、あなたがたのいのちは、キリストと共に神のうちに隠されているのである。3:4 わたしたちのいのちなるキリストが現れる時には、あなたがたも、キリストと共に栄光のうちに現れるであろう(コロサイ 3:3)。」神の言葉は私たちの心の中で働き、霊の誕生を準備する胚「新しく創られた者(コリント第二 5:17)

として、私達の心を変えるのである。「父は、わたしたちを、いわば被造物の初穂とするために、真理の言葉によって御旨のままに、生み出して下さったのである(ヤコブ 1:18)。」命を忠実に犠牲にして死に至らしめる人々は、平面 L で描かれた天の復活を受けよう。「試練を耐え忍ぶ人は、さいわいである。それを忍びとおしたなら、神を愛する者たちに約束されたいのちの冠を受けるであろう(ヤコブ 1:12)。」「霊から生まれた」平面 L はそれぞれ「風」のような霊であり、普通の視覚では見えず、強力で不可視である(ヨハネ 3:6-9)。

平面 K は、復活—イエスの花嫁とイエスの祈りの栄光における、聖人の個人的な栄光を超えて高められることを示す。「花嫁はその用意をした」そして「小羊の婚姻の時がきた(啓示 19:7)。」集団として聖人達はキリストと共に高められ、「王と祭司」として治めるだろう(啓示 1:6, 5:10, 20:6, ペテロ第一 5:10)。

キリスト教会の混合した状況

福音時代の間、多くの人々がクリスチャン—積み重ねられた未完成のピラミッドの中の n、m、p、q という 4 つの異なるクラスに示される—だと主張した。平面 M の n と m は共に精神霊から生まれた「新しい創造物」である。セクション n に表される人々は、全てを犠牲にするという特約を忠実に守っている。一方、m に表される人々は、奉獻を果たすことから尻込みしている。信心深い人々は、「金、銀、宝石」で表される真理

と正義で、キリストの「確かな基礎」の上に彼らの性格を作り上げた(イザヤ 28:16、コリント第一 3:1 - 15)。

m に表される他のものは「木、干し草、刈り株」不安定な性質をもたらす土地の価値の混合物で構築される。しかしそれでも神は彼等を愛しておられる！ 彼らの仕事は燃え尽きるが、彼らは特別な逆境の「火」のように。「救われている。」 彼らは花嫁クラスの大賞を逃す。彼らは、平面 K の栄光で、キリストと彼の王座で統治することを逃すが、彼らは天の命平面 L を受けるだろう。聖書は「王位の前に」奉仕する花嫁の「仲間」として彼らを「大勢の群衆」と語っている(啓示 7:9,14,15; 19:6,7; 詩編 45:10-14)。

クリスチャンであると主張する者の大部分は、セクション p に表されている。通常彼らは、イエスが彼らの罪のために死んだことに対し有難く思っているが、向上して完全な奉獻を行い、新しい霊の命に生まれることはない(コリント第二 6:1)。彼らは、使徒(ローマ 12:1)によって「兄弟」と呼ばれているが、キリストの「身体」のメンバーではない。彼らは正しい方向に始めた。そして、回復の時に、地上で神の家族の一員になるのに有利となるだろう。

キリスト教に関連する別のクラスは、平面 N の下部にセクション q として表されている。これらの人々は決してイエスを自分達の罪の犠牲として信じなかったが、世俗的な理由から自分自身を教会に所属した。これらは、「羊の衣を着た」「狼」(マタイ 7:15)である。彼らは、時代を通じて主の人々に多

くの傷を負わせ、本当は平面 R に属する。

収穫期—分離の時

キリスト教は、福音時代を通してこの混合した状態で存在していた。主はこれを小麦とかごの譬で描いている(マタイ 13:24-30,36-43)。この寓話では、「敵」が「小麦」の中に「毒麦」を撒く。刈る者は収穫時まで、両方とも育つままにしておけ、しかし「収穫期になったら、刈る者〔「天使達」—メッセンジャー〕に、まず毒麦を集めて束にして焼き麦の方は集めて倉に入れてくれ、と言いつけよう」と命令された。この寓話では、「良い子孫」は「天の子孫」、n と m である。苦境の時に、バビロンの施設が崩壊した際、彼らのクリスチャンは普通にすぎず、真実ではないのだと分かっているという意味で、「風袋」や偽造品(q 全てと p の多く)は「燃やされた。」

福音時代の収穫期は、ユダヤ時代の終わりに収穫期と並行している。両方とも最初に試練と変換の時があり、それから神の裁きと怒りの時がある。

ユダヤ教の収穫期では、福音のメッセージの真理は、「穀殻から小麦」を、名目だけのイスラエルから「ほんとうのイスラエル(ヨハネ 1:47)」を分類した。

福音時代の収穫期では、「いよいよ輝きを増して真昼となる」真理は、「穀殻」から「小麦」を分類する(箴言 4:18、啓示 14:14)。神はご自分の民を、今日のキリスト教世界である多くの誤り(啓示録 18:1-4)と、ある真理の入り混じった混合物バビロンから「出

てくるよう」呼びかけられる。「わたしの民よ。彼女から離れ去って、その罪にあずからないようにし、その災害に巻き込まれないようにせよ(啓示 18:4)。」

収穫期間、霊から生まれたクリスチャン(図 t) キリスト教徒の中には、熱意に欠けるためにバビロンから離れるのに時間がかかる者がいた。これらの人々は、啓示第 7 章の 9 節で「大勢の群衆」と呼ばれる。彼らは世俗的な精神に左右されているか、この人生の心配に責任を負いすぎている。彼らは、「子羊の血」の中で「衣を洗う」という特別な懲罰を通してのみ、自分自身を浄化するのである。彼らの報酬は「神の御座」の前に奉仕することである(啓示 7:14, 15)。たとえ最高の報酬を失っても、「子羊の結婚夕食に呼ばわれた時、彼らは「ハレルヤ、全能者にして主なるわれらの神は、王なる支配者であられる。わたしたちは喜び楽しみ、神をあがめまつろう。小羊の婚姻の時がきて、花嫁はその用意をしたからである啓示 19:6,7,9)。」

「死に至るまで忠実な」クリスチャンには命の冠が約束されている(啓示 2:10) 小型のピラミッドsは、収穫期の間に栄光に導かれた忠実な聖者を表している。ピラミッドrは、彼らが復活で会う、戻られた主を表している。収穫期の間、「キリストにあって死んだ人々が、最初によみがえる(テサロニケ第一 4:15 - 17)。」すなわち、過去の忠実な聖徒たちは、彼らの復活が変わる前に、私たちの主の帰還を待って死に眠っていたのである。その後収穫時の間に死ぬ人々は、

眠る必要はなく、「またたく間に、一瞬にして」変えられる(コリント第一 15:51, 52)。彼らは徐々に一つずつ、彼らの死の過程を終える際、共に一全員同時にではなく、同じ場所に一集められる。(テサロニケ第一 第 5 章 10,11 節の文脈に使用されている「共に」を参照。)

図 t, u 及び v は、この「問題の時」がこの時代が終える間、判決を受けるバビロン一名ばかりの教会一を表している。バビロンは、何世紀もの間、多くの教義と実践により、神の性格を不正確に伝えてきた。イエスの両方の来臨で、イエスは、「イスラエルの二つの家一自然的及び精神的一には」さまたげの石、つまずきの岩となる(イザヤ 8:14)。国家としての自然のイスラエルは、救い主としてのイエスの存在と目的を認識し損なった。名目上の霊的なイスラエル(キリスト教)はまた、イエスの 2 度目の出現の方法と目的の両方を誤解している。

名ばかりの教会は、システムとして、「最後の七つの災害」(啓示 16:1-21)によって終わりに来る。偽りの教会制度の破壊は、斜線部分 S に示される、福音時代の収穫期の終わりに行われる。

恵みの救世主的なミレミアム

人類を修復するのは、完全に成就のため、ミレニアル時代の全てを必要とする段階的な仕事である。アダムの罪による死の結果は、「死が勝利にのまれてしまう(コリント第一 15:25,26, 54)」のである。キリストの素晴らしい統治の下で、病気、痛み、死の影

響は、全て偉大な修復者の力に従うようになるだろう。

キリストは、忠実な教会と一体となって、大きなピラミッドの中の万物の長(ピラミッド、x部)になるだろう。次のランクは、聖霊の面(ピラミッド、y部)の偉大な一団(及び全ての従順な天使達)である。その次のレベル(z及びw)は、修復された地上の王国で、イスラエル(ピラミッド、パートz)が—古代の忠実な信徒に導かれて—残りの人類の世界を祝福するだろう(ゼカリヤ 8:13,23; イザヤ 60:18; 27: 6; エレミヤ 3:17 など)。

これらの「回復の時」の間、人類の世界(ピラミッド、パートW)は、アダムが自分自身と彼の子孫のために失ったものに引き上げられ、復元される。各人は、義と完璧に向かって進歩するための時間を必要なだけ与えられるだろう(イザヤ 65:20)。地上の何十億という人々のうち、比較的ほんの少数が、「へつらいながらみもとにくる(詩篇 66:3, 新世界訳)。だが、彼らはミレニウムに続く「小さな季節」の間に公に暴露されるだろう。それからサタンが解放され(啓示 20: 9)、これらの者たちは反逆に加わるだろう。彼らは、復活無しの「第二の死」で死ぬだろう。キリストはもはや死ぬことがない(ローマ 6:9)。

「地上の大家族」の祝福するための私達の父の素晴らしい計画は、確かに「すべての人々に大きな喜びをもたらした良い知らせ」である(ルカ 2:10)。やっとなべての人が、神が永遠に悪を滅ぼしたことを知るだろう。

キリストの下での創造の総体性

ピラミッドの図は、キリストの指導的地位の下にある、神の創造物全ての一体性をよく示している。「それは、時の満ちるに及んで実現されるご計画にほかならない。それによって、神は天にあるもの地にあるものを、ことごとく、キリストにあつて一つに帰せしめようとされたのである(エフェソス 1:10)。

キリスト イエスは、「神に造られたものの根源(啓示 3:14)」であり、ピラミッドの頂上に美しく表され、それ自体完璧で完全なものである。下の建築物全体が、その完璧なラインに沿っていなければならない。「見よ、わたしはシオンに、選ばれた尊い石、隅のかしら石を置く。それにより頼む者は、決して失望に終ることがない(ペテロ第一 2:6)。

礎石の一つの特質は、イエスが最初に築かれた「基礎」であるということである！ キリストの下にある教会は、「生ける石(ペテロ第一 2:5 口語訳)」として、「彼にあつて建てられた(コロサイ 2:7)」。この仕事は、ミレニアル時代の間、全ての生き物が個別にイエスの完全な性格に従うまで、進展するだろう。キリストの義の原則に従いながら心を整えない少数の人は、二番目の死で「民の中から滅ぼされる」だろう(使徒 3: 22,23)。「またわたしは、天と地、地の下と海の中にあるすべての造られたもの、そして、それらの中にあるすべてのものの言う声を聞いた、…御座にいますかと小羊とに、さんびと、ほまれと、栄光と、権力とが、世々限りなくあるように(啓示 5:13)。」

荒野の幕屋

表に説明されているように、イスラエル人の幕屋には、福音時代の栄光のステップに該当する絵が含まれている。人が不義の世界(平面 R)を代表するキャンプを離れると(人は門から法廷(Plane N)に入る。ここで私達は真鍮の祭壇の上の犠牲—キリストの犠牲に対する感謝の気持ちを表し—と、私達を浄化する機会を表すレバーを見る。さらに進んでいくと、聖の扉に来る。そこで私達には選択肢がある。私達は自分達の人生を神に奉獻すべきか？ 奉獻する方に前進するなら、私たちは扉を通過して神

聖な場所に入り、霊に生まれるであろう(平面 M)。「存在のパン」によって強化され、「燭台」悟りに達し、「金の祭壇」でイエスの傍で神に受け入れられる香を提供することができる。最後に、誠実に終わると、私達は最も神聖なイメージの天国自体(平面 L)に入る。私達はついに復活するのである—そして、来るべき時代(平面 K)の王国の栄光ある仕事をイエスと分かち合う準備ができているのだ。

神を称えよ！ 神の素晴らしい計画の図式の構想は、時代時代の表で本当に「明らかに」されている(ハバクク 2:2)。

◆ 研究 13 ◆

世界の王国

託宣の初めの本の中で、神はご地上の創造とその統治について、ご自分の目的を公表なさっている。「神はまた言われた、『われわれのかたちに、われわれにかたどって人を造り、これに海の魚と、空の鳥と、家畜と、地のすべての獣と、地のすべての這うものとを治めさせよう。』神は自分のかたちに人を創造された。すなわち、神のかたちに創造し、男と女とに創造された。神は彼らを祝福して言われた、『生めよ、ふえよ、地に満ちよ、地を従わせよ。また海の魚と、空の鳥と、地に動くすべての生き物とを治めよ。』(創世記 1:26-28)」

人類の最初の地上支配権力

地球の支配権は、先祖のアダムの手の中に置かれた。彼は完璧で、地球の支配者及び王になる完全な資格があった。しかし、支配権は彼一人のものではなく、彼の後世の全ての人々を象徴していた。「彼らに治めさせよう。」人類が罪を犯さないままでいたら、この支配権は人類の手から決して失われなかつただろう。

この指令によって、アダムの仲間の誰にも支配権は与えられなかった。人類は、全ての人の利益のためにその果物を栽培するために地上の支配権を与えられたのである。野菜及びミネラルの豊かさは、あら

ゆる品種の動物同様、奉仕の為に人類に与えられた。人口の増加に従い、人々は共通の恵みを公正に分配する方法を整理することが必要となるだろう。最終的には、代表者は全ての共通の利益のために業務を管理するために選ばれることになる。人類が罪を犯さないままでいれば、神とその隣人を自分自身を愛すように愛していれば、社会は平和的に動いていたであろう。従って、創造主の元来の設計は、人類が統治して共和国となることだった。共通の利益のために働くうちに、全ての人々が主権者になるだろう。そのような地上の支配にはただ一つの律法、愛があるだけだった(ローマ 13:10)。「『心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。これがいちばん大切な、第一のいましめである。第二もこれと同様である、『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ』(マタイ 22:37-40)。』

神が御手の業を行う支配権を人間にお与えになった時(詩編 8: 5,6)、人間は地上の神の最初の王国の設立おける神の代表者になった。しかし、アダムが反抗して罪を犯した時、神の王国は即刻停止した。その時以来、神の王国は古代イスラエルとの簡潔で典型的な方法を除いて再建されていない。それでもなお、人類は支配権を失ったが、神は人間が「権威を授ける者

が現れるまで自分の考えと選択に従って、力を使うことをお許しになった(エゼキエル 21:25-27)。

イエスが亡くなられた時、彼は人類ための贖いとなっただけでなく、本来の地上の遺産の回復も提供なさった。ミレニウム時代の地上でのメシアの統治の目的は、全ての罪と反乱を鎮め、人類が神の代表的な大地の支配者となるように準備することである(コリント第一 15: 25; 啓示 19:15; 22: 5)。

神の典型的な模範王国

ユダヤ時代の間、神はモーセと士師のもとでのイスラエルを「典型的な」王国と定めた。イスラエルは「主の王国」(歴代志第二 13: 8)と呼ばれ、「ソロモンはその父ダビデに代り、王として主の位に座した(歴代志第一 29:23)。」イスラエルには一種の共和国があったが、その後王の下で一体してより抑圧的になった。しかし、ダビデとソロモンの治世は、メシアが治まるべきときに来る王国を表すために、神によって使われた。人々が主に対して罪を犯したとき、彼は彼らを繰り返し懲らしめ、最終的にダビデの最後の王ゼデキヤの最後の日々には、王権が奪われた。神の典型的な王国は倒された。

神はエゼキエルを通してゼデキヤに言われた。「冠を取り離せ。…破滅、破滅、破滅、わたしはこれをこさせる。わたしが与える権威をもつ者が来る時まで、その跡形さえも残らない(エゼキエル 21:25-27)。」冠を取り外すことは、バビロンの王がユダの

王を追い出し、人々を捕虜にしたときに達成された。預言は、キリストがそれを主張するようになるまでそれが覆されたままであるべきであると定めた。ペルシャ人は後に国家の存在を取り戻したが、彼らはその後、従属的にメドペルシャ、ギリシャ、ローマに続いた。そして、紀元 70 年代にイスラエルは国家として破壊され、人々は諸国へ散在した。

この世の王子

神の王国はキリストの最初降臨時には設立されなかったが、イエスは復帰時に王国を確立することを約束なさった(ルカ 19:12)。サタンは「この世の王子」であり続ける(ヨハネ 12:31)。今日イスラエルが、その土地に戻されようとしていることは、多くの紛争と悩みは存在するが、サタンの「この世の王国」が滅ぼされる時が近づいているという証拠である。救世主の下にある神の王国の時は、聖書の中で不変で印付けられており、力と栄光で「限りなく」続くのである(啓示 11:15 口語訳)。

王の統治権がイスラエルから取り除かれるまでの間隔は、聖書の「異邦人の時」と呼ばれる。神は、目的が完成するまで、異邦政府を間接的に認識なさっている。「エルサレムは、異邦人の時期が満ちるまで、彼らに踏みにじられているであろう(ルカ 21:24, 口語訳)。」神は、これらの介在する政府が、賢明な目的のために、彼らの独自の行き方をとることを「任命」又は許可したのである(ローマ 13: 1)。彼らの不完全

な法律は、不完全な人間は自分自身を支配できないことを証明しているのである。これはすべて神の計画の一部であり、最終的には全ての人が善のために働き、さらに「人の怒りはあなたをほめたたえる(詩編76:10)」のである。

サタンは正当な権限による「この世の王子」ではなく、剥奪によるものである。詐欺と欺瞞によって、彼は「空中の権を持つ君(エフェソス2:2)」として、墮落者達を目に見えないようにコントロールするのである。サタンは神の計画を不正確に伝え、真実を盲目にする。サタンは、荒野のイエスをも、もしイエスがひれ伏してサタンを拜むなら、「この世の全ての国々とその栄華を」提示して誘惑しようとした(マタイ4:8, 9)。

一方、世界は嘆き、待っている。哲学者は黄金時代を夢見て、政治家はこの世界の問題を解決しようとして失敗する。被造物全体が何かより良いもの切望している。彼らはそれを認識していないが、彼らが待っているのは、「神の子たちの出現」である(ローマ8:22,19 口語訳)。

この世の王国の預言的な概観

神は私達にこの世の政府とその崩壊と、平和の王子である救世主の下に永遠の王国を設立する全景的な概観をいくつか与えてくださった。

最初にエルサレムが滅ぼされる前に、ダニエル—すでに捕らえられていた—は、バビロンの王のために困難な夢を解釈した。ネブカデネザールは金、銀、黄銅、鉄、粘

土からなる強大な像が、石に打たれて砕けるのを夢に見ていた。ダニエルは、神の典型的な王国であるイスラエルの崩壊後、神の許可によって支配するための期間を与えられる4つの偉大な帝国を表していると説明した(ダニエル2:31-45)。

「王よ、あなたは一つの大きいなる像が、あなたの前に立っているのを見られました。その像は大きく、非常に光り輝いて、恐ろしい外観をもっていました。その像の頭は純金、胸と両腕とは銀、腹と、ももとは青銅、すねは鉄、足の一部は鉄、一部は粘土です。あなたが見ておられたとき、一つの石が人手によらずに切り出されて、その像の鉄と粘土との足を撃ち、これを砕きました。」

「こうして鉄と、粘土と、青銅と、銀と、金とはみな共に砕けて、夏の打ち場のもみがらのようになり、風に吹き払われて、あとかたもなくなりました。ところがその像を撃った石は、大きな山となって全地に満ちました。」

「これがその夢です。今わたしたちはその解き明かしを、王の前に申しあげましょう。王よ、あなたは諸王の王であって、天の神はあなたに国と力と勢いと栄えとを賜い、また人の子ら、野の獣、空の鳥はどこにいるものでも、皆これをあなたの手に与えて、ことごとく治めさせられました。あなたはあの金の頭です。」

「あなたの後にあなたに劣る一つの国が起ります。また第三に青銅の国が起って、全世界を治めるようになります。2:40 第四の国は鉄のように強いでしょう。鉄はよくすべての物をこわし砕くからです。鉄がこれらを

ことごとく打ち砕くように、その国はこわし砕くでしょう。2:41 あなたはその足と足の指を見られましたが、その一部は陶器師の粘土、一部は鉄であったので、それは分裂した国をさします。しかしあなたが鉄と粘土との混じったのを見られたように、その国には鉄の強さがあるでしょう。2:42 その足の指の一部は鉄、一部は粘土であったように、その国は一部は強く、一部はもろいでしょう。」

人類最後の普遍的帝国

歴史は地上の以前の帝国を明らかにしているが、聖地を支配したのは4つの普遍的な支配力だけである。「金の頭」バビロニア帝国は、メド・ペルシャの「銀の胸」によって征服された。その後、第3の「青銅」のグレシアン帝国がそれを征服し、第4の「鉄」のローマ帝国に征服された。この最後の普遍的な帝国は、イエス時代に君臨した。「そのころ、全世界の人口調査をせよとの勅令が、皇帝アウグストから出た（ルカ 2:1）。」ローマは足が10の「足指 ... 鉄の一部と粘土の一部」に分かれていたにもかかわらず、最も強く長く耐えた。

これらの「足指」は、古いローマ帝国から生まれたヨーロッパの国々を表している。なぜ一部が粘土なのか？ 粘土は模造石のようなものである。これらの国は教会と国家（粘土と鉄）が混在しており、キリストの王国——キリスト教国であると主張しているのである。異教徒のローマはローマ教皇のローマになり、それは偽造「神の王国」となって、何世紀にもわたって鉄の手で統治さ

れた。イングランドやドイツなどのプロテスタント国でさえも、政府に執着したこの教会の例に従った。夢の中では、像に「石」が当たった時、像は壊れて吹き飛ばされた（ダニエル 2:34,35）。その後、石は大きな山になった。この石は神の真の王国で、いつか「全地に満たされる」であろう。

第一次世界大戦は、「神の恵みによって」支配すると主張した王朝の崩壊をもたらした。1914年以降も政府として継続しているが、神が異邦人に与えた支配権は終わった。神は、地上の王国の設立準備を始めた。慎重に時を見計らって、戦争直後、英国はユダヤ国家のための1917年にバルフォア宣言を発表した。「英国政府は、ユダヤ人がパレスチナの地に国民的郷土を樹立することにつき好意をもって見る。」1948年までにイスラエルは再び国家となった。いずれ時期が来れば、イスラエルは信仰によって活性化され（エゼキエル 37:1-14; ゼカリヤ 12:6-10）、地上の神の王国の核となるだろう（ゼカリヤ 8:21）。

ダニエルは次のように予言した。「それらの王たちの世に、天の神は一つの国を立てられます。これはいつまでも滅びることがなく、…かえってこれらのもろもろの国を打ち破って滅ぼすでしょう。そしてこの国は立って永遠に至るのです（ダニエル 2:44）。」政府は破壊されているが、人々は破壊されていないことに注意してほしい。私達の主イエスは、世をさばくためではなく、この世を救うために来られたのである（ヨハネ 3:17）。

世界を統治するために、様々な方法—社会主義、資本主義、共産主義、民主主義—が試みられてきたが、唯一の持続的な解決策は神の王国である。この世の王国は「砕けた陶器のように粉みじんになる啓示 2:26,27)になるだろう、しかし、その後は人々自身が祝福される(イザヤ 19:22; エレミヤ 3:22, 23; ホセア 6:1,14:4; イザヤ 2:3; 啓示 22:2)だろう。

像を打つ石は教会のクラスである。それは、「人手によらずに山から切り出され、」栄光のうちにキリストと共に統治する聖徒達が、この世の王国から引き出され、神の聖霊の力によって「切り出される」ことを表している(ダニエル 2:45、啓示 3:21)。教会が栄光のうちに完成すると、神の王国は地上で活動し始めるだろう。最初はイスラエルを通して徐々に活動し、地球を満たすために拡大するだろう。「終りの日に主の家の山は、もろもろの山のかしらとして堅く立つ(イザヤ 2:2,3)。「ヤコブの神の家へ」全ての国々から人々が来て、教えられるだろう。「律法はシオンから出、主の言葉はエルサレム〔実のイスラエル〕から出るからである。」

ダニエルのこの世の政府のビジョン

ネブカデネザールの夢は、この世の王国を、人類が見る通りに—の相対的な強さと壮大さに応じて描いた。ダニエルの夢は、同じ政府を神の見地から獸的だと描写した。地上の政府は、確かにある程度の秩序を維持に役立った。しかし、偉大さと権力に対する欲望のために、彼らは無数の軍隊

を集結し、何百万人もの未亡人と孤児を作った。「今われわれは高ぶる者を、祝福された者と思う。悪を行う者は栄えるばかりでなく、神を試みても罰せられない(マラキ 3:15)。」

ダニエルの夢がダニエル第7章 1-11 節に記録されている

「バビロンの王ベルシャザルの元年に、ダニエルは床にあつて夢を見…彼はその夢をしるして、その事の大意を述べた。ダニエルは述べて言った、「わたしは夜の幻のうちに見た。見よ、天の四方からの風が大海をかきたてると、四つの大きな獣が海からあがってきた。その形は、おのおの異なっている。」

「第一のものは、ししのように、わしの翼をもっていたが…その後わたしが見たのは、ひょうのような獣で…主権が与えられた。」

「その後わたしが夜の幻のうちに見た第四の獣は、恐ろしい、ものすごい、非常に強いもので、大きな鉄の歯があり、食らい、かつかみ砕いて、その残りを足で踏みつけた。これは、その前に出たすべての獣と違って、十の角を持っていた。わたしが、その角を注意して見ていると、その中に、また一つの小さい角が出てきたが、この小さい角のために、さきの角のうち三つがその根から抜け落ちた。見よ、この小さい角には、人の目のような目があり、また大きな事を語る口があった。」

「わたしが見ていると、もろもろのみ座が設けられて、日の老いたる者が座しておられ

た。

その衣は雪のように白く、頭の毛は混じりもののない羊の毛のようであった。そのみ座は火の炎であり、その車輪は燃える火であった。彼の前から、ひと筋の火の流れが出てきた。彼に仕える者は千々、彼の前にはべる者は万々、審判を行う者はその席に着き、かずかずの書き物が開かれた。」

「わたしは、その角の語る大いなる言葉の音がするので見ていたが、わたしがしている間にその獣は殺され、そのからだはそこなわれて、燃える火に投げ入れられた。」

第四の獣——ローマ

この夢の中で、ライオンはバビロンを表し、クマはメドペルシャ、ヒョウはギリシャを表し、第4の獣は「恐ろしく酷い」ローマである。私達は、最後のものに特に注意を払う。現代の歴史に及んでいるからである。それには10角の角があり、ネブカデネザールの夢の10の足指のように、これはかつてローマが統治した帝国から出てきた権力の分裂を表している。

10角の角の後に「小さな角」が生じた。それは3角と取り換えられ、その中で支配した。この「小さな角」は、ローマ教皇教会が徐々に握りだした権力の座を表している。それは効果的にイタリアのローマ帝国の3つの部門（ヘルリ、東方宮廷、オストロゴス）を置き換えた。

教皇は民権として確立された。「人間の目」はこのシステムの知性を表し、その「口」と言葉は、教皇の暴力的な主張や法令を表

している。この4番目の獣は、「悪魔」とその影響を表す「龍」として啓示にも描かれている（啓示12:9）。この龍、異教徒のローマは、初期の教会を迫害し、多くの殉教者を輩出したが、その後サタンは生き方を変えた。彼はしばしば「光の天使」（コリント11:14）に擬装したので、異教徒のローマは異教崇拝からカトリックに変わり、キリストの王国であると主張した。教皇ローマの下では、神の計画と性格が不正確に伝えられていただけでなく、真の教会に対して、異教徒のローマのものよりも深刻で長引いた大量の迫害がもたらされた。

預言者は、ローマ教皇の角についていくつかの詳細を述べた後、完全に破壊されるまで徐々にその支配を失うと述べている。教皇がナポレオンの囚人として死亡した1799年に、迫害の終焉の転換点が起こった。教皇の祈りと呪いは何の効果もなかった。バチカンの一時的な力は、ビクター・エマニュエルの手によって一時的な力の最後の痕跡を失った1870年まで、急速に衰退した。皮肉なことに、同じ年に、角が話していた素晴らしい言葉（ダニエル7:11）で、教皇は教皇の絶対確実性を宣言したのだ！

先立つ獣は「その主権を奪われたが、その命は、時と季節の来るまで延ばされた（ダニエル7:12）」それぞれが帝国を失ったとき、彼らの支配権は次の国に渡った。次の帝国が習慣、文化、習慣を自国の政府に吸収するにつれて、バビロン、メドペルシャ、ギリシャの生活はそれぞれ長くなった。た

たとえば、ペルシャがカルデヤ人をバビロンで征服したとき、ダニエルは管理者として雇われた。ギリシャのアレキサンダー大王は、様々なペルシャの習慣を採用し、ローマ帝国時代にはギリシャの文化や言語が広く普及した。

しかし、最終的な獣ローマの人生は長引きしないだろう。「わたしが見ている間にその獣は殺され、そのからだはそこなわれて、燃える火に投げ入れられた(ダニエル 7:11)。」後継帝国でこれに基づいて構築されるもの、それと合併するものはない。それは、キリストの王国に引き継がれた。それは、神によって与えられた新しい純粋な政府である。

第五の普遍的統治権を永遠に

使用手段に関わらず、この世界の王国の崩壊の原因は、キリストの下にある第五世界普遍帝国、神の王国の確立である。

「わたしはまた夜の幻のうちに見ていると、見よ、人の子のような者が、天の雲に乗ってきて、日の老いたる者のもとに来ると、…彼に主権と光栄と国とを賜い、諸民、諸族、諸国語の者を彼に仕えさせた。その主権は永遠の主権であって、なくなることなく、その国は滅びることがない。…国と主権と全天下の国々の権威とは、いと高き者の聖徒たる民に与えられる(ダニエル 7:13, 14,27)。」

エホバは地上の支配権をキリストの手中に置きく。神は「神は万物を彼の足もとに従わせる」だろう(コリント第一 15:27)。しかし、

「この世の国(啓示 11:15; ヨハネ 16:11)」はは、平穏に降伏しないので、まず彼らの王たちを鎖で縛り、書面による判決を実行しなければならぬだろう。「彼らの王たちを鎖で縛り、…しるされたさばきを彼らに行う。これはそのすべての聖徒に与えられる誉である(詩篇 149:8, 9)。」また、「この世の王子」であるサタンも、静かに奪われた権威を放棄しないだろう。彼は力に「縛られ」拘束されなければならない(啓示 20: 1,2)。

首長と即位につき、現代の克服者達は、地上の利己的で獣のような政府のもとで苦しんでいた嘆きのぼる創造物を支配し、祝福し、元通りに回復するだろう。その間にも、「壊れた小片」が吹き飛ばされ、4番目の獣が消耗する火を待つ間、私たちは熱心に祈るのである。「御国がきますように。みこころが天に行われるとおりに、地にも行われますように。」

自分を支配しようとする人間の試み

私達は反抗的民族であることを正当化するつもりはないが、私達は自らの統治しようとする無駄な努力に共感することができる。これらの「獣のような」政府でも、無政府—無法と無秩序よりもマシである。良かれと思ってなされたことでも、人間はたいていの場合、自分が望む幸福を達成することはできない。しかし、神は人間の自治の努力を実験としてお許しになり、神からの指示なしでは、そしてサタンの影響の対象になると、人間は自分の目標を達成できないことを示している。人間のより高貴な統治

の目的は、人々のための法と幸福を促進することだったが、成功は何世紀にもわたって変化してきた。確かにリーダーシップのための崇高な努力は試みられた。国内および商業的利益を保護するために、優れた法律および控訴裁判所が設立されている。しかし、サタンの影響の下で、これらは社会の基礎要素に感染している。正義が無視され、利己主義暴君の腐敗が圧倒し、高価な革命と戦争が避けられない結果となる。

知識の増加—不満の種

私達は、人間の政府を、貧しく堕落した人道主義の努力として認識している。しかし、何世紀にもわたって試した後、これまで以上に多くの人々が不満を募らせている。

この公共思考の変化は、現代において爆発的に起こった。独立の精神は今や広がっている。1400年頃の印刷の発明は啓発を増やしたが、1800年代に教育が大衆に一般化して以来はそうではない。発明と発見は市場を溢れさせる。コミュニケーションは、インターネットや携帯電話によって世界中瞬間的にできる。知識と啓蒙は、地上の神の王国の準備において、ある意味でサタンの影響を制限している。全課題の真実の光は、私たちの世界に挑戦し、問題を拡大「おおいかぶされたもので、現れてこないものはなく、隠れているもので、知られてこないものはない(ルカ 12:2, 口語訳)。」

この知識の増加は、人類に自己尊重と、彼

らの自然権に対する憧れを覚めさせる。そのため広まる不満の原因となっている。堕落した人間の本性でもって、これは最終的には世界的な革命と無秩序の中でそれ自体を表現するだろう。人類の混乱の中で神はご自分の王国を設立なさり、「あらゆる国民のうちの望ましいものが必ず入って来る(ハガイ 2:7 新世界訳)。」人類の四肢は神の機会となり、神の王国は権力と栄光で確立されるだろう。「彼らはわが聖なる山のどこにおいても、そこなうことなく、やぶることがない。水が海をおおっているように、主を知る知識が地に満ちるからである(イザヤ 11:9)。」

世界の王国に関与しない教会

神の王国を知ることは将来起こり、イエスも使徒も地上の支配者に干渉しなかった。それどころか、彼らはしばしば虐待を受けても、教会にこれらの地上権に従うよう教えた。イエスの信者は、彼らが神の法と矛盾しない限り、その土地の法律に従うように教えられている(使徒 4:19; 5:29)。彼らは税金を払い、法を守っている(マタイ 22:21)。しかし、人間の政府は神によって許されているが、教会は政治に関わるべきではない。神の聖徒達は、彼らの光を輝かせるべきだが、世界が政府を改善するのを助けることは、今の私達の使命ではないのである。イエスは言われた。「わたしの国はこの世のものではない。もしわたしの国がこの世のものであれば、わたしに従っている者たちは、わたしをユダヤ人に渡さないように戦

ったであろう(ヨハネ 18:36)。」私たちは天の相続人であり(ルカ 12:32)、ミレニウム時代には、世界を上から祝福するだろう。私達は、約束された神の国とその祝福を指し示すべきである。そうすると、世界の祝福と隆起のために働くことが私達の特権になるだろう。

偽りの教会は、地上の王達と結合している

初期のキリスト教教会は、既存の政府の政治に関わるよう誘惑されていた。地上の王国に取って代わる、来るべき神の国に説教することは俗受けせず、迫害をもたらした。多くのキリスト教徒が、相互の強さと利益のために地上の力と結合するよう交渉した。

このようにして、全てが変わったのである！謙虚さの代わりに、誇りが生じた。真理のかわりに不品行が生じた。迫害される代わりに、偽りの教会が教会を非難した人々の迫害者になったのである。人々を支配するために、永遠の苦しみの教義が進化し、役に立つことが証明された。この世俗的な教会は、「すべての住民を酔わせて」偽りの教会の誤りに酔いしれた。(黙示 17: 2)。まもなく、偽りの教会は、ヨーロッパの王達を崇拜したり退位させたりして、国家の「女王(国教)」になった(啓示 17: 3-5; 18:7)。イエスが王国に戻るのを待つ代わりに、教皇は地上の王達と共に自分自身を確立した。改革派は、教皇の主張の多くを放棄したが、地上の王達に属するという名誉を求めた。このようにして彼らは「教会」の娘

になったのである。

従って、何世紀もの間、ヨーロッパの王国はキリスト教国であり、「神の恵みにより」支配されていると主張した。イエスは、私達は「世のものでない(ヨハネ 17:16)」と教え、パウロは「この世と妥協してはならない(ローマ 12:2)」と忠告した。神は、決してこれらの国々をキリストの名を指して呼ぶことを認めなかったのである！ネブカデネザールの2つの夢の表現が解釈されたとき、神は限られた期間、異邦人に力を授与したが、彼はこれらの王国を神のものとして承認しなかった。彼らの不完全な法律と、しばしば利己的で邪悪な支配者は、キリストの義の王国(イザヤ 32:1)を酷く誤解していた。

地上の「地球上の「巡礼者や異邦人」

この世の王国がキリストの王国だという考えは、約束された天の王国から神の民の多くの気を散らした。来るべき王国の福音を宣べ伝えることに専念するかわりに、キリスト教徒は政治と結びついた。キリスト教徒はその土地の法律に従わなければならないが、彼らはいつも地上の「巡礼者や異邦人」のままだった(ペテロ第一 2: 11-14)。

今日、諸国の世界的な揺れがある。私達は諸国が絶えることを望むべきだろうか？私達はむしろ次に起こること——キリストの王国に従うこと——に期待すべきである。これらの王国の瓦礫の中、「諸王の王」によって第五の世界的帝国が設立されており、(啓示 17:14)そしてすぐに風がそれらを吹き飛ばしてしまうだろう。

イエスが聖人達と共に統治し祝福する

世界は、「キリスト教国家」は実際にキリストのようなものではないと見ている。一部の人は、キリスト教自体—社会的権力と結合することによって—が、主に自身の福祉を求めていると結論づけている。一方、地上の政府は、より良いことが後に続くことに気づかず、自分の支配権を保持しようとしている。

「なにゆえ、もろもろの国びとは騒ぎたち、もろもろの民はむなしい事をたくらむのか。地のもろもろの王は立ち構え、もろもろのつかさはともに、はかり、主とその油そそがれた者と共に逆らって言う、『われらは彼らのかせをこわし、彼らのきずなを解き捨てるであろう』と。天に座する者は笑い、主は彼らをあざけられるであろう。そして主は憤り

をもって彼らに語り、激しい怒りをもって彼らを恐れ惑わせて言われる、『わたしはわが王を聖なる山シオンに立てた』と。」

「それゆえ、もろもろの王よ、賢くあれ、地のつかささらよ、戒めをうけよ。恐れをもって主〔聖別された神の御子〕に仕え、おののきをもってその足に口づけ〔仲直り〕せよ。さもないと主は怒って、あなたがたを道で滅ぼされるであろう、その憤りがすみやかに燃えるからである。すべて主に寄り頼む者はさいわいである(詩篇 2:1-12 口語訳)。」
神の怒りはすぐに完全に燃えたつだろう。私達は、サタンの王国を超えて、「いと高き者の聖徒が〔キリストと共に〕国を受け、永遠にその国を保って、世々かぎりなく続く(ダニエル 1:18)。」ことを知ることに待避するのである。

◆ 研究 14 ◆

神の王国—天と地

旧約聖書及び新約聖書の至る所に織り込まれた主題は、神の王国とその支配者であるメシアである。約束と預言全てがメシアの下にある国を高めることに向かって指しているため、王国は全イスラエルの希望であり、「期待」であった(ルカ 3:15)。

私たちの主イエス・キリストの先人である洗礼者ヨハネは、イスラエルに「悔い改めよ、天国は近づいた」(マタイ 3:2)と告知した。イエス自身、「神の国の福音を説きまた伝えながら、町々村々を巡回し続けられた(ルカ 8:1)。彼の寓話の全ては、あらゆる立場から王国の課題を教えた。イエスと共に王国管理をするため、彼のレッスンは神に全面的に奉獻する必要があることを含んでいた(マタイ 19: 27,28; ルカ 14: 27-35; マタイ 22:37)。その後、使徒達は、同じメッセージを説くために遣わされた(マタイ 10: 7; ルカ 9: 2)。

王国の前に提供された贖い

イエスは彼の信奉者を励ました。「恐れるな、小さい群れよ。御国を下さることは、あなたがたの父のみこころなのである(ルカ 12:32)。」彼は明確に自分の信奉者に約束された。「わたしの父が国の支配をわたしにゆだねてくださったように、わたしもそれをあなたがたにゆだね、…位に座してイ

スラエルの十二の部族をさばかせるであろう(ルカ 22: 29, 30)。」イエスが王位に就く代わりに、十字架に貼り付けになり、彼らはどれほど悲しんだであろう！ エマオへの道中に2人が異邦人だと思った彼に言ったように、私達は「イスラエルを救うのはこの人であろうと、望みをかけていました(ルカ 24:21,25-27)。」それから、イエスは彼らの目を開き、彼の王国が築かれる前に、彼の犠牲が必要だったことを聖典から説明した。

神は、贖いなしにイエスに地上の支配権を与えることができただろう。「いと高き者が人間の国を治めて、自分の意のままに、これを人に与えられることを知るに至るだろう(ダニエル 4:32)。」しかし、その場合、世の恵みは一時的なものだろう。人類が永遠に生きるためには、まず死の罰から法的に償還されなければならない。

イエスが天に戻ろうとしたとき、使徒達は「主よ、イスラエルのために国を復興なさるのは、この時なのですか」と尋ねた。主は、「イスラエル？—彼らは私を十字架に架けたばかりだ！」とは答えなかった。イエスの答えが彼らの希望に矛盾しない代わりに、彼は単に「時期や場合は、父がご自分の権威によって定めておられるのであって、あなたがたの知る限りではない(使徒 1: 6, 7)」と言われた。彼の答えは、彼の王国の設

立のための未来の時間をはっきりと暗示した。

この世のものと御国のもの

当初、使徒達は、ユダヤの国全体に共通して、王国に関して不完全な観念を持っていた。

今日多くの人々が反対の方向に思い誤るようになり、それが唯一天国のようだと思いつつながら、彼らはそれが地上で唯一の王国だと思っていたのである。イエスは両方を教えました。彼の忠実な弟子たちは彼と共に天から支配するだろう。そして、その律法が全地に及ぶであろう(ヨハネ 14: 3; ルカ 19:17)。この理由のため、イエスは弟子たちに祈るように教えた。「御名があがめられますように。御国がきますように。みこころが天に行われるとおりに、地にも行われますように。あなたの王権が来る。あなたが地上で行われるように、天にあるように(マタイ 6:10)。」

目に見えない天の王国

世才のある人々は、イエスを詐欺師かつ狂信者で、彼の信奉者達を単なる詐欺だと考えていた。彼らは彼の驚くべき言葉や奇跡を説明することができなかったが、イエスが世界を継承し、支配し、祝福するということは、彼らにはばからしいことだと思えたのである。彼の信奉者達 - 漁師で一般庶民 - は、ローマ帝国に釣り合うとは思えなかったのだ。

パリサイ人達は、イエスの主張を暴き、彼

の信奉者達に真実を悟らせることを望んで、この王国がいつ登場するのかを詰問した。彼らは「神の国はいつ来るのか」と尋ねた。「イエスは答えて言われた『神の国は、見られるかたちで来るものではない。また『見よ、ここにある』『あそこにある』などとも言えない。神の国は、実にあなたがたのただ中にあるのだ(ルカ 17: 20, 21 口語訳)。」イエスはここで、王国の精神的な局面を説明している。それは彼が紹介したものであり、彼はそこに人々を呼んだのである。イエスが「偽善者」と呼んだパリサイ人達はこれを理解することができなかった(エフェソス 4: 4; ルカ 16:16; コリント第一 2:14)。

ユダヤ人の地上の王国に対する期待も、もったもなしであり、それはやがて実現するだろう。しかしまず天の王国を確立しなければならない。その存在は目には見えず、当面は見分けられないだろう。しかし、完全に確立されると、それはどこにも存在し、支配し、そして律速され、そして強力だろう。その効果は、地上の王国に明確に現れるだろう。

ニコデモの質問

しかし、ニコデモという名の一人のパリサイ人が、夜に個人的にイエスのところに来て、心の重荷となっていた王国の謎を解決しようとした。主とニコデモの間の会話(ヨハネ 3)が一部記録されており、神の国についてより多くの洞察を与え、以下のように言い表すことができる。

ニコデモ —「ラビ、私たちは、あなたが教

師として神の元から来たことを知っております。神が共におられない限り、あなたがなさるこうしたしるしを行なえる者はいないからです (ヨハネ 3:2 新世界訳)。しかし、あなたとあなたの信奉者達は、「天の王国は近づいた(マタイ 3:2 , マルコ 1:15)」と言われる一方で、あなたは軍隊も権力もお持ちではありません！ この王国はいつ、どのように確立されますか？

イエス - 王国についてのあなたの質問に答えることはできるが、それでもあなたは理解できないだろう。「再び生まれなければ、だれも神の王国を見る真知の又は精通することはできません(ヨハネ 3:3 新世界訳。)」ニコデモ、私の弟子でさえ、彼らが宣言している王国について学ぶべきことが多くあります！ 私はあなたにこれ以上話すことができないのと同じ理由で、彼らにも話すことはできません。私達の父は、もっと多くの光が与えられる前に、既に所有していた悟りに従うことを求めておられます。その王国で分かち合う価値のある人々は、信仰によって歩む必要があります。時には、先立って一歩しか明確に見えないこともあり

ます。

ニコデモ — しかし、どういう意味ですか？
「どうして人は年を取ってから生まれることができるのでしょうか。自分の母の胎にもう一度入って生まれてくることなどできないではありませんか？」私は洗礼者ヨハネのようにあなたの弟子たちが定期的に説教し、水で洗礼することに気づいています。このバプテスマは象徴的な誕生ですか、あなたの王国を見たり、あなたの王国に入るのに何らかの形で必要なのですか？

イエス - 私達の国は、神聖化された国であり、エジプトを離れた時に、「海の中」、「雲の中」で、モーセにつくバプテスマを受けました(コリント第一 10: 1, 2)。神はシナイでの契約の仲介者としてモーセにて国を受け入れました。しかし、この契約は忘れられています。多くは公然たる罪人です。他の人は独善的な偽善者です。それで、ヨハネと私の信奉者達が、悔い改めについて説いているのです！

しかしこれ以上のことが必要です。私の王国を見るには、精神をさずかり、生まれな

†ギリシャ語は gennao であり、ストロングコンコーダンスの単語番号 1080。文脈によれば、「(子を)もうかった」または「生まれた」のいずれかに表記することができる。両方のコンセプトが含まれています。出生はその前に(子を)もうかったことを意味し、子をもうけることは出産につながる。 gennao は男性に関する場合、通常は(子を)もうけるの意味で、女性に関する場合は、通常出産を指す。新しい生命に適用される英語の生成されたという単語は類似しています。(したがって、ヨハネ 2:29,3:9, 4:7,5:1,18 では、神、男性語が動作用語であるため、子をもうかったとすべきである。)しかし、時によっては、翻訳は行為の性質による場合がある。従って、ek、〜からという意味で使用される場合は、「生まれた」と訳されるべきである(ヨハネ 3: 5, 6、「水の中」、「肉から」、「霊から」など)。

‡ ここでは「見る」というギリシャ語は、「知ること」(文字通りまたは比喩的に)で、「見る」の意味のストロングコンコーダンス単語番号 1482 である。例えば、「考える」(使徒 15:6)。

ければなりません。悔い改めはあなたを正当な状態に戻してくれるでしょう。そうすれば私をより偉大なモーセ、メシアと認識することができます。私を受け入れ、神の意志を行うために人生を奉獻するとき、人は私達の父によって新しい命に生まれるのです。新しい生き物として発展した後、最初の復活で「生まれ」ます。それから、王国で、見て、分かち合うでしょう。

ニコデモス、この新しい霊の誕生への変化は真に素晴らしいです。御霊から生まれたのは霊です。私は説明してみましよう：「風はその望む所に吹き、あなたはその音を聞いても、それがどこから来てどこへ行くのかを知りません。霊から生まれた者も皆そのようです(ヨハネ 3: 8, 新世界訳)。復活の際に、彼らは王国政権に「入る」、あるいはその一部になるでしょう。彼らは風のようになりますが、強力ではありませんが、目には見えません。

ニコデモ — どのようにしてですか？ 目に見えない存在？

イエス — さて、ニコデモ、確かによく研究したパリサイ人としてあなたは霊的存在は、存在するが、目に見えないことを知っています。エリシャとその仲間、そしてバラムのロバを思い出してください。霊的存在は存在しましたが、見えませんでした。天使は見えない霊の存在です。私が言ったように、上の人から生まれた人以外は、神の国を理解できません。

この王国で私との共同相続人になるには、光を一步一步進まなければなりません。あ

なたは私が神から来た教師であることを認識していますが、私の説教全とて奇跡をもって、あなたの信仰に基づいて行動しておらず、公然と私の追従者の一人になりました。私が風などの地上の実例で教えたことは、理解や悟りをもたらさなかったので、「わたしが地上の事柄を話してもあなた方が信じないのであれば、天の事柄を話したとしても、どうして信じるでしょうか(12,13 節, 新世界訳)。」私は私が話していることを知っています。唯一私だけが天から降りてきたのであり誰一人昇天した人はいません。天の事柄の知識は、霊から生まれることによるのみ受けることができます。天のものは、精神的存在として「生まれ」たときのみ経験することができます(3,6 節)。

今の王国は「小さな群れ」

メシアとしてのイエスは、初め、「彼自身の」ユダヤ民族(ヨハネ 1: 11, 12)に彼の王国への参加を申し出たが(ヨハネ 1:11,12)、イスラエルの「残党」だけが受け入れた(ローマ 11: 5)。後になって、彼の復活の後、コーネリアスの改宗時に、召命は異邦人に拡大された。それでも、異邦人を含めた後でさえ、神の王国における共同相続の特権を称賛するのは「小さな群れ」である(ルカ 12:32)。

今日、世界の 3 分の 1 以上がクリスチャンと呼ばれている。しかし、これらのほとんどは、主の群れの真の「小麦」ではなく、「雑草」である。神の王国は雑草でできているのではない。しかし、真の教会の中で、今

信者の心には恵みの働きがある。今の真の教会は神の王国であるという感覚がある。しかし、最終的には、王国は世界に広がる。キリストは「海から海へ、そして川から地の端まで」(詩編 72: 8, 口語訳)、「諸国の者はみな彼らに仕え、かつ従う(ダニエル 7:27)。」「それは、イエスの御名によって、天上のもの、地上のもの、地下のものなど、あらゆるものがひざをかかめる(ピリピ 2:10, 口語訳)」からである。

今、「この世の王子」は王国の「闇」を支配している(ヨハネ 16:11; コロサイ 1:13)。」しかし、神の王国が成立すると、サタンは完全に束縛され、「諸国民を惑わすことができない(啓示 20: 3)」。それから王国は「力とおおいなる栄光の中で」立てられる(マタイ 24:30)。真理は世界中に広まり(テモテ第一 2: 4; エレミヤ 31:34)、全での人々が主イエスの正しい権威を認識するだろう(イザヤ 25: 9)。

王国の確立はイエスが戻られる時

私達の主イエスの寓話は、キリストの再臨後に王国が確立されることを明確に教えている。最初は、信奉者達は「神の国がすぐに現れると思った」ので、イエスは、長い遅れがあることを説明するため、例え話をした。「ある身分の高い人が、王位を受けて帰ってくるために遠い所へ旅立つことになった(ルカ 19: 11,12)。」

キリストと共に統治することを望む私達への約束は、「死に至るまで忠実であれ。そうすれば、この世ではなく、次の世で(啓示

2:10; 5:10)―いのちの冠を与えよう」である。イエスと共に「耐え忍ぶなら」私達は「彼と共に支配者となるであろう(テモテ第二 2:12)」それに反して、名目上の教会はしばしば世界との友好を求める。彼らは時の繁栄を神の恵みの兆しと考えています。イエスは、「財産のある者が神の国にはいるのは、なんとむずかしいことであろう(マルコ 10:23)」と警告された。ジェームスはこのように言った。「神は、この世の貧しい人たちを選んで信仰に富ませ、神を愛する者たちに約束された御国の相続者とされた(ヤコブ 2: 5)。」

現在準備中の初期段階の王国

真の教会は現在、神の国が権力と栄光に建立されているのではなく、初期段階の状況にすぎず、信仰、知識、忍耐、愛を育てている。私達が「ますます励んで、あなたがたの受けた召しと選びとを、確かなものに」すれば、救主イエス・キリストの「永遠の国に入る恵み」を受けるだろう(ペテロ第二 1: 10,11)。

イエスは現在の私達の王であり、彼の君主の地位を受け入れている。この意味で、私達はすでに「わたしたちをやみの力から救い出して、その愛する御子の支配下に移して下さった(コロサイ 1:13)。」パウロは同様の方法で王国に触れている。「神の王国は…義と、平和と、聖霊における喜びとである(ローマ 14:17)。」これらのテキストは、私達が今味わう楽しむ恵みを指している。しかし、やがては、教会が栄光のう

ちに完成すると、神の王国はキリストとその教会の統治下で全世界に広がるだろう。

キリストとの王国の名誉と共同相続の約束は、私達にとって現在の試練と迫害の下での忠実性に対する強力な動機となる。『啓示』の中の教会への手紙が繰り返し肯定するにつれて、この現在の人生で克服した人だけが、次の人生で王国の榮譽を得るのである。「勝利を得る者、…諸国民を支配する権威を授ける(啓示 2:26, 20:6)。」「勝利を得る者には、わたしと共にわたしの座につかせよう。それはちょうど、わたしが勝利を得てわたしの父と共にその御座についたのと同様である(啓示 3:21)。」

世俗的な、早期の王国

人間の本質は苦しみを避けようとし、常に榮譽と権力を握ることをいとわない。使徒の日にさえ、現在の人生の将来の榮譽を主張する者もいる。「あなたがたは、すでに満腹しているのだ。すでに富み栄えているのだ。わたしたちを差しおいて、王になっているのだ(コリント第一 4:8)。」その効果は誇りに向かっており、犠牲から遠ざかっていた。

その間、パウロと他の忠実な者達は、まだキリストのゆえに愚かな者となり…わたしたちは卑しめられている(コリント第一 4: 10-17)。」パウロは次のように論じた。もし約束された治世が始まっていけば、彼も統治していなかったのか？ 聖人たちはこの世では統治しない。彼らは彼らの復活時に王権に入る。「今や、義の冠がわたしを待

っているばかりである。かの日には、公平な審判者である主が、それを授けて下さるであろう。わたしばかりではなく、主の出現を心から待ち望んでいたすべての人にも授けて下さるであろう(テモテ第二 4: 8)。」初期の教会は、異教徒ローマの下で彼らは多くの迫害に耐えたが、多くの難題に忠実に従った後、教会の使命は世界を征服し、王国を確立し、主の再臨の前に諸国家を統治することだという理論が広まり始めた。キリスト教の流儀を容易にするため、異教徒と妥協した。これは偉大な儀式、壮齢さ、ショーにつながり、世俗的な印象を与えた。イエスと彼の使徒達が植えた小麦の畑は、偽小麦の「毒麦」で覆われてしまった(マタイ 13: 24-30, 36-42)。

教会は段階的に非宗教的な権力を挙げていった。第四世紀の間、キリストの復帰を待つかわりに、地上の王達と団結し始めた。何世紀にもわたり、教皇自身がヨーロッパの王達に王位を与え、また王位を奪い、教皇の様々なプロテスタントの「娘」が、教皇の政治的影響を模倣しようとした。これらのシステムはまた、多かれ少なかれ、教会の治世が進行中であると主張している。悲しいかな、キリストが戻って〔比喩的に〕「ドアに立つ」と、教会は精神的に「貧しい者、目の見えない者、裸な者(啓示 3: 17-20)」であるが、彼は名目だけの教会が「豊か」であると考える。

思慮深く観察する者なら誰でも、地上の豊かさと権威を望むキリスト教国の見方、そして王国とその榮譽が、キリストの再臨と

私達の栄光への復活に続くというイエスと使徒たちの教えに大きな違いを見出すことができる。

神の王国の2つの段階

神の王国は、初めは見掛け、または「見えるかたち」(ルカ 17:20)で来るのではない。霊的な部分は常に人間には見えない。しかし、完全に設立されれば、王国には地上の可視的な段階も含まれる。霊的な段階の存在と力は、主に人間の描写を通して知られている。

王国の霊的段階の人々は、福音時代の克服し、栄光を与えられた聖徒、頭であるキリストと栄光を与えられた身体である教会である。彼らの復活は、「最初の復活」で、他の全ての人々よりも前のものであり、他の全ての人々を祝福するためだからである。

「そして彼らは生き返り、キリストと共に千年のあいだ王として支配した。残りの死人は千年が終わるまで生き返らなかった。これは第一の復活である。第一の復活にあずかる者は幸いな者、聖なる者である。これらの者に対して第二の死は何の権威も持たず、彼らは神およびキリストの祭司となり、千年のあいだ彼と共に王として支配する啓示 20: 4-6、新世界訳)。」

「残りの死人は千年が終わるまで生き返らなかった」という斜字体のフレーズは、5世紀に追加された。(このフレーズは、最も古く、最も信頼できるギリシャ語の書物(シナイ、バチカン # 1209 と # 1160、シリア語でも

見つからない)。それは明らかに傍注から偶然本文にコピーされたもので、5世紀以前の文書にこれを含むものは存在しないので、これは聖書の本物の部分ではない。加えて、この言葉は、千年時代の目的は、聖書の明瞭な証言と矛盾するだろう。なぜなら、ミレニウム時代の目的は、全ての人々に命の完全な機会を与えることであり、ミレニウム時代にその機会を得るために蘇られなければならない、過去の時代の死者を含むからである。

統治するために「蘇る」人々は、「最初の復活」を成し遂げる。残りの人類全ては、修復の目的のために、ミレニウム王国の間——後ではなく——に蘇る。彼らの復活(ストロングの # 386 のアナスタシス、「復活」)は、地上の王国の父アダムによって失われた人生の豊かさを取り戻すために段階的に再立上するだろう。

リーダーとして復活した古代の名士

「古代の名士」とは、「光栄とほまれと朽ちぬもの」のためにキリストが「新しい生きた道」を開く前に生きた、信仰深い男女(ヘブライ 10: 20、ローマ 2:7)である。これらには、アベル、ノア、アブラハム、サラ、モーセ、サムソン、ダビド、サムエル、ラハブ、そして預言者等が含まれる[これらの人々はみな、信仰によってあかしされたが、約束のものは受けなかった(ヘブライ 11:39)。] 実証された信仰の男性と女性として、彼らは再び裁きに持ち込まれることはないが、王国が始まる時、初めに完全な人間として蘇る。

彼らのリーダーシップと事例は、世界を刺激するだろう。彼らは世界が見るべき完璧な模範となるだろう。世界が障害及び課題と共に彼らの墓から出てくると、彼らは古代の名士達に見られる完璧な人生の可能性を見るだろう。これらの古代の名士達は地上で神の王国の人類の代表者となるだろう。

私達は、天国のこの2つの段階がどのように機能するのか、明確な情報は与えられていないが、この世の王国を最後に取り除き、サタンの束縛の後、神の神々しく名誉ある代理人は、世界をより良い未来に導くであろう。世界はすぐに彼らと協力し、彼らの指導に従い、「聖なる道」(イザヤ 35: 8)を進めることを学ぶだろう。

完璧な人間としての古代の名士達は、完璧な政府を確立するだろう。よく計画された教育的、慈善的な作品は、人間の福祉のあらゆる側面を促進するだろう。世界の富は増え、協力しているすべての人の間で公正に分配されるだろう。古代の名士達は天から知恵を引き出し、人類は段階的に上昇し、人生、健康、祝福、そして最終的には完璧性に昇るだろう。

人々が神の律法を「彼らのうちに置き、その心にしるす(エレミヤ 31:33)。」崇高な欲望と野心は全て喜ぶだろう。それは栄光に満ち、満足のいくものになるだろう。修復の仕事が終わると、千年の終わりに、全人類は、神の前で - 除去される矯正不可能な少数以外 - 汚点や欠点なしに承認されるだろう(マタイ 25:46; 啓示 2: 8)。

古代の名士達の働きと労働は、永遠に感謝する人類によって、決して忘れられないだろう。

彼らは「永遠に星のようになって」輝き、永遠に思い出に残されるだろう(ダニエル 12: 3、詩編 112: 6)。栄光の聖徒たちは「太陽のように輝きわたる」(マタイ 13:43)。天と地の名誉はキリストと天の「花嫁」の足元に置かれ、永遠の祝福の時が来るだろう(ローマ 8:18、エフェソス 2: 7-14)。

最初に「星」、次に「砂」

神が王国の天と地の両方の局面を確立しようとしていたことは、アブラハムに対する神の約束と同じくらい前に示唆された。「わたしは大いにあなたを祝福し、大いにあなたの子孫をふやして、天の星[霊]のように、浜べ[地上]の砂のようにする。... そして地のすべての国民はあなたの子孫によって祝福をえるであろう(創世記 22:17; 26: 4)。」アブラハムはおそらく地上の約束のみを理解しただろうが、神は恵みをもって優越的な天の約束も - 好意を優先して - 念頭に置いていたのである。

アブラハムの契約は約束の根源だった。この根源から肉体的にイスラエルが成長した - しかし、後の異邦人の信者は、無知のために自然の枝が切り取られたときに接合された(ローマ 11: 17-21, 25-32)。この霊的な福音の枝は現在の福音時代に発展するが、ミレニアル時代に地上の枝も生まれるだろう。

自然のイスラエル、ユダヤ時代に成長した

枝が、最初に現れたとき、福音時代の霊的支部は王国でより大きな名誉と栄光を受けるだろう。そのため、「多くの先の者はあとになり、あとの者は先になるであろう(マタイ 19: 30)。」

天の種へのより高い約束が完了するまで、古代の名士達に対する地上の約束は成就しないだろう。「これらの人[古代の名士達]はみな、信仰をいだいて死んだ。まだ約束のものは受けていなかったが、はるかにそれを望み見て喜び、そして、地上では旅人であり寄留者であることを、自ら言いあらわした。神はわたしたちのために、さらに良いものをあらかじめ備えて下さっているのだから、わたしたちをほかにしては彼らが全うされることはない(ヘブライ 11: 13,39,40)。」

イエスは、ゴルゴタの丘の十字架上で自分の命を犠牲にした後、天の栄光にて非常に高尚にされた。克服する教会は、まず苦しみと犠牲、次に続く栄光によって彼に加わる。アブラハムの「約束による相続人」として、彼らは主たる祝福を受ける(ガラテヤ 3:29)。そして、天のクラスが終わると、神の祝福が全ての人々に流れるだろう。

イスラエル—「国家への光」

王国の祝福の地上の道がイスラエルを流れるだろう。この事実の周囲には、神の計画の中でその国の約束に関係する多くの預言が集まっている。

◆「わたしはわが民イスラエルの幸福をもとに返す。彼らは荒れた町々を建てて住み、ぶどう畑を作ってその酒を飲み、園を作っ

てその実を食べる。わたしは彼らをその地に植えつける。彼らはわたしが与えた地から再び抜きとられることはない」とあなたの神、主は言われる(アモス 9:14,15)。」

◆「あなたがわがしもべとなって、ヤコブのもろもろの部族をおこし、イスラエルのうちの残った者を帰らせることは、いとも軽い事である。わたしはあなたを、もろもろの国びとの光となして、わが救を

地の果にまでいたらせよう(イザヤ 49: 6, 口語訳)。」

◆「ユダの家およびイスラエルの家よ、あなたがたが、国々の民の中に、のろいとなっていたように、わたしはあなたがたを救って祝福とする。恐れてはならない。あなたがたの手を強くせよ(ゼカリヤ 8:13, 口語訳)。」

◆「後になれば、ヤコブは根をはり、イスラエルは芽を出して花咲き、その実を全世界に満たす。(イザヤ 27: 6, 口語訳)。」

◆「多くの民および強い国民はエルサレムに来て、万軍の主を求め、主の恵みを請う。万軍の主は、こう仰せられる、その日には、もろもろの国ことばの民の中から十人の者が、ひとりのユダヤ人の衣のすそをつかまえて、『あなたがたと一緒に行こう。神があなたがたと共にいますことを聞いたから』と言う(ゼカリヤ 8: 22,23)。」

イスラエルの子供達は、王国で信仰の父、すなわちアブラハム、モーセ、ダビデ、そして「すべての地上で君臨する者たち」と認識し協力する最初の人物となるだろう(詩編 45:16)。「こうして、あなたのさばきびと

をもとのとおりに、あなたの議官を初めのとおり回復する。その後あなたは正義の都、忠信の町となえられる(イザヤ 1:26)。」

イスラエルは、法律に基づいて訓練を受け、旧約聖書の古代の名士達を尊重する遺産と共に、新しい法律および支配者である王国の迅速な受け入れのために準備される。彼らは家長達の子供であり、神の契約宮殿が与えられたので、神の国を世界に代表する特別な特権を持つことになるだろう。

エルサレム—「平和の都」

エルサレム、「大王の都」は、神の典型的な王国の帝国の中枢であり、ミレニアム時代に神の王国が成立したときに再びそうあるだろう(詩編 48:2、マタイ 5:35)。

キリストと共に世界を祝福するために完成し、準備の整った教会は、啓示 21 章 2 節で「聖なる都市、新しいエルサレムが、天から、神のもとから下って来るのを、そして自分の夫のために飾った花嫁のように支度を整えた」と描写されている。それ故に、天からの「エルサレム」と地上のエルサレムは、世界を支配する天国の 2 つの局面を構成している。それが、アブラハムが求めた「その[都市]の建設者また造り主は神」であり、その都が「ゆるがぬ土台の上に建てられた」政府、ヘブライ 11:10、新世界訳)だろう。この政府は、キリストの義の「岩」と、彼が与えた人の贖いの価値と、以前に有罪判決を言い渡すことができたよりも、償還者を非難することのない神の正義の堅固さとに基づいている(ローマ 8: 31-

34; コリント第一 3:11)。」

輝かしい平和の都市！その「壁」が救い(イザヤ 60: 18)を意味し、入る人全てを保護し、祝福を与え、決して動かすことのできない正義に基盤を置いている。人々が王国で完璧に向かって「神聖のハイウエー」を上になると、彼らはアダムのように地上の主権者になるだろう。「諸国民は都の光の中を歩き、地の王たちは、自分たちの光栄をそこに携えて来る(啓示 21: 24, 口語訳)。」ヨハネは、ビジョンの中で、新しいエルサレムの光の中で人々が歩いているのを見たが、欺瞞や不義を働かせてそれを汚す者は誰も入ることができなかった。彼らの現在の生活がどれほど良くても悪くても、全ての人々が王国を継承する機会を持つだろう。しかし、彼らが、「わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、世の初めからあなたがたのために用意されている御国を受けつぎなさい(マタイ 25:34)」と招待を受ける前に、各人がまず徹底的にテストされるだろう。

世界が正義に変わり、王国を満たしていくと、それは拡大して世界を満たすだろう。天から来る「新しいエルサレム」は、救い出された世界を門から受け入れ、それゆえに拡大して地上の王国全体を含む。したがって、預言者によって言及された「エルサレム」は、広く適応する。

多くの旧約聖書の予言は、地球に確立された神の王国の将来の栄光と素晴らしさを象徴するためにエルサレムの街を使用している。

◆「エルサレムの荒れすたれた所よ、声を放って共に歌え。主はその民を慰め、エルサレムをあがなわれたからだ(イザヤ 52:9)。」

◆「見よ、わたしはエルサレムを造って喜びとし、その民を楽しみとする(イザヤ 65:18)。」

◆「エルサレムといっしょに喜び、楽しめ。…エルサレムをこの上もない喜びとせよ…赤ん坊が母親の豊かな乳房を吸うように、エルサレムの栄光を堪能するまで飲め…繁栄が川のようにエルサレムにみなぎりあふれる(66: 10-12 JLB)。」

◆「そのときエルサレムは主のみ位ととなえられ、万国の民はここに集まる(エレミヤ 3:17)」

◆「そして、多くの人が行って、あなたがたに来て、主の山地、ヤコブの神の家に行くように

しなさい。彼は私たちに道を教えてくれるでしょう。私たちはその道を歩みます。シオン

[霊]から出て霊は律法になり、主の言葉はエルサレム[地]から出ます(イザヤ 2:3)。」

神は全民に慈悲を抱かれるだろう！

イスラエルに対するこれらの美しい預言的な約束を考えると、イスラエルは時に人類の全世界に典型的であることを覚えておいていただきたい。その契約は、従順のために命を約束し、ミレニアル時代以降の世界のための「新しい契約」を指していた。イスラエルの神権によって提供された贖い

の血は、より良い犠牲(ヘブライ 9:23)と王の王権 - キリストとその教会によってもたらされた祝福を象徴していた。

イスラエルには、彼らがキリストを受け入れる準備をするための教師になるための法律が与えられていた(ガラテヤ 3:24)。最初の来臨時には、彼らのうち残っていた者しかもたらさなかったが、2番目の来臨の際には、それはイスラエルを主の人々としてもたらすだろう。イスラエルは、王国の国々の中では最初の果物となるだろう。その政府の下で、神は「神は、おのおのに、そのわざにしたがって報いられる。善を行うすべての人には、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、光栄とほまれと平安とが与えられる。なぜなら、神には、かたより見ることがないからである(ローマ 2:6,10,11)。」

イエスが来られたとき、イスラエルは求めていたもの - 神のご利益と奉仕において首位を獲得できなかった。「イスラエルはその追い求めているものを得ないで、ただ選ばれた者が、それを得た。そして、他の者たちはかたくなになった(ローマ 11: 7)。」イスラエルは、全体として、天の栄光とイエスとの共同相続に対する高尚な使命を理解しなかったため、神はその使命を広げ、「異邦人たちを顧みて、その中から御名を負う民を選び出された(使徒 15: 14)。」しかし、異邦人からは、ほんの少数の人しか反応がなかった。服従と自己犠牲によってほんの少数だけが、彼らの「受けた召しと選びとを、確かなものに(2 ペテロ 1:10)するのである。実際には、小さな群れの一

部になるのは、僅かしかない。

自然の枝の多くは不信のために壊れてしまい、私たちも警告に注意を払うべきである。「それらの枝に対して勝ち誇ってはなりません。…神が本来の枝を惜しまなかったのであれば、あなたを惜しまれることもないからです(ローマ 11:18-21)。」ユダヤ人については、多くの壊れた枝があるにもかかわらず、神の選挙は有効である。イスラエルは王国で特別な役割を果たすでしょう。「福音について言えば、彼らは、あなたがたのゆえに、神の敵とされているが、選びについて言えば、父祖たちのゆえに、神に愛せられる者である。神の賜物と召しとは、変えられることがない(ローマ 11:28,29)。」神は「彼らを再びつぐ力がある(ローマ 11:23,24)。」イスラエルは、地上の約束の中に秘められた天の約束の祝福を忘れた。しかし、その大いなる地上約束は、まだ有効である。イスラエルは、今もミレニウム時代に素晴らしいサービスを世界に提供するだろう。

イスラエルの「失明」(これらの「悔い改めない心(ローマ 2: 5)」は一時的なものである。イスラエルは、異邦人教会の完全な数が完成すると、「あがなう者としてシオンにきたり、ヤコブのうちの、とがを離れる者に至る」キリスト—頭と身体—によって救われるだろう。

神はすべての人に慈悲を与え、天から、イスラエルを通して、古代の名士達に導かれ、栄光のある教会を通して、異邦人の世界を祝福する。

「一部のイスラエル人がかたくなになったのは、異邦人が全部救われるに至る時までのものであって、こうして、イスラエル人は、すべて救われるであろう。すなわち、次のように書いてある、『救う者がシオンからきて、ヤコブから不信心を追い払うであろう。そして、これが、彼らの罪を除き去る時に、彼らに対して立てるわたしの契約である。』福音について言えば、彼らは、あなたがたのゆえに、神の敵とされているが、選びについて言えば、父祖たちのゆえに、神に愛せられる者である。神の賜物と召しとは、変えられることがない。…あなたがたの受けたあわれみによって、彼ら自身も今あわれみを受けるためなのである。…ああ深いかな、神の知恵と知識との富は。そのさばきは窮めがたく、その道は測りがたい(ローマ 11:25-33, 口語訳)。」

エルサレムの二つの山

「主の山に登るべき者はだれか。その聖所に立つべき者はだれか。手が清く、心のいさぎよい者、その魂がむなしい事に望みをかけない者、偽って誓わない者こそ、その人である。誰がエホバの山に登りますか？ または誰が彼の聖地に立つべきですか？ 清めた手と純粋な心を持つ者(詩編 24: 3,4 口語訳)。」

エルサレムは、チュロペオン谷によって隔てられ、二つの山頂を持つ山に築かれた。一つの城壁を持った一つの都市で、二つの山をつなぐ幾つかの橋がかけられていた。一方の山には、栄光なる教会の司祭

職を象徴する神殿があった。もう片方の山は地上の段階における王国を代表していたと解釈されるだろう。

その都市に入ること自体が誇るべきことであつた。そして、聖職者たちが務める聖なる神殿の基に、山に登るのは更に名誉なことだつた。これらの名誉を得るには、「潔白な手と純粋な心」が必要－それが、天からの使命であれ、ミレニアル時代の地上の使命であれ－である。

高貴なる聖職、天の王国を志す者達は、「肉によらず霊によって歩く(ローマ 8:4 口語訳)」地上の王国に勤めようとする古来の名士達も、正義を愛し、悪を憎み、弱さに見舞われた時にはとても悲しんだ。ミレニアル時代に、真の霊である神の御霊が「あらゆるたぐいの肉なるもの(使途 2:17)」の上に注ぎ出すとき、天の王国を志す人類もその心が純粋であるように努めなければならない－世の基が置かれて以来、彼らのために備えられている王国(マタイ 25:34)－地上、元来の支配権が復元されるのである。

鉄即

しかし、制限的な法を持つ王国を仰ぐ全ての者が歡ぶという訳ではない。「彼は鉄のつえをもって、ちょうど土の器を砕くように、彼らを治めるであろう(詩編 2: 6-9; 啓示 2:27)。」仲間を欺く、虐待する、嫌がらせ、欺く、または傷つけることに対する自由は、停止されるだろう。自分を虐待する自己嫌悪の自由さえも取り除かれるだろう。「彼らはわが聖なる山のどこにおいても、そこなう

ことなく、やぶることがない(イザヤ 11: 9)。」現在存在している間違つた主構に基づいて設立された制度・施設の全ては破壊されるだろう。如何なる悪事も露出され、最後を迎えるだろう。「わたしは公平を、測りなわとし、正義を、下げ振りとする。

ひょうは偽りの避け所を滅ぼし、水は隠れ場を押し倒す(イザヤ 28:17, マタイ 10:26)。」

多くの者は、その完全で公正な規則に反抗の意を抱くだろう。何故なら、彼らは常に死から免れない他の仲間に対して尊大ぶっているからである[富んでいる人たちよ。よく聞きなさい。あなたがたは、自分の身に降りかかろうとしているわざわいを思って、泣き叫ぶがよい(ヤコブ 5:1-6, 口語訳)。」多くのそして厳しいものは、自墮落で無秩序に自己満足している現在の生活が自然と要求し、それは正義の教訓を学ぶ前に授与される「つえ」(詩編 89:32)である。しかし、あらゆる方法で善を行う自由は、すぐに報われるだろう。キリストの統治下で、大多数は正義を愛し、永遠に生きることを学ぶだろう。それでも、王国の平等、正義、正義に従うことを拒む者もいる。これらは「民の中から滅ぼし去られるであろう(使徒 3:23)」

永遠の王国

「主[エホバ]は全地の王となられる。その日には、主ひとり、その名一つのみとなる(ゼカリヤ 14: 9)。」王国はエホバに属する。

しかし、ミレニウム時代、王国はキリストが直接支配するだろう。第二次世界大戦後、

侵略国は、責務たる民衆主権を築くために、一時的に従事していた。

それは、千年時代の世界に似ているだろう。地上の状況に対するキリストの統治は、限られた時間と特定の目的のためであり、目的が達成されると終わるだろう。

人類は反乱によって権利を失った。神はこれらの権利を、キリストを通して贖い、人に復活させるが、神は、人類が自分の回復に努めることを要求なさる。このプロセスを管理するには、強力で完璧な政府が必要であり、その政権を導くのはキリストの特権である。「あらゆる敵をその足もとに置く時まで、支配を続けることになっているからである。」そして、イエスは神に戻し、「それは、神がすべての者にあつて、すべてとなられるためである(コリント第一 15: 15-28, 口語訳)。」人類は、最初はエホバと直接対応するだろう。キリストと彼の教会が仲介に当たり、和解のための地上の大きな務めを、完結に成就なさっているだろう。今、私達は、キリストが贖いの犠牲になってくださった褒章を通してのみ、神によって受け入れられる。しかし、王国が神に引き継がれるとき、全ての民衆が、法律並び

に御霊に完全に忠順に従うことが出来るだろう。全民衆が神の御前に穢れなく立ち、恵みの結果を受けることが出来る様になるだろう。「わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、世の初めからあなたがたのために用意されている御国を受けつぎなさい(マタイ 25:34)。」

特別な調停とキリストと地上の教会による治世は終わるだろう。しかしより高尚な王国と、キリストの花嫁と共同相続人への栄光—「わたしたちの受ける栄光のために、世の始まらぬ先から、あらかじめ定めておかれた」—は決して終わらないだろう(コリント第一 2:7; エフェソス 1: 4) キリストと花嫁は、増してゆく栄光を永久に分ち合うだろう。私たちの無限の宇宙の他の世界で、なんと素晴らしい働きが、この高貴なエホバの仲介者の力を待っていることだろう!

それまでは、世界の悩みが増え間に、創造物全体が嘆き、待っている。それはこの王国を、「神の子たちの出現」(ローマ 8: 19,22)を待っているのである。」神の王国だけで悪を押しつぶし、全てを癒し、祝福するだろう。「御国がきますように。みこころが天に行われるとおりに、地にも行われませうように。」

◆ 研究 15 ◆

主の日

「主の日」[エホバ]は、神の王国が徐々にキリストの下に建てられ、この世の王国がなくなる期間である。この間、サタンの方と影響力の低下と「稲妻」のようなあらゆる種類の真理の閃光が、かつてない革命と戦争につながる(詩編 97:1-4)。その結果、「国が始まってから、その時にいたるまで、かつてなかったほどの悩みの時(マタイ 24:21, ダニエル 12:1)が起こる。

それは「エホバの日」と呼ばれる。キリストは現在存在し、王の称号と権力を持っているが、彼の仕事はそれ以上で、全てを征服するエホバの総会長として、世界を祝福する平和の王子としての仕事以上である。最終的にキリストはすべての王の王として認識される。

預言者たちは、この移行期を、キリストの支配を確立するためのエホバの働きとして説明している。「それらの王たちの世に、天の神は一つの国を立てられます(ダニエル 2:44)。」

「もろもろのみ座が設けられて…人の子のような者が…日の老いたる者のもとに来ると、その前に導かれた。彼に主権と光栄と国とを賜い、諸民、諸族、諸国語の者を彼に仕えさせた…諸国の者はみな彼らに仕え、かつ従う(ダニエル 7:9,13,14,27)。「わたしはもろもろの国を

嗣業としておまえに与える(詩編 2: 8)。」イエスが自分の治世の全ての目的を終えると、「御子自身もまた、万物を従わせたそのかたに従うであろう。それは、神がすべての者にあつて、すべてとなられるためである(コリント第一 15:28)。」

この時期は、「神の報復の日」と「怒りの日」(イザヤ 61: 2, 63: 1-4, 詩編 110: 5)とも呼ばれる。神の怒りは神の悪意の結果ではなく一むしろ全民の利益のための正しい正義に関する彼の正義の法律に違反するためである。イスラエルはアブラハムの子孫として、神の書いた法律に違反し、結果を受けた。異邦人はまた、「良心」の法律に違反した。ユダヤ人も異邦人も、このようにして「神が裁判官として立ち、すべての人を正しくさばかれる」ことを待って怒りを蓄えている(ローマ 1: 28, 29; 2: 1-16)。しかし、キリストの千年王国を紹介しているこの懲戒は、世界全体にとって顕著な祝福となるだろう。

トラブル—罪の当然の結果

ある意味では神の怒りは人間が「罪の世界」を否定するイエスの正しい指示を無視した結果である(ヨハネ 16:8)。しかし、別の意味では、来るべき問題は、当然で合法的な罪の結果である。人類は一般的に、聖

書の忠告と、彼の民衆を通して働く聖霊の働きを無視する。トラブルの時は、この無視の叱責である。

教会への神の招待はキリストと共に犠牲にすることだが(ローマ 12:1)、彼の世界へのメッセージはよりシンプルになっている。「あなたの舌をおさえて悪を言わず、離れて善をおこない、やわらぎを求めて、これを努めよ(詩篇 34:13,14)。」しかし、どちらのメッセージにも注意する人はほとんどいない。キリストと犠牲をする聖徒は比較的少ない。世俗主義者はしばしば、どのような方法でも、富と名誉と権力を求める。

エホバの日の問題は、神の律法の原則、「心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ…自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ(マタイ 22:37-39, 口語訳)」を守ることによって、避けることができたろう。しかし、墮落した、または肉体的な心は、神のこの法則に反対している。そして、問題の当然な結果は、播種後に刈り取りとして起こるだろう。

何世紀もの人類の歴史を通して、あまりにも頻繁に利己心と権力が支配してきた。「鉄のつえ」(啓示 19:15)の救い主の法の下でのみ、人は正義と愛の支配の優れた利益を学ぶだろう。そして人は内部から変わるだろう。「あなたがたの肉から、石の心を除いて、肉の心を与える(エゼキエル 36: 26,27)。」

貪欲と抑圧の歴史

神の愛から利己主義への変化は、アダム

とイブがエデンの生地から追放された時まで遡ることができる。そして、全てを豊富に与えられる代わりに、アダムは「顔に汗してパンを食べ、ついに土に帰る創世記 3:19」と、労働を運命づけられた。生存が人類の主な活力となり、概してより高貴な資質を鍛えることを妨げた。必要以上に、人は財宝と贅沢の「富」(マタイ 6:24)を掴み、貪欲になった。そしてサタンがこの傾向を大いに活用したのである！

何千年もの間、無知、人種的偏見、および国家の誇りは、富を少数の人間の手中に集めた。不思議なことに大抵の場合大衆は、これらの少数の人間に怯えて服従することに誇りを持っていた。しかし、エホバが「万物更新(使徒 3:21)」を通して世界を祝福する時が近づくにつれて、人々は自分達の権利に目覚めた。教育の観点から、無知と迷信が、独裁者や支配者の権力に挑戦してきた。

1800年代後半から、生産手段を支配する人々と賃金収入の大衆との間に敵意が高まっている。世界経済は、今や世界的な金融崩壊のストレスに悩み、倒産に直面している。その結果、裕福な人達は政府に近づき、一方では失業者達が貧しい階級を社会主義、更には無政府に良い人生を望む無秩序に押しやられ、それを通してより良い人生を見つけることを望んでいる。

学校、病院、図書館の一般市民のために寄付する親切な金持ちは称賛されるべきである。

それにもかかわらず、裕福な階級と労働階

級の間では緊張と敵意が増し続けている。しかし、これらすべての傾向は、キリストの王国が確立できるように、現在のシステムの終わりに備えて準備している。

バビロンについての予言、豊者と貧者

旧約聖書の多くの予言は、現在の市民的、社会的、宗教的制度がどのように消滅するかを予測している。エジプト、バビロン、イスラエルに関する予言は文字通りの成就をもたらしたが、後になってより大きな終末を遂げた。例えば、イザヤとエレミヤのバビロンに関する予言は、文字通りのバビロンが滅ぼされた後、啓示の書で言及されている。(イザヤ 47: 7-9 と啓示 18: 7-9、エレミヤ 51: 63-64 と啓示 18:21 と比較)。

啓示の書では、「バビロン」はキリスト教国と呼ばれる、名目上の教会を明確に表している(啓示 17: 5,9,18)。より大局的な見地におけるエジプトは、神が彼の民衆を去るよう命じる世界を表している。昔のイスラエルは、王国の人類がその王国の司祭職による贖いから、頻繁に恩恵を受けたことを表している。このように、神はイスラエルへの祝福、「エジプト」への大厄災を約束し、キリスト教国の名誉のための完全な破壊を完了させ、「大きなひきうすのような石を持ちあげ、それを海に投げ込んだ(啓示 16: 8; 18:21)。」

使徒ジェームズは、この日のことを、資本と労働、富裕層と貧困層の間の紛争の結果として説明している。「富んでいる人たちよ。よく聞きなさい。あなたがたは、自分の

身に降りかかろうとしているわざわいを思って、泣き叫ぶがよい。あなたがたの富は朽ち果て、着物はむしばまれ、金銀はさびている。そして、そのさびの毒は、あなたがたの罪を責め、あなたがたの肉を火のように食いつくすであろう。あなたがたは、終りの時にいるのに、なお宝をたくわえている。見よ、あなたがたが労働者たちに畑の刈入れをさせながら、支払わずにいる賃銀が、叫んでいる。そして、刈入れをした人たちの叫び声が、すでに万軍の主の耳に達している。あなたがたは、地上でおごり暮し、快樂にふけり、「ほふるる日」のために、おのが心を肥やしている。(ヤコブ 5: 1-6, 口語訳)。」

多くの改革—慈善団体、組合、最低賃金法など—が、庶民を支援しようと試されているが、世界的な金融危機には役に立たない。世界全体が相互に結びついているため、ある国で起こることが、他の国に影響を及ぼす。ビジネスは主に信用によって行われるため、社会は最終的には崩壊するだろう。失業率が上昇するにつれて、人々はもっと必死になるだろう。真の改革に失敗すると、大衆の反乱が起こるだろう。時間が急速に到来しており、「地上では、諸国民が悩み、…おじ惑い、人々は世界に起ろうとする事を思い、恐怖と不安で気絶するであろう(ルカ 21:25, 26)。『惑い』『おじ惑い』が「出口がない」ことを意味する。

予言者エゼキエルが予言したように(7: 10-19, 口語訳)、「時は来た。日は近づいた。…わたしの怒りがそのすべての群衆の

上にあるからだ。外にはつるぎがあり、内には疫病とききんがある。畑にいる者はつるぎに死に、…彼らはその銀をちまたに捨て、その金はあくたのようになる。主の怒りの日には金銀も彼らを救うことはできない」エホバは貧しい人々の怒りを現在の制度を破るのに喜んで使うだろうが、彼らの不当な行為のために処罰されることもある「主の犠牲をささげる日に、わたしはつかさたちと王の子たち、…を罰する。その日にわたしはまた、すべて敷居をとび越え、暴虐と欺きとを自分の主君の家に満たす者を罰する(ゼパニヤ 1: 8-9)。」今後のトラブルには、全階級の人類が関わってくるだろう。

破壊の(象徴的な)火

この破壊は、裕福ではなくなるという意味で、富裕層の多くを滅ぼすだろう。疑いなく、人々の破壊は主な目的ではないが、失われる命もあるだろう。

「主の大いなる日は近い、…そこに、勇士もいたく叫ぶ。その日は怒りの日、なやみと苦しみの日、荒れ、また滅びる日、暗く、薄暗い日[トラブル]、雲と黒雲の日[不確実性と不吉な予感]、ラッパ[象徴的な「第7のラッパ」とときの声の日、堅固な町と高いやぐらを攻める[政府に対する騒々しく対立する叫び]日である。わたしは人々になやみを下して、盲人[不確実性の中で手探りしながら]のように歩かせる。彼らが主に對して罪を犯したからである。…彼らの銀も金も、主の怒りの日[以前同様]には彼ら

を救うことができない。全地は主のねたみの[象徴的な]火にのまれる”(ゼパニヤ 1: 14-18; 啓示 11:15-18, 口語訳)。」

ゼパニヤは後にこの無秩序の「火」について語り、全ての人々のために神からの祝福が続くことを示している。したがって、人々は破壊されない。彼らは試練を通して、神の言葉の「純粋な真理に祝福され、神に肩を並べて」奉仕することを学ぶ。

「あなたがたは、わたしが立って、証言する日を待て。わたしの決意は諸国民をよせ集め、

もろもろの国を集めて、わが憤り、わが激しい怒りをことごとくその上に注ぐことであって、

全地は、ねたむわたしの怒りの火に焼き滅ぼされるからである。その時[トラブルの後]わたしはもろもろの民に清きくちびる[清い世界]を与え、すべて彼らに主の名を呼ばせ、心を一つにして[肩を並べて]主に仕えさせる(ゼパニヤ 3: 8,9, 口語訳)。」

この問題はすでに明らかである。世界大戦ⅠとⅡはこのプロセスの一部だった。やがて聖徒たちが集まり、キリストと栄光のうちにいるとき、アーマゲドンが続くだろう。トラブルが自然な過程をたどった後、「すべての人のつるぎは、その兄弟に向けられる(エゼキエル 38:21)」とき、神は争いを終わらせ、世界は彼を好ましい態度で受け入れられるように教えられるだろう。

聖書の象徴的な言葉

怒りの日に関する預言を研究するにあつ

て、使徒ペテロによって記述されたように、聖書言葉のシンボルの意味を理解することが重要である。

- ◆「地球」は社会を象徴する。
- ◆「山」は王国、政府を象徴する。
- ◆「天国」は聖霊的コントロールの権威を象徴する。
- ◆「火」は破壊を象徴する。
- ◆「硫黄」は致命的な硫黄の煙による破壊の意味を強化する。
- ◆「世界」は時間の逸脱を象徴する。

ペテロはまず、昔の洪水の中で「滅びた水が流れていた世界」(第二ペテロ 2:5,6)として、「古い世界と地球」を語る。もちろん、文字通りの大地と波乗りは破壊されなかった—それは破壊された墮天使の影響下にある社会だった(ペテロ第二 2: 4; ユダ 6:ヘブライ 2:5)。「世は去り、世はきたる。しかし地は永遠に変らない(伝道 1: 4)。」ペテロは続けて次のように言っている。

「しかし、主の日は盗人のように[気づかれずに]襲って来る。その日には、天[悪魔の下にある空気の現在の力]は大音響をたてて消え去り、天体は焼けてくずれ、地社会]とその上に造り出されたもの[富、権力]も、みな焼きつくされるであろう。このように、これらはみなくずれ落ちていくものであるから、神の日の到来を熱心に待ち望んでいるあなたがたは、極力、きよく信心深い行いをしていなければならない。その日には、天は燃えくずれ、天体は焼けうせてしまう。

しかし、わたしたちは、神の約束に従って、義の住む新しい天[新しい神霊の力、キリストの王国]と新しい地[義と愛に基づく新しい社会]とを待ち望んでいる(ペテロ第二 3: 10-13)。」

こうしてペテロ(そしてパウロ及びヨハネ)も使徒で、預言者でもあった。彼らは来るものを予言するように感銘を受けた。旧約聖書の預言者達のように、彼らは言葉に導かれ、象徴的な言葉を使った。イエスが示唆したように、神は、時が来ると、適切な僕を立ち上げて、その予言を解説している(マタイ 24: 45-51)。今、これらの預言の見解は、信仰の世帯のための「時に応じて食事を与える(賢い忠実な管理人)」である。

燃やされることを誇りに思う者の 虚栄心

預言者マラキ(4: 1)は、エホバのこの日を同じ火の象徴を用いて語っている。「炉のように燃える日が来る。その時すべて高ぶる者と、悪を行う者とは、わらようになる。その来る日は、彼らを焼き尽して、根も枝も残さない。」虚栄心と抑圧者は大いに貶められるだろう。最終的には、ミレニアル王国時代には、その規律と利益を拒否する者は、自らの誇りで滅びるだろう(啓示 20:7-9)。

一方、主の人々は浄化され祝福される。過ちと性格の不純物は燃え尽きて、「金と銀」のように純化される。誇りを持った者でも、虚栄心を手放すクリスチャンは、「火のなかから」救われ(ユダ 1:23)、浄化される。

「見よ、わたしはわが使者をつかわす。彼はわたしの前に道を備える。またあなたがたが求める所の主は、たちまちその宮に来る。見よ、あなたがたの喜ぶ契約の使者が来ると、万軍の主が言われる。その来る日には、だれが耐え得よう。そのあらわれる時には、だれが立ち〔挑戦し〕得よう。彼は金をふきわける者の火のようであり、…彼は銀をふきわけて清める者のように座して、レビの子孫を清め、金銀のように彼らを清める。そして彼らは義をもって、ささげ物を主にささげる(マラキ 3:1-3)。」

明らかに、「火」は偉大な利益ための清めの影響力を表している。使徒パウロはまた、クリスチャンの信仰と性格を浄化するために、「火」を象徴的に言及している。

「この土台〔キリストの贖い〕の上に、だれかが金、銀、宝石〔神の真実とそれに一致する性格または〕木、草、または、わら〔従来のエラーと対応する不安定な性格〕を用いて〔性格を〕建てるならば、それぞれの仕事は、はっきりとわかってくる。すなわち、かの日は火の中に現れて、それを明らかにし、またその火は、それぞれの仕事かどんなものであるか〔ペテロ 1:5-11〕を、ためすであろう。もしある人の建てた仕事とそのまま残れば、その人は報酬を受ける(コリント第一 3: 12-14)。」

キリストの贖いの「基盤」に基づいて構築されたが、建物中に不注意になる者は皆、神は慈悲深く回復することができる。「その仕事が焼けてしまえば、損失を被るであろう。しかし彼自身は、火の中をくぐってき

た者のようにではあるが、救われるであろう(コリント第一 3:15)。」しかし、聖霊によって「一度啓発され」た後、意図的にキリストを拒絶し続けている者は、「またもや神の御子を、自ら十字架につけて、…ふたたび悔改めにたち帰ることは不可能である(ヘブライ 6:48; 10:26 -31)。彼らは「第二の死」の対象となる(啓示 20: 6)。

王国の導入の問題

シナイの法規約の発足は、キリストの王国が開かれた時の、世界のための新しい契約の導入の劇的な概念だった(ヘブライ 12: 18-29)。モーセが、燃え広がり、ラッパが響き、揺れるシナイ山で法律を受け入れる代わりに、私達は、「新しい契約の仲保者(24 節)」であるイエスと一緒に「シオンの山(22 節)」に来た。エホバの日の悩みが象徴的に述べられている。

「あの時には、御声が地を震わせた。しかし今は、約束して言われた、『わたしはもう一度、地ばかりでなく天をも震わそう。』この『もう一度』という言葉は、震われないものが残るために、震われるものが、造られたものとして取り除かれることを示している。このように、わたしたちは震われない国を受けている。」

このように、嵐、火、震えは、神についての人間の誤った考えや、何が良いかという社会の推定の解除を象徴している。揺れがその役目を果たしたとき、悩みの暗い夜は決して揺れることのない正義の王国の栄光の輝きに道を開くだろう(マタイ 13:43)。

詩編の中で、預言者のダビデも、イエスの卓越した統治を紹介する悩みの日を鮮明かつ象徴的に記述している。

◆ 詩編 50: 3「われらの神は来て、もだされぬ。み前には焼きつくす火があり、そのまわりには、はげしい暴風がある。」

◆ 詩編 97:2-5「雲と暗やみとはそのまわりにあり、義と正とはそのみくらの基である。火はそのみ前に行き、そのまわりのあだを焼きつくす。主のいなずまは世界を照し、地は見ておののく。もろもろの山は主のみ前に、全地の主のみ前に、ろうのように溶けた。」

嵐と火はまた、聖書の最後の預言、エホバの日は、あらゆる悪の形に災厄と破壊をもたらすことを示すために、啓示の書にも使用されている。1つのシンボルでは、その日は「戦い」だということ(啓示 16: 14-16)。別のシンボルでは、「地のぶどう」を収穫した後、王の中の王は「神の激しい怒りの大きな酒ぶねに投げ込んだ(14:14,18-20)。」イエスが「白馬」に乗って征服しているところが描かれている(19:11-16)。ゲロゲロ鳴く3匹のカエル(16:13)獣(19:19)「火の池」(19:20; 20: 10,15†)、「ワインプレス」(14:19, 20; 19:15)―これらの全てが象徴的である。

啓示の書 11:17,18 では、主が大いなる権力を握る時をエホバの日と呼ぶ。「諸国民は怒り狂いましたが、あなたも怒りをあらわされました。」

啓示の書 19:15 では「諸国民を打つために、鋭いつるぎが出ていた。彼は、鉄のつえをもって諸国民を治める」だろう―文字通りの棒ではなくただ厳格で厳しい正義で「わたしはその悪のために世を罰し、その不義のために悪い者を罰し、高ぶる者の誇をとどめ、あらぶる者の高慢を低くする(イザヤ 13:1-11)。」

これらの様々な文章に使用されている多様なシンボルは、私達はその偉大で注目すべきエホバの日の全ての特徴をよりよく理解するのに役立つ。

高まる現在の危機

終わりの預言が、私達の目の前で展開している。確かに、世界には常に問題を抱えていたが、今は異常なトラブルの時である。諸国が平和を強く求める一方、不安は世界各地でより強くなっている。豊かさ、傲慢と誇りは片側にあり、別の側には貧困が広く圧倒し、鋭い不当の感覚がある。裕福な人たちは何千人もの雇用を提供し、事業リスクを引き受けるため正当だと感じている。一般人は、失業とコストの上昇に苛まれ、更に必死になる。しかし両者は、利己的な動機に触発されている。人々の労働集団である「海」の「波」は、地上の裕福な人たちを激しく怒らせている。有難いことに、神の計画を知ることによって、聖書が私達に確固たる希望を与えてくれる。「神は私たちの隠れ家、また力、苦難にあえぐ

†「火の湖」というシンボルは、「火の池は第二の死です(啓示 20:14)と私たちのために直接解釈される。

ときの確かな助けです。ですから、たとえ全世界が破裂し、山々が崩れ落ちて海に沈むようなことがあっても、怖がることはありません。海よ、鳴りとどろき、白くあわ立つがよい。山よ、激しく揺れ動くがよい。国々は怒り狂い、わめき散らします。しかし、神のひと言で大地は溶けて服従し、王国はよろめき倒れます。世界のすみずみまで戦争をやめさせ、武器という武器を残らず破壊し、焼き捨てられます。『よく聞きなさい。わたしこそ神であることを、よくよく知りなさい。わたしは全世界でほめたたえられる』(詩篇 46: 1-3, 6, 9, 10 JLB)。」

前世紀には、知識、発見、発明の潮流があり、一般の人々でさえ、恩恵を受けていたが、均等ではなかった。

労働組合は労働者に利益をもたらした。しかし、自動化、ハイテク技術の進歩、安価な労働市場への外部委託が、地元の労働者に課題をもたらしている。需要が要求を上回ると、過剰生産と失業のサイクルが緊張をもたらす。そうすると、利益が削減されるので、金持ちは苦しんでいる。そして、賃金労働者は保護法を求め、場合によっては労働需要が暴力によって表現される。

巨大企業と企業連合は、技術の氾濫に伴い成長を続けている。金融緩和の雰囲気の中で、多くの労働者は、借金の勢力によって激浪で下に掃引きされる。当初、全ての人が共有した恵みは、実際には紛争を遅らせたが、資産のバブルの創造と破裂は、非常に経済的不安定性につながった。世界経済が回復できない危機を想像するの

は難しくない。

多数提案された救済策

多くは、生産者および労働者のための 21 世紀の提案された救済策で、過度の膨張と過剰消費から縮小及び購入削減に移行するものである。

労働者は閉じ込められている。労働力を減らすことは、失業者をだしたり、解雇した人の負担となる。組合は労働者の改善のために活発かつ成功裏に働いたが、世紀は労働組合が大幅に弱体化して終わり、多くの企業の経営幹部は過度に補償され、法の制限はなかった。

1 つの提案された解決策は、特定の産業が庶民の財産になり、公務員によって運営されるというものである。20 世紀には、弱まった鉄道が彼らの生き残りを保証するために政府の財産となった。最近では、米国の金融機関は、政府への義務を負わずに何兆ドルもの納税者の資金で救済されている。

多くの大衆は、テクノロジーブームの利益と恩恵をもっと均等に分かち合うべきである。しかし、割高な株、サブプライムローン、過度の信用と保険のような金融市場の操作は、世界でこれまでに見られた最も広範囲に及ぶ金融危機の 1 つに貢献している。なぜそんなに広範囲か？ グローバル化は、世界中の金融市場と生産手段を相互にリンクしている。世界の一方の金融市場が崩壊すると、他方の側で危機の問題が発生する。中国、ロシア、米国の鉄鋼業界は、

世界的な景気後退の前兆を感じている。どの国にも忠誠を義務づけていない多国籍企業の巨人は、実質的に法の外で活動しているのである。彼らは他の法律を濫用しながら一方の管轄からの保護を主張するのである。多国籍企業や複合企業に採用されている労働者は、そのような巨人に対する防衛はほとんどない。

「黄金律」が実施されれば、すぐに救済が期待できる。「人々からしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりにせよ。」金持ちが大衆のために協力するなら、人々は妥当な要求をするかもしれない。しかし、企業間の競争の恐れが、経営陣の寛大さを制限する可能性がある。労働者に同情している富裕層が時間を短縮し、賃金を増やせば、競合企業はそれらを安すぎる値段で売るだろう。金融災害が続くだろう。先ず彼らに、そのあと直ぐに従業員に。需給の鉄則は、人間の本質的な利己主義と一緒に働いて、その時代を支配するのである。

グローバル化に伴い、一部の労働市場はより少ない賃金で長い時間労働を望んでいる。欧米の雇用形態が縮小されても、西側の生活様式は東側の安価な労働力によって支えられ、低コストの製品を提供する。そのような系統が、何十年にもわたって社会に吸収されてきたことは、注目に値し、そして幸運なことであるが、この状態は無限に続くことはありえない。

自然の原因の結果

このように、私達はこの「エホバの日」のトラブルの自然な原因を見ている。利己主義は両側の大部分をコントロールし、傲慢な者がコントロールを得る。解雇された何千人もの人が死に物狂いになり、要求は抵抗され、一般市民は資本に不信感を抱くだろう。結局のところ、法律と秩序は、「山」が嵐のような「海」に飲み込まれるように流されてしまうだろう。象徴的な「地」(社会)と「天」(教会の規則)はどちらも破壊するだろう(ペテロ第二 3:7)。地上の政府と手を組む名目上の教会もまた、この「エホバの日のクライマックスに象徴的な意味で火」によって破壊されるだろう(啓示 18:9)。

この問題の目的全体は、利己主義が支配する限り、人間の計画は無駄であると人に教えることである。人は、仰向け倒れていると、ようやく上を見ることができる。キリストのミレニアル統治は強く公正で、「鉄のつえをもって諸国民を治め」る(詩篇 2:7-9、啓示 19:15)。」

古い命令にバッチを当てる代わりに、人類は「[神の]律法を彼らのうちに置き、その心にするす」「新しい契約」から恩恵を受けるだろう。これがなされると、「人はもはや、おのおのその隣とその兄弟に教えて、『あなたは主を知りなさい』とは言わない。それは、彼らが小より大に至るまで皆、わたしを知るようになるからであると主は言われる。わたしは彼らの不義をゆるし、もはやその罪を思わない(エレミヤ 31:33, 34, 口語訳)。」

問題を完全に免れる者はいない。しかし、謙虚に義を求める「従順な」人は、他の人より苦しみ — 特に擾乱恐怖や不吉な予感 — が少なくなるだろう。「主を求めよ。正義を求めよ。謙遜を求めよ。そうすればあなたがたは主の怒りの日に、あるいは隠されることがあろう(ゼパニヤ 2: 3, 口語訳)。」

「人々は世界に起ろうとする事を思い、恐怖と不安で気絶するであろう。もろもろの天体が揺り動かされるからである。そのとき、大いなる力と栄光とをもって、人の子が雲に乗って来るのを、人々は見るとであろう。これらの事が起りはじめたら、身を起し頭をもたげなさい。あなたがたの救が近づいているのだから(ルカ 21:26-28, 口語訳)」。問題の結果が間近いことを聖書から理解する人々は、喜ぶだろう。

突然「苦しみ」—しかし 24 時間 ではない

エホバの日は 24 時間ではない。現在の福音時代の終わりの時期である。それは、この世の王国からキリストの王国に移る時である。トラブルは、女性の分娩における陣痛と比較され、平和の間隔に悩まされる痙攣を特徴とする。そして間隔が短くなり、痛みが大きくなる。第一次世界大戦が、最初の激痛で、続いて第二次世界大戦、冷戦、中東の危機、そして絶え間ない成長不安が続き、アルマゲドン闘争の最長期に達する(啓示 16:16-21)。

そのアプローチが世界で通常に認められていないという意味で、「夜の泥棒」として

来たのである。「あなたがた自身がよく知っているとおりに、主の日は盗人が夜くるように来る。人々が平和だ無事だと言っているその矢先に、ちょうど妊婦に産みの苦しみが臨むように、突如として滅びが彼らをおそって来る。そして、それからのがれることは決してできない(テサロニケ第一 5: 2, 3, 口語訳)。」

大衆が痛みに苦しんでいると、文明の紐はやがて結局は崩壊するだろう。法と秩序が行き詰まり、政治的混乱が生じるだろう。この「世の初めから現在に至るまで、かつてなく今後もないような大きな患難(マタイ 24:21 口語訳)」は困難だが、イエスはそれが決して繰り返されることはないと言っている。旧制度は絶えるだろうが、「生まれるもの」— 全人類の王国は美しいだろう！「義の住む新しい天と新しい地(ペテロ第二 3:13)」は、正義と愛によって永遠に支配されるだろう。

イスラエルのエジプトの大厄災からの救済は、モーセの予言した偉大な指導者、イエスによる世界の解放をよく示している。エジプトでの災害を一時的に取り除くことは、ファラオの心を固め、彼の抵抗を強化した。同様に、今日の「苦しみ」の痙攣の間の平和の介在期間(出エジプト 5: 4-23; 12: 30-33)は、多くの人々の抵抗を強化し、次の打撃をより困難にする傾向がある。名目上の教会もまた、「大厄災」を被り、裁かれるだろう(啓示 18:7-9)。最後の大厄災では、「大地震」— 革命 — が起こる。この時、「大いなるバビロン(キリスト教国)は陥落し、島々

〔共和国〕はみな逃げ去り、山々〔君主制〕は見えなくなった(啓示 16:18-20)。」

神の時

私達は、法と預言者の証言から — イエス及び使徒達と同様 — エホバの日の問題が既に私達に迫っていることを知っている。6,000年の間、人類は罪と死の下で労苦を強いられてきた。「死ぬまで汗水流して土地を耕し、働いて糧を得、そしてついに死に、再び土に帰る。土から造られたのだから、また土に帰らなければならないのだ(創世記 3:19, LJB)。」この呪いは人類の最高度の利益のためだった。それは、歪んだ傾向から人々を守っていた。罪のために怠慢が人々をトラブルに更に迅速に陥れただろう。今では、省力化された機械が多くの人々の肉体的負担を取り除いている。発明と啓発の増加に伴い、栄光の救世主のミレニアル時代に近づくにつれて、人間は何でありえるかという可能性を味わっている。それに対する甘い希望は、更に多くの人々の興味と憧れをかき立てる。これは「また国が始まってから、その時にいたるまで、かつてなかったほどの悩みの時(ダニエル 12: 4,1)」を突きつける要因の一つである。このように、ミレニアムの夜明けには、先進的な教育、技術、科学の最初の効果もたらされた — しかし、現在の罪深い状況において人類が自分を支配できないという教訓もたらす。技術の向上は、世代ごとに過去の時代の死者が地上の現在の人口を増やすように、

王国時代の人類の事務を管理するのに役立つだろう。しかし、それは初め、世界を危機に向かって駆り立てる。

「鉄のつえ」その危機の時に現在の機関を破壊し、キリストの王国が地上に定着する道を開くだろう。そうすれば、世界は元の完全性と永遠の命を回復するだろう。この王国は、心を変えることにより、人を内側から対応するために功を奏するだろう。

聖人の特権及び責任

神の民は同じ不安と、世界を広げる絶望的な恐怖を感じることはないだろう。彼らは、問題を、世界の祝福の紹介だと理解している。彼らは問題を共有するかもしれないが、それに続く栄光の結果を信じて喜ぶだろう。

世俗的な人々の間で不満が発生するだろう。しかし、主の人々は、隣人、仕事仲間、家族に満足感を与える例でなければならない。「信心があつて足ることを知るのには、大きな利得である(テモテ第一 6:6, 口語訳)」多くの人がより多くの恵みと便利さを味わっているが、貧しい世界は、現実と想像の両方の不正の下で嘆願している(ローマ 8: 19,22)。

人々は、富を掴もうとしている。そして、富を持つ人達は、不満を持ち、さらに富を掴もうとする。しかし、聖人達はこの貧欲な闘いには参加してはならない。彼らの奉獻の誓いは、天大志のために走り、イエスと使徒の模範に従うことだった。家族のために優れて誠実なものを提供し、「すべての人

と平和に過ごす(ローマ 12:17,18)。― 彼らは「天に、宝をたくわえ」てるのである(マタイ 6:19,20)。」

残念ながら、神の子供の全てがそのような平和と満足感を持っているのではない。イエスの足跡を離れ、世俗的なものを探す人もいる。私達は代わりに世界が与えることも奪うこともできない平和を追求すべきである。主の人々は、神の恵みと神の平安のために努力しなければならない。

「しかし、信心があつて足ることを知るのは、大きな利得である。わたしたちは、何ひとつ持たないでこの世にきた。また、何ひとつ持たないでこの世を去って行く。ただ衣食があれば、それで足れりとすべきである。富むことを願い求める者は、誘惑と、わなとに陥り、また、人を滅びと破壊とに沈ませる、無分別な恐ろしいさまじまの情欲に陥るのである。金銭を愛することは、すべての悪の根である。ある人々は欲ばって金銭を求めたため、信仰から迷い出て、…しかし、神の人よあなたはこれらの事を避けなさい。そして、義と信心と信仰と愛と忍耐と柔和とを追い求めなさい。信仰の戦いをりっぱに戦いぬいて、永遠のいのちを獲得しなさい。あなたは、そのために召され、多くの証人の前で、りっぱなあかしをしたのである(テモテ第一 6:6-12、口語訳)。」

聖人たちは、近づいている神の王国とその満足する祝福の喜ばしい予感の生きている模範となる。私達の使命は、問題の両側に懸念される問題に関与しない一方で、全民のための贖いの良い知らせを説くこと

である。この到来する王国の良い知らせを目の当たりにするため、全ての機会と状況を利用すべきである。「よきおとずれを伝え、平和を告げ、よきおとずれを伝え、救を告げ、シオンにむかって『あなたの神は王となられた』と言う者の足は山の上にあつて、なんと麗しいことだろう(イザヤ 52:7)。」

この「エホバの日」の問題は、来るべき王国を宣べ伝える素晴らしい機会をもたらす。しかし、私達は社会的な質問や救済策について、政治的な肯定的なアイデアを取って、差し迫った大惨事を修正することはしない。私たちの使命は、唯一の可能な救済手段として― また、全人類の唯一の希望としての神の王国を、落ち着いて、静かに自信をもって主張することである。主の民の思いやりは、貧しい嘆きの創造物の全てにある。私達は、全ての悩みは短期間の前兆にすぎないことを知っているので、心配し、怯える人達に安心させることができる。

「あなたのさばきが地に行われるとき、世に住む者は正義を学ぶからである(イザヤ 26:9)。」「万軍の主はこの山[王国]で、…主はとこしえに死を滅ぼし、主なる神はすべての顔から涙をぬぐい、その民のはずかしめを全地の上から除かれる。これは主の語られたことである。その日、人は言う『見よ、これはわれわれの神である。わたしたちは彼を待ち望んだ。彼はわたしたちを救われる。これは主である。わたしたちは彼を待ち望んだ。わたしたちはその救を喜び楽しむ』(イザヤ 25:6-9、啓示 21:4)。」

◆ 研究 16 ◆

レビュー——そして責任

自然と啓示の両方の研究で見えてきたように、私達には、賢明で知的であり、全能で正しい創造主がいる。聖書は、人類のための神の性格と計画を啓示している。それを通して、私達は、悪が許されているとはいえ、それは非常に良い目的のためであり、限られた時間内であることを学んだ。この地上の闇と苦しみは、すぐに神の栄光と豊かな恵みに置き換えられるだろう。

時代を通じて、神の偉大な計画は、静かに、しかし壮大に進歩した。人類が罪と苦しみを経験した 6,000 年の経験は、個人個人が命の裁判にかけられる際に、大きな利点になると証明されるだろう。1000 年の審判の日には、人類の裁判官は、まさに私達のために死んだ人だろう（ヘブライ 2: 9）。イエスの忠実な信者は、キリストと共に栄光のうちに高められ、王国をイエスと共に管理するだろう（コリント第一 6:2）。地上では、古代の名士達が、彼の人間の代表者になるだろう（イザヤ 1:26; 詩編 45:16）。これは、神がアブラハムに約束したように、「地のもろもろの国民」が祝福を受けることを意味している（創世記 22:18、ガラテヤ 3:29、ゼカリヤ 8:13）。

人類は「ハイウェイ」で神に戻る

狭い道の代わりに、壮大な「聖なる道」が

世界中で開かれるだろう。すべてのつまづきの石と落とし穴がなくなる。「そこには、しし[サタン]はおらず、飢えた獣[破壊的な影響]も、その道にのぼることはなく、その所でこれに会うことはない（イザヤ 11: 9; 35: 8,9; 62: 1-3）。どのような性格が以前に播種されたかに応じて、進歩を遂げるのが早い者もあれば、遅い者もいるだろう。「主にあがなわれた者は帰ってきて、その頭に、とこしえの喜びをいただき、歌うたいつつ、シオンに来る。彼らは楽しみと喜びとを得、悲しみと嘆きとは逃げ去る（イザヤ 35:10）。」

裁きの日、世界の支配者が再び来るまで始まらない。審判は、裁判官（イエス）がベンチ上にあり、裁判所（花嫁クラス）が開催になるまで進めることができない。その日、「彼らはわが聖なる山のどこにおいても、そこなうことなく、やぶることがない。水が海をおおっているように、主を知る知識が地に満ちるからである（イザヤ 11:9）。」その時、聖書の「書物」が開かれ、世界はその原則と基準から裁かれるだろう（啓示 20: 11-12）。アダムに「死んでいる」人は皆、「生命の書」に自分の名前を記してもらい機会がある。正しく生きる人は、完璧な社会の中で永遠の命にふさわしいと判断される。

神の計画についての知識が癒しをもたらす

一方、神の聖別された子供達が、今日世界で起こっていることを見ると、神の御名、約束、計画について知ることに慰められる。私達は救済に近づいていることを知っている、「見上げて」喜ぶことができる。それは、世界のための救済を意味する(ルカ 21:28)。私達はまた、世俗的な心配事や個人的な弱点から離れ、私達の不完全さを補うためのイエスの贖いの価値の価値を主張する。神の約束があれば、私達は、キリスト教の人格を養うように努める一方、それらを求め、神聖の報酬を受けるために努力する。ピーターがそれを表明したように。

「過分のご親切と平和が、神およびわたしたちの主イエスについての正確な知識によってあなた方に増し加えられますように。それは、その神からの力が、栄光と徳とによってわたしたちを召された方についての正確な知識を通して、命と敬虔な専心に関するすべての事柄をわたしたちに惜しみなく与えたからです。またその[栄光と徳と]によって、貴く、しかも極めて壮大な約束を惜しみなくわたしたちに与えてくださり、それによってあなた方が、欲情のゆえに世にある腐敗から逃れて、神の性質にあずかる者となるようにされました(ペテロ第二 1: 2-4)。」

神とその計画の知識を求める際、私たちの誠実さが試されている。私達は、神の素晴らしい計画を自分たちで証明するた

めに聖書を検索する時間を見つけるだろうか？ 私たち自身の理論と見解を放棄し、偏見なく聖書を勉強していきましょう？ 真理を追求するにあたって、すべてを天の御父に与えることを約束しているか？ 必要に応じて、友情やその他の人達との関係を喜んで犠牲にするつもりか？ (ルカ 18:28-30)福音時代の現在の収穫期の間、試しの「誘惑の時」になった(マタイ 13:39、啓示 3:10)。私達はどのように対応するだろうか？

神の計画に対する私達の愛は、この貴重な真理をそれを受け入れる信者のものと分かち合う決意とエネルギーを私達に与えなければならない。私達は世界がそれに感謝するとは期待していない(ヨハネ 3:1)。彼らは私達を「愚か者」と考えるのである(コリント第一 4:10; 3:18)。しかし、パウロの時代の崇高な「ベレヤ人」のように、「準備のできた心で」真理を受け取り、彼らの証言を理解するために、「毎日聖書を」検索しよう(使徒 17:11)。 真実の価値を理解すれば、神の愛のこもった計画は、私達の生活の非常に興味深いテーマになるだろう。

神の計画 協和的で完璧

神の神聖な計画は完全であり、全ての部分で調和している！ 人間の発明を超えて、私達の驚くべき神の知恵、正義、愛、力を表している。それに関する正当な質問で回答の必要のないものはない。他の

人々は、自分達の信条を、説明不可能な聖書の中で聖人たちに明らかにされた「謎」—しかし真実を伴わずに—と想定している。

人の信条におけるさまざまな誤りを認識する牧師の中には、この問題を無視して「社会福音」を宣伝する人もいる。悲しいことに、偽の教義が真実を隠し、さらに神の性格に影を投げかける。また、エラーは心の浄化を妨げる(ヨハネ 17:17)。従って、なおさら、神の世々の計画の全ての美しさと明確さを尊重し、よく見られる偽の文書は見捨てるように注意しよう。

真実は、開示されているように、全ての主の民のための「時に応じた食物」になる(マタイ 24:45)。「正しい者の道は、夜明けの

光のようだ、いよいよ輝きを増して真昼となる。正義者の道は、輝く光のように、完璧な日にますます輝く(箴言 4:18)。」他の研究は、神の一つの計画のあらゆる部分についてより詳細に精緻化している。聖書の無比の調和は荘厳である。

しかし理解は責任をもたらす。真実の光は、受け取られ、それに応じて行動—又は拒否しなければならぬ。さらに、私達は「暗黒と死の陰とに住む者を照す」ように強いられている(ルカ 1:79)—特に、「信仰において結ばれている人たち(ガラテア 6:10, 新世界訳)」の全てを対象としている。忠実な監督として、私達は、世々の神の大計画の素晴らしい成果を指し示す「標準を高揚させる」必要がある。